

遊戯王GXに転生

キメラテックの旦那

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

自分のデツキ（6つ）（と言ってたな、あれは嘘だ）をGXのストーリーで組み込みたいなあって思ってた作りました、基本的にはストーリー展開の邪魔にはならない程度にしておきたいですね…そんな時期も私にはありません

目次

番外編

11月9日 | 1

アカデミア篇

1話 転生！入試デュエル！

7

2話 絶望の魔人！復活！ | 15

3話 帝王降臨!?! | 27

4話 2つの冤罪 | 38

5話 究極の融合 | 61

6話 水面のスターマン | 72

7話 闇のデュエルと精霊 | 95

8話 予想外のタッグ前編 | 101

9話 予想外のタッグ後編 | 123

10話 熱血？青春デュエル | 135

11話 究極の精霊 | 151

12話 秘密の会議 三幻魔人間化

!?! | 185

13話 誘拐ハネクリボー | 195

14話 対決！武藤遊戯!?! | 227

15話 恋する乙女と恋する乙女

254

16話 まさかの三つ巴！三沢VS十

代VS瑠璃！（前編） | 274

17話 まさかの三つ巴！三沢VS

十代VS瑠璃！（後編） | 294

18話 瑠璃のエース
|
19話 参戦! 対抗戦!
|

311 303

番外編

11月9日

瑠璃「うーん、どうしたものか」

あ、どうも遊条瑠璃です。実は私の部屋にいくつか今日渡されたプレゼントがあるのです

瑠璃「えーつとこれが明日香からかあ…んえ？何これ？」

私が明日香からプレゼントされたのは服…なのだが、なんて言うか、少し攻めてる服だと思う、別に痴女のような服じゃないが、私としてはちよつと着にくいなあ、肩出し短パンだし、ニーソ…これを着ると？

明日香「はい、誕生日プレゼント」

瑠璃「お、服？ありがとう！」

明日香「開けてからのお楽しみにしてみたわ、後亮…カイザーの前で着てみると良いわ」

瑠璃「???」

着れるかアアアアア!!?

無理無理無理! 攻めすぎだつて! つてか私は別にカイザーにそんな感情は……ま、まあとにかく、次はジュンコから貰ったプレゼントだ……ん?

瑠璃「えっこれ……ボックス?」

プレゼントされたのはデュエルモンスターズのパック、しかもボックスであった

瑠璃「確かこつちのパックは1つ500円……ボックスつて確か1000パックだったはず……」(作者独自の設定です)

瑠璃「となるとこのボックスつて……5万円?……5万円!」

一気に開けずらくなつてしまった

ジュンコ「はい、これプレゼント」

瑠璃「おお、箱物かあ、ありがとね!」

ジュンコ「私も喜んで貰えて光栄よ」

さすがに5万も使うのは少し……いや、なんて言うか友達の域を超えてると思う……何だ

か残りの人たちも不安になってきた…

瑠璃「モモエのプレゼント…これは紅茶の箱、これはクッキー…これはティーセット…これ私の部屋でお茶する気だろ…」

モモエ「瑠璃さん！これ、誕生日プレゼントですわ！」

瑠璃「うん、ありがとう…でもこれなんか色々あるけど…こんなにいいの？」

モモエ「ええ！これは私の感謝の気持ちでもありますわ！」

瑠璃「そ、そっか、ありがとうね！」

瑠璃「次は…三沢くんか…」

なんか問題集とかくれそうな勢いだな

瑠璃「…やっぱりか」

三沢「確か今日が誕生日だったはずだ、俺が愛用しているものを共有しようとも思っ
てな、まあとにかく、プレゼントだ」

瑠璃「うん、ありがとう」

やはりプレゼントされたのは数式の教科書…参考書…その他諸々、まあ貰ったものは貰ったものだ、少し読んでみよう

ペラツ…ペラツ…：…：…ペラツ…

瑠璃「…はっ!？」

読みすぎた、普通に面白いなこれ…つと、これ以上は他のプレゼントが開けられなくなりそうだ（時間的に）

瑠璃「つと、これは十代かあ…：…こ、これは!？」

十代からのプレゼント、それは服…ズボン…長袖のジーンズ!!!ステテコもあるぞ?!
しやアアア!!よし着よう!今すぐ着よう!

瑠璃「ああ♪これこれ♪」

まさか十代が私が欲しいものをここまでピンポイントでくれるとは

十代「おーい!瑠璃ー!」

瑠璃「お！十代！」

十代「ほら、これプレゼント！瑠璃が欲しそうな選んできたぜ！」

瑠璃「ホント!?ありがとう！」

マジで欲しいのが来て驚いた…ちなみに十代から貰ったステテコのズボンはずぐに着た…次は…カイザーか…

瑠璃「何だろう？ホントに想像ができない…」

プレゼントを開けると…

瑠璃「ん？これって…

この先の話はもう少しあとの話である

アカデミア篇

1話 転生！入試デユエル！

？

テキストの内容を省いたりしてたり、色々と間違いがあるがしれませんが、生暖かい目で見てくれれば幸いです

まあよく言う転生というものをしたんだが…

おっと名前を名乗るのが先だった、一応今世の名前でだけど名前は遊条 瑠璃（ゆうじょう るり）女の子にされた元男の転生者だ

この世界は遊戯王の世界、のGXの世界だ、まさかGXの世界とは…実際そんなに知らないんだよなあ

そんなこんなで今現在猛ダツシユでございませうんでかって？そんなのわかるでしよ…寝坊です

瑠璃「まじったなあ、この調子じゃ着く頃には十代の到着と同じぐらいになっちゃう

なあ」

そうこうして着いたものの

??? 「お? お前も遅刻か?」

聞きなれた:と言うより知っている声が聞こえた

十代 「俺、遊城十代! よろしくな!」

瑠璃 「遊条瑠璃、よろしくね」

まさか初日に、しかもこんなばつたりとは:

クロノス 「早く来るノーネ! ドロップアウトボーイ!」

十代 「お? 俺のことか? じゃあな! 瑠璃!」

瑠璃 「じゃあね、十代」

:心臟飛び出ゆかと思つた、囁んだわ

嫌だつて到着してちよつと経つてから遭遇とは思わないでしょ

デュエルの結果は言わずもがな、フレイルムウイングマンのスカイスクレイパーシュー
トと効果ダメージでクロノス先生の敗北:やばい次だ

クロノス 「んっんっんっ、さつきいワ不意をつかれましたーが、今度はそうは行かな

いノーネ！ドロップアウトガール！」

瑠璃「私も、そう簡単には行きませんよ？」

クロノス&瑠璃「デュエル！」

クロノス「先攻はワタクシが、ドローナノーネ！」

クロノス「カードを2枚セット、そして大嵐を発動するノーネ！」

瑠璃「いきなり!？」

クロノス「ワタクシがセットしていたのは、黄金の邪神像！効果で破壊されたことに
より、邪神像トークンを特殊召喚！」

クロノス「そして、この2体を生贄に、現れるノーネ！古代の機械巨人!!」

古代の機械巨人

レベル8

地属性 機械族

ATK3000

DEF3000

このカードは通常召喚でのみ召喚することができる

このカードが守備表示のモンスターを攻撃した場合、そのモンスターの守備力を超えている分の攻撃力を相手に与える

クロノス「これでターンエンドナノーネ」

瑠璃「まずいなあ、初手に古代の機械巨人は」

クロノス「フフウン、ドロップアウトガールにい?このモンスターを倒せるなんて考え自体おがましいノーネ!」

翔「いきなり8星モンスター!?!」

三沢「いくらなんでも:張り切りすぎじゃないか?」

十代「おお!すげえ!あの先生一気にあのモンスター出しやがった!」

瑠璃「こつちはピンチなんだけどなあ:まあいつか、ドロ!」

瑠璃「フフ、これじゃ勝ちかな?」

クロノス「何を言ってるノーネ?古代の機械巨人を倒せるモンスターなんてそうそういない」

瑠璃「誰が倒すって言いました?」

瑠璃「私は相手フィールドのモンスターの数より、自分フィールドに存在するモンスターが少ない場合、ダイナレスラー・パンクラトプスは特殊召喚できる！」

ダイナレスラー・パンクラトプス

レベル7

地属性 恐竜族

ATK2600

DEF0

①このカードは相手フィールドのモンスターの方が多い場合特殊召喚できる（ターン1）

②「ダイナレスラー」モンスターをリリースすれば相手フィールドのカード1枚破壊
翔「生け贄なしに7星モンスター!？」

瑠璃「驚くのはまだ早いですよ?さらに!私のフィールドのモンスターの総攻撃力が相手より低い場合、獣王アルファを特殊召喚!」

獣王アルファ

レベル8

地属性 獣族

ATK3000

DEF2500

自分フィールドのモンスターの攻撃力の合計が相手フィールドのモンスターの攻撃力の合計より低い場合特殊召喚できる

①自分フィールドの獣、獣戦士、鳥獣族を任意の数手札に戻すと相手の表側のモンスターをその数まで手札に戻す（このターン獣王アルファは直接攻撃できない）

三沢「8星まで、だど!？」

瑠璃「まだまだア! デッキトップ8枚除外! これによつて機巧蛇—叢雲遠呂智を特殊召喚!」

機巧蛇—叢雲遠呂智

闇属性 機械族

レベル8

ATK2450

DEF2450

①②は1ターンにどちらかしか発動できない

①デッキトップ8枚除外で手札、墓地から特殊召喚

②EXデッキ3枚を除外してモンスター1体破壊

十代「すげえ! 最上級モンスターばっかだ!」

モブA「万丈目さん、あの新入生どう思いますか？」

万丈目「フン、所詮はただの女、この万丈目様の相手ではない」

瑠璃「次はこれ！強欲で貪欲な壺！」

強欲で貪欲な壺

通常魔法

デッキトップ10枚除外して2枚ドロ

クロノス「な、なぜデッキをそこまで削るのデスーカ？私には理解できないノーネ」

瑠璃「よし！これで準備はOK！紅蓮魔獣 ダ・イーザを召喚！」

紅蓮魔獣 ダ・イーザ

レベル3

炎属性 悪魔族

このカードの攻撃力、守備力は除外されている自分のカードの数×400となる

万丈目「フハハハ！所詮雑魚を守るための壁にあんな上級モンスターを並べてたのか

!?!これはとんだお笑いものだなあ!?!」

聞こえなくてもわかるよ、バカにしてんだらうなあダ・イーザ先輩を

翔「あんなにたくさん召喚してたのに…3星つて…」

三沢「いや、あの魔獣、アイツこそ真のエースだ」

翔「え?」

なるほどなるほど、三沢くんはもう気づいてるようだね、この盤面の事を

クロノス「フオフオフオ!まさかこんなに最上級モンスターを出したのに、レベル3の魔獣だなんて、お笑いものなノーネ!」

瑠璃「なるほどお、なら獣王アルファの効果を発動しときましようかね、獣王アルファを手札に戻し、クロノス先生の古代の機械巨人をクロノス先生の手札に戻します!」

クロノス「オウ!ディーヨ!」

瑠璃「そしてバトル!紅蓮魔獣ダ・イーザでダイレクトアタック!」

クロノス「ノオオオオオオ!!」

こうしてクロノス先生とのデュエルの幕は閉じた…が

問題はこの先である

女子、これがいかに今から私とっての地獄の寮生活の始まりとなるのだ

2話 絶望の魔人！復活！

瑠璃「…まずいなあ、入学できたのはいいけど…」

とりあえず入学は出来た、できたのはいいんだ…けど寮が…女子寮なんだよ…

いや、別にさ、外見は問題ないんだよ、外見は、中身が問題なんだ、だって元男だよ？もしバレてみ？殺されるだけで済めばいいんだよ、下手したら社会的にも殺されるよ？

それでもって今は寮で歓迎会中です

瑠璃「そういえば…この後か」

???「あなた、1人で何してるの？」

瑠璃「で、天上院さん…別に、1人でいるのが好きなだけなんです」

まずい、人見知り発揮してしまつてる…クロノス先生とのデュエルの時は全然人見知りしなかったんだけどなあ…デュエル恐るべし

明日香「そう…そういえば貴女のデュエル、少し不思議な所があったのだけど」

まずい…逃げるか

瑠璃「私少し用事が出来たので、さよなら!」

明日香「あ!待ちなさい!」

そろそろだよな、確か…よし!明かりがついてる!

万丈目&十代「デュエル!!」

おつ、始まったばっかか

明日香「…貴方達何してるの?」

万丈目「天上院君見ての通りさ、新入生には格の違いというのを見せて自分の立場を
思い知らせるのさ」

うわあ、さすがエリート思考の頃のサンダーさん、ゾワツとくるぐらい寒気が立つ

モブA「むっ、貴様クロノス教諭を倒した新入生!」

うわつきた…いっちょ煽ってみますか

瑠璃「はい、実力!で、勝ちました、遊条 瑠璃です」

精一杯の煽り笑顔決めてやったぜ、どうや?

モブA「フツ、どうせ運という名の実力だろ? (笑)」

ほーん、煽り返すかあ、なら…デュエルを促してみよう…もちろん煽ってなあ!?

瑠璃「なら、やってみます？私の圧勝だろうと思いますが？（笑）」

モブA「な!?き、貴様ア!!オベリスクブルーをバカにする気か!」

よし乗りやがったぜこのタコ!さらに追い討ちかけっか!

瑠璃「え?馬鹿にしたつもりはありませんよ?でも、オベリスクブルーがただの女子生徒の戯言一つにそこまで怒るなんて…まるでアンタの○○○ぐらい懐大くないんじゃないんですかあ?あ、ここは○○○つて言った方がいいですかね?まあどっちにしろ小さいでしょうけど?（笑）」

○○○はご想像にお任せします

不味ったなあ、普通に純粹無垢で容姿端麗な美形女子生徒の皮を脱いってしまった…
まあ着直すつもりもないけどなあ!?

明日香「あ、貴女何言ってるの!」

おっとさすがの明日香様も赤面する内容かまあそりやそうか、下ネタだもん

モブA「貴様ア!俺とデュエルだ!負けたらこのアカデミアから出ていってもらおう!」

瑠璃「ならそつちが負けたら自分は○○○ですって大声で言ってくださいね?」

○○○もご想像にお任せします

今回は下ネタじゃないけどね

モブA 「フン! そんなのいくらでも言ってる! まあ負ける訳ないがな!!」
瑠璃&モブA 「デュエル!!」

モブA 「先攻は俺だ! ドロー!」

モブA 「俺はゴブリン突撃部隊を召喚!」

ゴブリン突撃部隊

レベル4

地属性 戦士族

ATK 2300

DEF 0

攻撃したら次のターンまで守備表示のままになる

モブA 「さらに! 装備魔法、団結の力を装備!」

団結の力

装備魔法

自分フィールドのモンスターの数×800攻撃力アップ

ゴブリン突撃部隊

ATK 2300 ▶ 3100

モブA「さらに！魔導師の力を装備！」

魔導師の力

装備魔法

自分ワールドの魔法、罨カードの数×500攻撃力アップ

ゴ布林突撃部隊

ATK3100 ▶ 4100

モブA「これでターンエンドだ！」

瑠璃「ふーん、ただ攻撃力が高いだけの突撃部隊かあ、なんか拍子抜けですね？」

モブA「馬鹿言え、今のゴ布林突撃部隊はあの青眼の白龍を凌ぐ攻撃力だ！お前の

魔獣も除外してる数が少なければ意味が無い！」

瑠璃「…誰が同じデッキを使うっていった？」

モブA「…は？」

瑠璃「私のターンドロー」

瑠璃「…！ フフフ、フハハ、アハハハハハッ!!」

翔「だ、大丈夫ですか？あの人？」

明日香「分からない、けど…単純に嬉しそうだと、私は思うわね」

瑠璃「このターンで仕留めることが出来そうですね？」

モブA「な、何を言ってるんだ!? 青眼を凌ぐ攻撃力だぞ!? そうやすやすと越えられるはずが」

瑠璃「自分の手札の、機皇と名のついたモンスターを3体を墓地に送ることにより、機皇マシンクル∞は降臨する!」

機皇マシンクル∞

レベル12

光属性 機械族

ATK4000

DEF4000

機皇モンスター3体を手札から墓地に送ると手札から特殊召喚

①相手のシンクロモンスターを吸収

②装備しているモンスターの攻撃力分のこのカードの攻撃力はアップ

③装備しているモンスターを墓地に送って発動、そのモンスターの攻撃力分のダメージを相手に与える(その代わりに自分はバトルできない)

モブA「いきなりレベル12のモンスターだと!」

翔「しかも攻撃力4000って…こんなルール無用のカードあるの!」

明日香「存在してる以上、認めるしかないわ…けど、こんなカード…今まで見た事な

い…」

おお、みんな驚いてますなあ、ならさらにサービスしなきゃね

瑠璃「さらに、墓地の機皇モンスターを3種類除外することにより、手札から、機皇神龍トリスケリアを降臨させる！」

機皇神龍トリスケリア

レベル10

閻属性 機械族

ATK3000

DEF0

自分の墓地の機皇モンスターを3種類除外することで手札から特殊召喚できる

①1ターンに1度攻撃宣言した時、相手のEXデッキを確認し、選択したモンスタを自身に装備する

②このモンスターは①の効果で装備しているモンスタの攻撃力分攻撃力をアップする

③シンクロモンスターを装備してる場合3回攻撃することが出来る

明日香「また高レベルのモンスタを簡単に…一体何者なの？あの新入生…」

瑠璃「そして、通常召喚！機皇枢インフィニティ・コア！」

機皇枢インフィニティ・コア

レベル1

闇属性 機械族

ATKO

DEF0

- ① 召喚成功時、機皇と名のついた魔法、罠カードを1枚デッキから手札に加える
- ② このモンスターは戦闘では1ターンに1度破壊されない
- ③ このモンスターが効果で破壊された場合、自分フィールドに、同じ属性がない機皇帝を召喚条件を無視して特殊召喚する

瑠璃「私は召喚時の効果で、機皇創出を手札に加え、そのまま発動!」

機皇創出

永続魔法

- ① このカードの発動の処理として、デッキから機皇モンスターを1体手札に加える
- ② 1ターンに1度手札を1枚捨て発動自分フィールドのモンスターを1体破壊
- ③ 1ターンに1度自分フィールドの機皇モンスターが戦闘、効果で破壊された場合発動、このカード以外のフィールドにある表側の魔法、罠を1枚破壊する

瑠璃「私は機皇創出の効果で、機皇帝ワイゼル∞を手札に加え、機皇創出の第2の効

果を発動！ワイゼル∞を手札から墓地に送り、インフィニティ・コアを破壊！」

モブA「自分のモンスターを破壊だど!？」

瑠璃「そしてこのまま機皇創出の第3の効果！魔導師の力を破壊！」

モブA「何!？」

ゴブリン突撃部隊

ATK4100 ▶3100

瑠璃「そしてインフィニティ・コアの効果により、機皇帝スキエル∞を召喚！」

機皇帝スキエル∞

レベル1

風属性 機械族

ATK2200

DEF2200

モブA「レベル1のクセに攻撃力2200だど!？」

瑠璃「レベルが全てじゃないんだよ！わかったか！三下！このままバトル！」

瑠璃「マシニクル∞で攻撃！」

モブA「グワアア！」

LP4000 ▶3100

瑠璃「スキエル∞でダイレクトアタック!」

モブA「ギヤアア!!」

LP3100 ▶ 900

瑠璃「トドメだ!機皇神龍トリスケリアのダイレクトアタック!これが絶望だ!絶望の、ストライクブラスト!!」

モブA「グワアアア!!」

LP900 ▶ 0

：しまったやりすぎた

瑠璃「えつと、明日香…さん?」

明日香「え?あ、ええ、勝ったのね」

だいぶキヨドつてたな、まあ1ターンキルしたんだもん、そりゃキヨドるよ

瑠璃「ま、まあとりあえず帰りましょう、そろそろ見張りが」

見張り「おい貴様ら!何をしてる!」

言わんこつちやない

明日香「逃げるわよ!」

まあその後のやり取りは邪魔せず続いて、死者蘇生のやり取りですよ

十代「ええ、あのターンで勝ちだったのにな」

明日香「そんなわけ……」

瑠璃「死者蘇生、でしょ？」

十代「お！よくわかったな！」

しまった言ってしまった

瑠璃「ま、まあそんなとこだと思ってるね」

十代「へえ、そっか！」

お気楽で助かったよ、デュエルでは勘が鋭いクセにここら辺の勘は鈍いからね

瑠璃「それじゃ私達は帰るから、また明日ね十代」

十代「おう！じゃあな瑠璃！」

瑠璃「翔くんもまたね」

翔「は、はい！さよならっす！」

おーし、明日は十代とかと喋ろっかなあつと、考えたりしながら帰路を辿っていると

明日香「ねえ、瑠璃？」

瑠璃「はい？」

明日香「あなた本当に女の子？」

まだまだ悩みが消えません

3話 帝王降臨!?

明日香「貴女、本当に女の子？」

ウツソだろ!?!あの短時間で気づかれることしたか!?

あつ、あれか：確かに問題発言をめっちゃ出したもんな、女の子かどうか確認する程かどうかはわからんけど、とにかく怪しまれないようにするか

瑠璃「確かにあの発言は普通の女子ならしませんね、けど私はこういう性格なので」とりあえずそれっぽい理由を並べて見たけど：どうかねえ?

明日香「：そうなの：まさかあんな言葉、普通女子が言うわけないと思ってたから：」

まあ普通の人でも滅多に言わない単語だけどね

瑠璃「ま、とにかく早く帰りましょう、バレたら絶対怒られるでしょうし」

明日香「そうね」

っし!とりあえず危機は去った!あとは帰るだけだ…長かった…たった1日、しかもこの数分で神経を張り巡らすとは…

???'「さっきの戦い、見せてもらったよ」

…は?え?ちよつ、まだ出てこないでしょ!?このタイミングは最っ高に悪いって!?

明日香「あら?亮も来てたの?」

瑠璃「カ、カイザー亮さん…」

亮「ああ、ブルーでの歓迎会の中で成績優秀だった生徒がいらないと思ひ探してみたらな」

まずいまずいまずい!このまま何も無しに進めば良いがなにかあったらまずい!

大体このタイミングはまだカイザー出てこなかったでしょ!?

なんで今なんだよオ!?

亮「それと、確か瑠璃と言ったな」

瑠璃「ひゃい!?!」

やばい変な声出た

亮「少し話がしたい、明日香、先に寮に戻っていてくれ、話しはつけておく」

明日香「はあ…わかったわ、亮だから何も思わないと思うけど、早めにしてね」

ああ、行つてしまった

亮「さて、まずはいきなり呼び止めて済まない、どうしても確認したいことがあつてな」

瑠璃「い、いえ別に……」

亮「そして、確認したい事というのは、君のさっきのデュエルのことだ」

…非常にまずい、前世でのデッキ、というかカードが全部手元にあるから適当なデッキ掴んで持つてきたら機皇だったという所に私の落ち度はあるが、別になんだあのカード!?程度になるのが今まで普通だった、が……この人は違う

亮「確かに、デュエルモンスターズには様々なカードが存在している、テーマももちろん存在する、だが、君のデッキは完成しすぎている、それにあのカード達、流通しているなら大会で結果を残すほどだ、残してないにしろ、どこかで噂が出てくるほどの力だ……」

瑠璃「つまり……何が言いたいんですか？」

亮「率直に言おう、遊条 瑠璃 君は何者だ？」

…話すか、いや、無闇に話すとどこで漏れるか分からない

瑠璃「一応聞きますが、嘘だったり、重要な事を隠したりしたら？」

亮「そういう言い方をすると、言う事は何かは隠してるといふことか」

……あつ

瑠璃「つ……とりあえず、言えないこと以外は話しましょう」

そこからは話せるだけ話した、前世の記憶、しかも別世界から来たこと、そこでのデュエルモンスターズの進化、そして……この世界を知ってることを

亮「なるほど……だから俺たちすら知らないカードがあつたわけか」

瑠璃「出来れば、というか絶対内緒にしてください、余計な混乱を呼ぶ可能性があります」

一応だが前世は男というのは伏せといた、さすがにこれだけは話せない、それに前世も男っぽい性格だったで通せるしね

亮「わかつてる……だが君はどうするんだ？この先の結果がわかつているなら黙って見過ごすのか？」

瑠璃「……可笑しいな事を聞きますね……私がこうやって存在する以上、この物語は歪んでしまっている、だからこそ、私ですら分からない結果も生まれるんです、私というたった一人の人間がいるだけで」

そう、普通ここにカイザー亮が来るはずはないのだ、既に歪み始めてるのだ、この世

界は

瑠璃「だからこそ、私は見る、動く、戦う、この世界が決めた運命を、結果を捻じ曲げて、私が望む道に変えるんです」

ここに来たのすら奇跡としか言いようがない、神様サービスみたいな転生でもないし、自分の意思ですらない、まあもしかしたら神様が勝手にやったかもしれないが

亮「フツ：大きく出たな、そういう奴は嫌いじゃない」

瑠璃「夢は大きく、ですよ？」

亮「世界を変える：か、出来るのか？」

瑠璃「出来るか？じゃないんです、やるんです」

カイザーと目が合った時、自分の顔がカイザーの瞳に反射して少し見えたが、とても

：

亮「とても真っ直ぐな目をしてるな」

瑠璃「：叶えるためですから」

亮「聞いてしまった身だ、協力出来ることは出来る限りしよう」

これは仲間になってくれるパターンですか!!

確かにここでカイザーが協力者になるのはありがたい、けど：この人はこの後、勝利だけを求める人になってしまふ、きつとこの関係も投げ捨てるように消えるだろう：

けど、その時はその時だ、今は強力な協力者が出来たんだ、素直に喜ぶことにしよう

瑠璃「協力、お願いしますね、改めて 遊条 瑠璃です」

亮「丸藤 亮だ、よろしく頼む」

この後ダツシユで寮へ帰ったが抜け出したことが明日香だけバレずに自分だけこっぴどく叱られた

 翌日

瑠璃「zzz…んあ?」

瑠璃「んー!よく寝たあ」

とりあえず朝の支度だ、10年以上も着ているが未だに慣れないスカートと、ノースリーブの制服に着替える…ズボンを着たい、長袖が欲しい…

櫛で腰まで伸びてる髪の毛をとかしながら鼻歌を歌う…そういえば改めて鏡で自分の姿を見ると結構綺麗だと思ってしまう、けっこう目立つ白色の髪だが、顔にとっても似合う色だ、顔はとても整っている…前世の自分の顔は普通だっただけにとっても綺麗だと

思う：ほんとに自分かなあ？

体つきも結構なものだ、胸部は明日香さんほどではないが大きめだと思う、脚も綺麗だし、肌もすべすべだ：ほんとに自分かなあ？

そんな風な事を考えながら支度を終え、アカデミアに向かう

瑠璃「あ、カイザー亮」

亮「普通に亮でいい」

瑠璃「じゃカイザーさんで」

亮「：好きにすればいい」

さつき亮でいいって言ってたじゃないすか

瑠璃「ところで亮さん、あの後万丈目達はどうでした？」

亮「彼等か、ほとんどお咎めなしだったらしい」

瑠璃「アツルエ？私結構怒られたんだけどなあ」

亮「：すまん、君の事は話をつけ忘れてた」

瑠璃「アンタのせいかな」

やっぱりこの人ちよつと抜けてんだよなあ、まあ秘密を話したりする人じゃないんだけど、天然つてやつか

瑠璃「まあとにかく、数日間忙しくなりそうなんで、ちよつと気が重いですね」

亮「残念だが、協力と言っても君が協力してくれと言った時にしか協力しない約束だからな」

そう、カイザー亮には約束事を設けたのだ

瑠璃が協力してくれと頼んだ場合のみ協力する、コレのみである

自分は軽く相槌を打って話を変え、あまり話すと聞かれるかもしれないからだ

瑠璃「そういうええ思っただけですけど…亮さんは君って言いますよね、私のこと」

亮「ああ、そうだが…」

瑠璃「私は亮さんって呼ぶのに亮さんは名前で呼ばないんですか？」

亮「…：努力しよう」

瑠璃「わかりました、呼べる日を快くお待ちしますね！」

そんな他愛もない話をしながらアカデミアに到着した

授業はそこまでつまらなくなかった、座学が結構カード関連のものが多かったのが幸

いしたのか、結構楽しめる

クロノス「シニョール三沢！融合のカードについての説明をお願いしますーノ！」

三沢「はい、融合とは魔法カードの融合、融合に必要なモンスター、そして、その融合先の融合モンスターが必要となり、主に手札、フィールドでの使用がほとんどです、融合モンスターは指定している数や、指定しているモンスターの召喚する難易度や、強さ

によって強さが変わるモンスターが多く存在します」

クロノス「そこまでなノーネ！この後は、シニョーラ遊条、アナタが答えるノーネ！」

瑠璃「はい、先程三沢くんが言ったのには少々訂正部分が存在します、融合には確かに数や、難易度によっては強いモンスターは存在しますが、同時に融合する前の方が強いカードも当たり前のよう存在します、例えば青眼の究極竜、確かに攻撃力の高さが強みである究極竜ですが、青眼の白龍の3体分の攻撃力、9000を半分にした数値なので、普通に青眼の白龍で戦った方が相手ライフを削りきれる可能性があります、サイバー・エンド・ドラゴンも3体融合ですが、サイバー・エンド・ドラゴンの場合守備貫通能力を持っているので、一概に難易度が高かったり、複数体の融合は強いとは言いきれません、確かに融合は強力なカードですが、使い所を間違えれば相手にチャンスすら与える戦法です、他にも融合と言っても色々な種類があり、融合を使わずに融合召喚できるモンスター、指摘した魔法カードとモンスターを生贄にすることにより召喚できるモンスター、融合モンスターを融合素材にするモンスターなど沢山います、そして同時に融合にも様々なカードが存在します、フュージョンと言う名前の融合カードも存在しています、例えばカイザー亮が使う未来融合フューチャーフュージョンといった特殊な融合カードも存在し…」

そこから長々とずっと融合についてを語ってしまった、自分でも気づかずにずっ

とつらつらはなし…

キーンコーンカーンコーン

瑠璃「……はっ!？」

チャイムがなるまで話し続けてしまった

瑠璃「すつすみません!!長々と話してしまつて!!」

クロノス「別に問題ナイノーネ!むしろ先程の融合に関する授業、とても為になる内容だったノーネ!皆さんも、シニョーラ遊条を見習うように!」

え?

三沢「すごいな、俺でもあそこまで答えられる自信はなかつたぞ」

ん?三沢大地が自信が無いだと?は?

瑠璃「あの、私途中から無意識だったのか、内容覚えてなかつただけど…」

明日香「安心して、ノートはこっちで取つといたわ、はい」

瑠璃「うわあ…めっちゃ喋つてたじゃないですか」

ノートに換算するとおよそ5ページから6ページ

明日香「でもとても為になつたわ」

十代「俺にはさつぱりだなあ」

翔「僕もさっぱりっす」

瑠璃「後でわかりやすく教えるよ、きっと大事なことだろうし、特に十代はね」

十代「え？なんでだ？」

瑠璃「だって十代は融合が主軸のデッキでしょ？だったら余計に融合について知る必要があるはずだよ？」

十代「やだあ！勉強はごめんだア！」

瑠璃「こらあ！待ちなさい！」

その後、体育の授業のため女子更衣室に向かい、着替えを済ませたが…すっかり忘れていた、あの冤罪デュエルの事を…

4話 2つの冤罪

瑠璃「さて、どうするべきか…」

今はアカデミアでの授業が終わり帰り道の最中に考えてる最中だ

とにかく翔くんの冤罪を晴らす為に張り込みするか？

いや、ダメだな、結局見つかるのがオチだ

ならどうするべきか…これに関してはカイザーに協力はダメだ、カイザーも捕まる

実際ラブレターを先に回収しようと考えたけどこれも逆に自分が捕まる、一応異性だからね

瑠璃「うーん、どうしたものか…」

明日香「そんなに悩んでどうしたの？」

瑠璃「ひやつ!?!つてびつくりしたあ、明日香かあ」

実はさっきの体育の授業で明日香とはペアを組んでより仲良くなったのだ

明日香「さっきから首を傾げてるけど、何か悩み事？」

瑠璃「いや、大丈夫、私の問題だから」

実際は私達になるが

明日香「そう?とにかく、一人で抱えきれなくなる前に相談することも考えなさい?」
相談したら翔くんが危ないです、クロノス先生もだけど

瑠璃「そうだね、あ!そうだ、私実はよる所あるから寮に戻るの少し遅くなるかも」

とにかく今は1人になって解決法を探すのが先決だ

明日香「わかったわ、なるべく早く帰るのよ?」

瑠璃「わかってる!じゃ後でねー!」

とりあえず1人にはなれたが:うーん、翔くんの冤罪はもう現地で救うとして、その時のお風呂の時間をどうやって避けるかだ、まあ実はいつも女子がもういない時間に入っていたり、自室のお風呂使ってる、自室のを使えば解決だが:入学してからずっと女子生徒と一緒に入ってなくて明日香の取り巻きのモモエとジュンコに今日こそ一緒に入ろうと言われてしまった:約束は守る主義だが約束なんだよなあ、こうなったら:やるか、あれ

その夜

モモエ「残念ですわ、瑠璃さんが生理だなんて」

ジュンコ「しょうがないわよ、私達だって辛いでしょ？」

すまない、2人の純情な心を利用してしまった…それにほんとに生理って辛かった…だからこそこの手段をとったんだけどね、生理の辛さは女子にしか分からないんだよ、元男だけど

とにかく外には出れた、あとは…いた

翔「うんしょ、うんしょ」

ボートごとくときうんしょって言うやつ初めて見たわ

つてそうじゃなくて

ザバアアン!!

翔「ふえ!? な、なんか…いる?」

バシヤン!

翔「ヒツ!」

瑠璃「…翔、くん?」

翔「ギヤア ムグツ!」

瑠璃「静かにしなさい、じゃないと…?す」

翔『え…』

瑠璃「とにかく、今すぐ帰りなさい、じゃないと覗きと勘違いされるよ」

翔「う、うん、ありがとう」

瑠璃「私が時間稼ぎするから、早く行くんだよ？」

さて、時間稼ぎもバツシヤアアアン！ノーネエ!!「誰かいるの!?!」ウツソダロオイ

十代「この辺りだな…!?!翔！」

翔「助けてアニキー！」

十代「翔!?一体誰が」

明日香「翔くんが女子風呂を覗きに来てたの」

モモエ「最ツ低ですわ！」

ジュンコ「女の敵よ！」

瑠璃「…どんまい」

運命には抗えなかったよ、まさかクロノス先生が池に落ちた音で気づかれるとは思わなかったよ、そのくせクロノス先生はちやっかり脱出できてるの凄いな

でもまだマシか、取り返しのつかない最悪の結末を変えれないわけと決まったわけじゃないからね

でも生理は？ って聞かれた時は一瞬ヒヤツとしたが翔くんの方が先に解決すべきと判断されたからセーフセーフ、ちなみに今、明日香、モモエ、ジュンコが同じボートに乗って、その向かいに十代と翔くん（縄でぐるぐる巻き）が乗ってるボート、自分は沖で待機中

明日香「そういう訳で、私とのデュエルに勝てば翔くんの覗きの件は無かったことにしてあげる」

翔「だから覗いてないって！」

瑠璃「認めないのは男らしくないぞー！」

翔「認めたらダメでしょ!？」

さすが翔くん鋭いツツコミ

それでもつてデュエルするには翔くんの縄を解くのと、ボートに3人は多いということで、モモエが降りる事になってあつちでデュエルを始めた…別にこつちで良くない？

十代&明日香「デュエル！」

モモエ「ところで、生理は如何致しました？」

瑠璃「うえ!? あ、あちよつとツキツキするかなあ」

モモエ「…嘘ですわね？」

目が笑つてない…こりやまずいな、痛い演技なんかすぐわかるだろうな、生理の痛みはちやんとわかつてるし、女の勘つてのは恐ろしい

モモエ「私達が心配していたのに…それに生理と言つて私達から離れ、翔さんをお助けになり…貴女もしかして翔さんの事が「それは無いから」

実際ハッキリ言つて翔くんは小動物っぽい感じとして見てる、イタズラしたい感じなのだ

モモエ「あら、そこまでハッキリ言うのは翔さんが可哀想ですわ」

瑠璃「いや、思わせぶりな感じの方がよっぽどタチ悪いと思う」

モモエ「確かに…そう考えると翔さんの為に自分の意見をはっきり言う瑠璃さんは素敵ですわ！」

何故そうなる、たった1つの意見で人を素敵つて…この子ちよつと危ないかもしれんな

モモエ「そういえば何故、翔さんがここに来るとわかってたのですか？」

瑠璃「あつ」

しまったあああ!! 冤罪を消すために行動してたけど失敗したら怪しまれるなんて突
然だ!

だって覗きを半ば黙認してたも同然だもん!

モモエ「まさか翔さんと結託していたんじゃ」

瑠璃「絶ッ対にない!」

モモエ「ここはデュエルで判断しましょう! 瑠璃さん、貴女が勝てば貴女の言い分を
聞いてあげますわ!」

瑠璃「そう来たか…いいですよ」

モモエ & 瑠璃「デュエル!」

モモエ「私は召喚士 サモンプリーストを召喚！効果によりサモンプリーストは守備表示に、そして効果発動！手札の魔法カードを墓地に送ることによりデッキからレベル4のモンスターを召喚しますわ！」

召喚士 サモンプリースト

レベル4

闇属性 魔法使い族

ATK800

DEF1600

①召喚されたら守備表示になる

②このカードはリリースできない

③手札の魔法カードを墓地に送り、デッキからレベル4モンスターを召喚

瑠璃「それは通さない！手札の灰流うららの効果！手札のこのカードを墓地に送ることにより、デッキからモンスターを特殊召喚する効果を無効にする！」

灰流うらら

レベル3

炎属性 アンデット族

ATKO

DEF1800

このカードの効果は1ターンに1度しか使えない

①手札から墓地に送ることにより以下の効果を発動

- ・デツキからカードを手札に加える効果を
- ・デツキからモンスターを特殊召喚する効果を
- ・デツキからカードを墓地に送る効果を

モモエ「うっ!?…なら私はカードを2枚セットしターンエンドですわ」

瑠璃「私のターン、ドロォー!」

瑠璃「私はまず強欲で金満な壺を発動! エクス…融合デツキのカードを3枚、または6枚除外することにより発動、3枚除外する事にデツキから1枚ドロォー、私は6枚除外!そして2枚ドロォー!…これによりこのターン私はドロォーするカードは使えなくなる」

強欲で金満な壺

通常魔法

自分メインフェイズ1開始時にのみ発動できる

自分のEXデツキの裏側表示のカードを3枚、または6枚をランダムに除外すること

により、3枚につき1枚ドロー

このカードを発動したターン、自分はカードの効果でドローできない

瑠璃「私はモンスターを一体セットし、ターンエンド」

モモエ「私のターンドロー！」

モモエ「私はチェミナイ・エルフを召喚！」

チェミナイ・エルフ

レベル4

地属性 魔法使い族

ATK1900

DEF900

交互に攻撃を仕掛けてくる、エルフの双子姉妹

瑠璃「チェミナイ・エルフですか、下級革命の筆頭だった頃があったらしいですが…

もう過去の遺産扱いしてる者も多いか」

モモエ「確かにチェミナイ・エルフはもうほとんどの決闘者に使われてないモンス

ターですわ、けど私はこの子で勝たせて頂きますわ！」

モモエさんも決闘者してるなあ、満足民に勧誘しても問題ないかもしれん

モモエ「そして、装備魔法ガーディアンの力を発動！」

瑠璃「うえ!？」

ガーディアンの方

装備魔法

① 装備モンスターが戦闘を行う攻撃宣言時に発動、このカードに魔力カウンターを1つ置く

② 装備モンスターの攻撃力はこのカードに置いてある魔力カウンターの数×500アツプする

③ 装備モンスターが戦闘、効果で破壊される場合、代わりに自分フィールドの魔力カウンターを1つ取り除くことができる

瑠璃「これまた強いカードを…それでこそ戦いがいが有ります!」

モモエ「ならばお見せいたしましょう、この子達の力を! バトル! チェミナイ・エルフで攻撃! ガーディアンの力の効果により攻撃力を500ポイントアツプしますわ!」

チェミナイ・エルフ

ATK1900 ▶ 2400

瑠璃「ツ…破壊されたマッド・ロリータと違った、マッド・リローダーの効果発動!」

モモエ「い、今何と?」

瑠璃「気にしちや負けです、手札のカードを2枚墓地に送ることにより、デッキから2枚ドローします！」

モモエ「このままターンエンドですわ」

瑠璃「私のターンドロー！」

瑠璃「私は隣の芝刈りを発動！私のデッキの数が相手より多い場合、私は相手のデッキの数と同じになるように、デッキの上からカードを墓地へ送る」

隣の芝刈り

通常魔法

自分のデッキが相手より多い場合、自分のデッキを相手のデッキの数と同じになるようにデッキの上からカードを墓地に送る

モモエ「今の私のデッキの枚数は34枚ですわ」

瑠璃「私のデッキは49枚、よって15枚カードを墓地に送る！」

瑠璃「そして私は魔法カード、おろかな埋葬を発動！デッキからモンスターを一体墓地へ送る！」

おろかな埋葬

通常魔法

デッキからモンスターを一体墓地に送る

瑠璃「私はこのモンスター、妖精伝姫ーシラユキを墓地へ送る！」

モモエ「あら、可愛らしいモンスターですわ♪」

瑠璃「この子は可愛さだけが強さじゃないんです！」

モモエ「そうですの？」

瑠璃「そうですよ、だから見せましょう、シラユキの効果！手札、フィールド、墓地の中からカードを7枚除外することによりより、墓地から特殊召喚！」

妖精伝姫ーシラユキ

レベル4

光属性 魔法使い族

ATK1850

DEF1000

①このカードが召喚、特殊召喚に成功した場合、相手フィールドのモンスター1体を裏側守備表示にする

②このカードが墓地に存在してる場合、自分の手札、フィールド、墓地からこのカード以外のカードを7枚除外し、墓地から特殊召喚できる、この効果は相手ターンにも発動できる

モモエ「罨カードオープン！神の警告！」

瑠璃「ええ!？」

神の警告

カウンター罨

ライフを2000払うことにより、以下の効果を発動できる

・モンスターを特殊召喚する効果を含む、モンスター効果、魔法、罨カードが発動した時に発動できる、その発動を無効にし破壊する

・自分または相手がモンスターを召喚、特殊召喚、反転召喚する際に発動できる、その効果を無効にし、そのモンスターを破壊する

嘘でしょ!？モモエさんこんなガチカード使うの!？

確かになんちゃってパーミッシヨンデッキとか作ったことあるからカウンター枠として入れた事あるけど、このタイミングに神の警告はやばいって！

モモエ「特殊召喚を無効に破壊したことにより、シラユキの効果は無効ですわ！」

モモエ

LP4000 ▶ LP2000

いや、まだ行ける、シラユキの効果はターン1制限がない、まだ…やれる！

瑠璃「もう一度！シラユキの効果！墓地のカードを7枚除外し、特殊召喚！」

モモエ「速攻魔法！禁じられた聖杯！」

瑠璃「ふえ!？」

禁じられた聖杯

速攻魔法

フィールド上の表側表示のモンスター一体を対象に発動、そのモンスターの攻撃力を400アップし、効果を無効にする

モモエ「対象は勿論、シラユキですわ！」

妖精伝姫ーシラユキ

ATK1850 ▶2250

瑠璃「シラユキの効果が無効になっても、まだ通常召喚を残してる！クリバンデットを召喚！」

クリバンデット

レベル3

闇属性 悪魔族

このカードを召喚したターンのエンドフェイズに発動、このカードをリリースし、デッキの上からカードを5枚めくり、その中から魔法、罠カードを1枚選び手札に加え

る残りのカードはすべて墓地へ送る

とにかく、今は生贄になりそうなモンスターを取り除く方がいい

瑠璃「バトル！シラユキで、サモンプリーストを攻撃！フェアリースマイル！」

瑠璃「これでターンエンド、この瞬間、クリバンデットの効果により、クリバンデットを墓地に送り、デッキの上から5枚、カードを確認する！」

………決めた

瑠璃「私は魔法カード、貪欲な壺を手札に加える！」

瑠璃「そして！クリバンデットの効果によつて墓地に送られたライトロード・アーチャーフェリスの効果！モンスターの効果により墓地に送られたとき、墓地より特殊召喚！」

ライトロード・アーチャーフェリス

レベル4

光属性 獣戦士族 チューナー

ATK1100

DEF2000

このカードは通常召喚できない、このカードの効果でのみ特殊召喚できる

- ①このカードはモンスターの効果でデッキから墓地に送られた場合、特殊召喚できる
- ②このカードをリリースし、相手フィールドのモンスター一体を対象にとり発動、そのモンスターを破壊し、デッキの上からカードを3枚墓地に送る

実際チューナーって言わない限りバレないあたりカード判定ゆるゆるだよなこの世界も、まあバレて混乱されるよりはマシか

モモエ「ここで壁モンスター…さすがですわね、でも私も負けませんわ！私のターン！ドロー！」

モモエ「このままバトルですわ！チェミナイ・エルフでシラクキを攻撃！ガーディアンの力によって攻撃力を500ポイントアップしますわ！」

チェミナイ・エルフ

ATK2400 ▶ 2900

瑠璃「グッ！」

LP4000 ▶ LP3350

モモエ「カードを1枚セットし、ターンエンドですわ」

瑠璃「っ…ドローっ!…!」

瑠璃「私は魔法カード、貪欲な壺を発動!」

貪欲な壺

自分の墓地のモンスター五体を対象にして発動、そのモンスター五体をデッキに戻しシャッフル、その後デッキからカードを2枚ドローする

瑠璃「私は五体のモンスターをデッキに戻し、2枚ドロー!」

モモエ「沢山ドローしますわね」

瑠璃「楽しいじゃないですか、引く時のドキドキ感というか、そういう感じが好きなんです」

瑠璃「もちろん、ドローばかりじゃないですけどね、アーチャーフェリスの効果も発動です、フェリスを墓地に送ることにより、相手モンスターを一体破壊、勿論チェミナイ・エルフ!」

モモエ「魔力カウンターを1つ取り除くことにより、破壊を免れさせて頂きますわ!」

チェミナイ・エルフ

ATK2900 ▶2400

瑠璃「その後デッキの上からカードを3枚墓地に送ります」

瑠璃「そして!墓地のシラユキの効果!墓地より7枚のカードを除外!そして特殊召

喚！」

モモエ「ならばもう一度ですわ！速攻魔法！禁じられた聖杯！」

瑠璃「またですか!?!」

禁じられた聖杯

速攻魔法

フィールド上の表側表示のモンスター一体を対象に発動、そのモンスターの攻撃力を400アップし、効果を無効にする

モモエ「それでもゼエミナイ・エルフにはまだ攻撃力が届きませんわ！」

瑠璃「…実は動きはだいぶ違うけど、これ、入試の時に使ったデツキなんですよ」

モモエ「…はっ!?!」

瑠璃「相手フィールドのモンスターの攻撃力の合計が自分フィールドのモンスターの攻撃力の合計より高い場合、獣王アルファは特殊召喚できる！」

獣王アルファ

レベル8

地属性 獣族

このカードは通常召喚できない相手フィールドのモンスターの攻撃力の合計が自分

フィールドのモンスターの攻撃力の合計より高い場合、特殊召喚できる

①自分フィールドの獣族、獣戦士族、鳥獣族モンスターを任意の数手札に戻し、選んだ数だけ相手フィールドの表側表示のモンスターを手札に戻す（このターン獣王アルファは直接攻撃できない）

瑠璃「獣王アルファの効果！自身を手札に戻し、チェミナイ・エルフを手札に戻す！」

モモエ「うう、効果の破壊では無いためガーディアンのが発動できませんわ」

瑠璃「ここで、私の切り札！紅蓮魔獣 ダ・イーザを召喚！」

紅蓮魔獣 ダ・イーザ

レベル3

炎属性 悪魔族

このカードの攻撃力、守備力は除外されてる自分のカードの数×4000アップする

瑠璃「除外されてるカードは27枚！よって攻撃力、守備力は10800!!」

モモエ「10800!？」

瑠璃「バトル！紅蓮魔獣 ダ・イーザで、ダイレクトアタック！」

モモエ「キヤアアア!!」

LP2000 ▶LP0000

モモエ「うう、負けましたわ」

瑠璃「いや、私もギリギリだったから…」

実際ギリギリだった、ちなみに手札にダ・イーザ先輩が3枚来てくれたせいで結構ドロ―頼りみたいな所もあった

モモエ「とにかく、負けは負けですわ、言い分、しつかり聞きますわ」

瑠璃「いえ、別にいいですよ、まあ翔くんを助けようとしてた、ただかもわかってくれればいいんで」

モモエ「…瑠璃さんが殿方だったら好きになるところでしたわ」

瑠璃「残念でしたね、私は女子なので」

明日香「あら？ 貴女達も決闘してたの？」

瑠璃「まあね、私が勝ったけど」

モモエ「瑠璃さんお強かったですわ」

十代「お！ 瑠璃！ いたのか！」

瑠璃「ずっと居たけど？」

そんなに影薄くないはずだけどな

モモエ「十代さん、瑠璃さんとってもお強かったですね、是非対戦してみては？」
瑠璃「その言い方、私に拒否権ないみたいなんだけど」

その後十代とは今度デュエルする約束をして解散した…あ、風呂入り忘れた…朝入るか

翌日、お風呂に入る時間を考慮せず遅刻ギリギリになった為、朝風呂は休日だけにしようと思案したので

5話 究極の融合

瑠璃「ふああ〜」

どうも、遊条 瑠璃です、今日は月に1度のテストの日となっております

瑠璃「…すつつごい眠い」

明日香「勉強するのはいい事だけど、ちゃんと寝てなきやいい結果を出せないわよ？」

瑠璃「いや、実技の方のデツキ調整してた…Zzzz」

ビシッ！（明日香が瑠璃の後頭部に手刀をした音

瑠璃「ツ〜！」

明日香「真面目にしなさい」

そんな感じのやり取りし、筆記テストが終わって実技のテストの為に移動していると

モブA「おい、貴様」

瑠璃「んえ？私ですか？」

モブA「そうだ」

この人は万城目と十代がアンティールでデュエルした時のモブさんですか

瑠璃「それで、何の用ですか？」

モブA「実技のテスト、貴様とのデュエルとなったと伝えに來ただけだ、首を洗って待っている！」

おつと持病の煽り癖が

瑠璃「じゃあそつちは足を洗ってみてはどうですか？」

モブA「きつ貴様あ!!」

そう言いながらモブさんは殴ってこようとしてきたけど

亮「そういうのは関心しないな」

カイザーが自分とモブさんの間にたつてモブさんの拳を受け止めた

モブA「カ、カイザー様！何故!？」

亮「そんなに許せないならデュエルで決めろ、女性に暴力を振るうのは男がやってはいけない行為の1つだ」

はへーさつすがカイザー、紳士だなあ

亮「だが、瑠璃も言い過ぎだ、少しは発言を慎んでくれ」

瑠璃「すみません…ん？今瑠璃って言いましたね？」

亮「…」

これはもうニヤニヤもんですわ

瑠璃「ほえ、亮さんもしかして照れてます？照れちやつてるんですか？可愛い所も

あるんですねえ」

亮「…余計な事は言うなと言ったばかりだ」

瑠璃「フフフ、私は亮さんに瑠璃って言われて嬉しいんですよ」

亮「…そうか」

モブA「とにかく！貴様は俺がぶつ倒す！いいな！」

瑠璃「ハイハイ、それじゃ私はこれで」

後ろで癩癩起こしてる気がするが気の所為だろう

モブさんとの決闘は万城目と十代のデュエルの後の為、滅多に見られないハネクリ

ボールV10を拜んで…順番になった

モブA「さあ、お前の初敗北を俺が手に入れてやる」

瑠璃「ふーん、とにかく決闘しましょうよ」

モブA「…そんな減らず口も言えるのも今のうちだ」

瑠璃&モブA「デュエル！」

モブA「俺のターン！ドロー！」

モブA「俺はゴブリン突撃部隊を召喚！」

ゴブリン突撃部隊

レベル4

地属性 戦士族

ATK2300

DEF0

攻撃したら次の自分のターンまで守備表示になる

瑠璃「またゴブ突ですか」

モブA「あの時とはひと味もふた味も違う！魔道士の力を3枚発動！」

瑠璃「はあ!？」

魔道士の力

装備魔法

自分フィールドの魔法、罨ゾーンのカードの数×500ポイント攻撃力をアップする
ゴブリン突撃部隊の後ろに魔道士が何人か出て来て上に手を揚げるとゴブリン突撃

部隊がいきなりやる気に満ち溢れ出した

ゴブリン突撃部隊

ATK 2300 ▶ 6800

モブ A 「そしてカードを2枚セット！」

ゴブリン突撃部隊

ATK 6800 ▶ 9800

翔 「攻撃力9800!?!」

三沢 「だが飛ばしすぎだ、あのゴブリン突撃部隊がやられた瞬間場はがら空き、ゲムエンドまで持ち込まれるかもしれない」

そう、三沢くんの言うとうりだ、恐らくあの伏せカード、聖なるバリアーミラーフォー
スーと、魔法の筒だマジックシリンダー

モブ A 『フツフツ、攻撃力9800のゴブリン突撃部隊に加えて聖なるバリアー
ミラーフォーサーとマジックシリンダー、サイクロンのようなカードが来てもどちらか
が残れば勝ちほぼ確定だ!』

★当たり★

モブ A 「ターンエンド！」

瑠璃 「私のターン、ドロー！」

モブA「無理無理、この盤面を覆せれるはずない、さつさとサレンダーするんだな」
瑠璃「おお、この手札は、またやっちゃうかもしれないですね」

モブA「フツ、あの機皇とやらだろうがもう関係ない、お前に方に1つでも勝ち目はないんだよ！」

うーんここまで言われるとめっちゃボロボロにして終わらせたいなあ、まあこの手札、さすがサイバー流と言ったところか、おっと今回のデッキがわかってしまいましたね、それじゃ始めましょうONE Turn kill

瑠璃「魔法カード発動！パワーボンド！」

パワーボンド

通常魔法

手札、フィールドから機械族の融合モンスターに必要なモンスターを墓地に送り、融合召喚し、この効果で特殊召喚したモンスターの攻撃力は元々の攻撃力分アップし、このターンのエンドフェイズにこの効果でアップした攻撃力分のダメージを受ける

瑠璃「手札のサイバードラゴン三体で融合！現れる！サイバー・エンド・ドラゴン！！」
サイバー・エンド・ドラゴン

レベル10

光属性 機械族・融合

ATK4000

DEF2800

サイバー・ドラゴン+サイバー・ドラゴン+サイバー・ドラゴン

このモンスターの融合召喚は上記のカードでしか行えない。

このカードが守備表示のモンスターを攻撃した場合、守備力を攻撃力が超えていればその数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える

瑠璃「パワーボンドの効果により攻撃力は倍！」

サイバー・エンド・ドラゴンは熱を帯びているように蒸気を出しながら相手に向かい咆哮を上げる

サイバー・エンド・ドラゴン

ATK4000 ▶8000

モブA「!?だが！まだまだゴブリン突撃部隊に攻撃力が届いてないぞお!!」

瑠璃「そうですね、だから：速攻魔法！リミッター解除！」

リミッター解除

速攻魔法

自分フィールドの機械族の攻撃力を倍にし、エンドフェイズに破壊する

さらにサイバー・エンド・ドラゴンから歯車が今にも壊れそうな音が出てきたり、青

いオーブのような装飾も赤色に変わっている

サイバー・エンド・ドラゴン

ATK8000 ▶16000

モブA「攻撃力16000!？」

明日香「あのデツキ…」

翔「…あれは」

十代「すつげえ！攻撃力がすつげえ事になつてる！」

三沢「ああ、だがこのターンで決着をつけなければ、遊条の負けだ」

瑠璃「さて、私も装備魔法、エターナル・エヴォリユーション・バーストを装備！」

エターナル・エヴォリユーション・バースト

装備魔法

機械族の融合モンスターにのみ装備可能

①このカードが魔法、罨ゾーンに存在する限り、自分バトルフェイズに相手は魔法、罨、モンスター効果を発動できない

②装備モンスターが相手を攻撃したダメージステップ終了時、自分の墓地から「サイバー・ドラゴン」モンスターを1体除外し発動、相手モンスターに続けて攻撃出来る（この効果を発動するターン、装備モンスター以外のモンスターは攻撃できない）

サイバー・エンド・ドラゴンから緑色の放電が放たれモブAの伏せカードに放電が当たるとる

モブA「ツ!!?そんなこけ脅し!通用するとも思ったか!」

瑠璃「ほお?まだそんな事言いますか、ならバトルです!サイバー・エンド・ドラゴン!ゴブリン突撃部隊に攻撃!メガエターナル・エヴォリユーション・バーストオオオ!!」

モブA「かかったな!罨カードオープン!……!?!発動しない!?!」

瑠璃「エターナル・エヴォリユーション・バーストが場にある時、私のバトルフェイズに相手は魔法、罨、モンスター効果の発動は出来ない!」

モブA「ば、馬鹿な!?!」

緑色の放電が口に凝縮され、3つの口から放たれる光線と共に放電もモブAを襲った
モブA「ギヤアアアアア!!」

LP4000 ▶ 0000

瑠璃「フイ、勝ったあー」

明日香「ねえ、瑠璃?」

瑠璃「ん?どうしたの?」

明日香「あのデツキ…サイバー流のデツキなの？」

瑠璃「サイバー流？ いや？ あれは私が作ったデツキだよ、でもサイバー・ドラゴンってカツコイイからもっと使いたいんだよねえ」

明日香「そうなの、ごめんなさいね、知り合いにサイバー・ドラゴンを使う人がいて、関係があるのかと思って」

瑠璃「へえ、その人ともいつか戦ってみたいですわね」

実際カイザーがサイバー・ドラゴンを使う事は前世で見たから知ってる、が、ここまでは知らないを通した方がいい知ってたら知ってたでちよつと事情聴取されるかもだし

瑠璃「とりあえず、帰ろ？」

明日香「そうね」

モモエ「明日香様ー！瑠璃さーん！」

明日香「モモエ、ジュンコ？ どうしたの？ そんなに慌ててん？ なんか嫌な予感がする」

ジュンコ「それが、モモエがプールに行きたいらしくて…」

瑠璃「ぷーる？」

明日香「アカデミアにプールなんてあったかしら？」

モモエ 「今年設立されたのですわ！」
んーまずいなあ

モモエ 「行きましよう！プール！」

次回 原作になかったと思うプール回です

6話 水面のスターマン

瑠璃「……」

どうも遊条 瑠璃です、今、プールにいます。

え？GXには温泉プールがあるだろ？そこだろ？

違うんです、マジのプールです、見た目としては東○サマーラ○ンドの室内を思い浮かべればいいと思います…でもデカすぎやしませんかね？

明日香「全く…2人ともテストが終わったからってハメを外しすぎよ…」

瑠璃「まあまあ、テスト終わってるんだからいいじゃん」

明日香「それもそうだけど…」

モモエ「ところで瑠璃さんは水着着ないのですか？」

瑠璃「え、いや、私泳げないし」

ジュンコ「別に泳ぐ訳じゃないけど、着れる時に着るべきよ？」

モモエ「そうですね！さ、こちらへ！用意はしてありますわ！」

そう言いながらモモエに腕を引っ張られ、ジュンコには背中を押される…

瑠璃「あ、明日香…助けて…」

明日香「え？貴女だけ着替えてないのだからしょうがないじゃない」

瑠璃「うっ…」

痛いところをつかれてしまった…

数十分後

瑠璃「うう…恥ずかしい…」

モモエ「いえいえ！綺麗ですわ！」

ジュンコ「そうよ！似合ってるわ！」

明日香「いいんじゃない？瑠璃の髪や目の色にもあってるわ」

だからやだっただよ、褒められるのは慣れてないんだ…

ちなみに今来ている水着はビキニで、色は水色で、紐の部分が白だ

白色の髪に瑠璃色の目には結構あっている

ジュンコ「それにしても…」

そう言いながらジュンコは後ろにたち

ムニユ

瑠璃「!?」

ジュンコ「どうすればこんな体になるの?」

後ろから胸を揉まれた…揉まれた!?

瑠璃「ふえ!?ちよっ!ジュンコさん!」

ムニユムニユ

ジュンコ「うーん、それにしてもこの触り心地…癖になる」

瑠璃「ちよっ、やめっ、んっ……」

今の自分の喘ぎ声にゾワッてしたおかげで我に帰れたが…

ムニユムニユ

ジュンコ「ふへええ〜」

瑠璃「辞めんかー!!」

ジュンコの片腕をそのまま両手で持ち上げ背負い投げのようにプールへ投げ捨てた

バツシヤアアアン!

ジュンコ「何すんの!？」

瑠璃「こつちのセリフだ!!」

モモエ「フフフ、仲が良いですわね」

明日香「いや、これは違うでしょ…」

十代「お? 何やってんだ?」

翔「アニキー! 待ってくれよお〜!」

お、この2人も来たか

瑠璃「お、十代と翔くん…あれ? 隼人くんは?」

十代「ああ、隼人なら…」

——回想——

十代「隼人! プールが出来たららしいんだ! 翔も行くって行ってたし行こうぜ! な?」

隼人「めんどくさいから行きたくないんだな、それにオレはプールより温泉が好きなんだな」

——回想終了——

十代 「つてき！」

瑠璃 「ハハハ：隼人くんらしいね」

十代 「ところでさ！」

瑠璃 「ん？何？」

十代 「そういえば瑠璃とはデュエルしたことなかったろ？」

瑠璃 「…なるほど、OKだよ」

十代 「お！いいのか！」

瑠璃 「でもガチのデツキじゃなくていいならね？」

十代 「え！他にもデツキがあるのか!？」

瑠璃 「うん、テストが終わった後に部屋に戻ってデツキを変えたんだよね、場所に合

わせたデツキにしてみたんだ」

十代 「おお！見た事ないデツキか！楽しみだなあ〜！」

瑠璃 「ふふっ、相変わらずだね」

十代 「おう！じゃあいくぞ！」

瑠璃&十代 「デュエル！」

瑠璃 「先攻は私ね！ドロー！」

瑠璃「私は、伝説の都 アトランティスを発動！」

伝説の都 アトランティス

フィールド魔法

このカード名はルール上「海」として扱う

①フィールドの水属性モンスターの攻撃力、守備力は200アップする

②このカードがフィールドゾーンに存在する限りお互いの手札、フィールドの水属性モンスターのレベルは1下がる

さつきまでプールだったフィールドが綺麗な都へと姿を変える

翔「え？なにしてんのアニキ!？」

明日香「ここでもデュエルなんて、十代もそうだけど瑠璃も瑠璃で大概ね」

モモエ「でも、なんだか嫌な予感がしますわ」

ジュンコ「考えすぎよ、モモエも心配症ね」

瑠璃「そして私は、ブリザード・ファルコンを召喚！」

ブリザード・ファルコン

レベル4 ▶ 3

水属性 鳥獣族

ATK1500 ▶ 1700

DEF1500 ▶ 1700

このカードが元々の攻撃力より高い場合発動、相手ライフに1500ダメージを与える。この効果はこのカードがフィールドに存在する限り1度しか使えず、「ブリザード・ファルコン」の効果は1ターンに1度しか使えない

瑠璃「ブリザード・ファルコンの効果！ブリザード・ファルコンの攻撃力が元々の攻撃力を上回った時、相手に1500ポイントのダメージを与える！」

ブリザード・ファルコンが羽を羽ばたかせ、十代に吹雪を浴びせる

十代「グッ！」

LP4000 ▶ 2500

瑠璃「そして、鳥獣族が場に存在する時、「霊水鳥シレーヌ・オルカ」は特殊召喚できる！」

霊水鳥シレーヌ・オルカ

レベル5 ▶ 4

水属性 鳥獣族

ATK 2200 ▶ 2400

DEF 1000 ▶ 1200

自分フィールドに魚族及び鳥獣族モンスターが存在する場合特殊召喚できる。この方法で特殊召喚に成功した時発動、3から5までのレベルを宣言し、自分フィールドのモンスターは宣言したレベルになり、この効果を発動したターン、自分は水属性以外の効果を発動できない

十代「すげえ！いきなりモンスターが2体も出やがった！」

瑠璃「ふふん、すごいでしょ？でもこのターンはこれで終わり、私はカードを1枚セツトしてターンエンド」

十代「よし！俺のターン！ドロー！」

十代「俺は魔法カード融合発動！」

融合

魔法カード

自分の手札及びフィールドからモンスターを墓地に送り、融合モンスターを召喚する

十代「俺は手札の「E・HEROフェザーマン」と、「E・HEROバーストレディ」で融合！こい！」「E・HEROフレイム・ウイングマン」！」

E・HEROフレイム・ウイングマン

レベル6

風属性 戦士族 融合

ATK2100

DEF1200

このカードは融合召喚以外で特殊召喚できない

①このモンスターが戦闘でモンスターを破壊した時発動、相手モンスターの元々の攻撃力分のダメージを相手に与える

瑠璃「来たね、けどブリザード・ファルコンはやらせない！永続トラップ発動！「潜海奇襲」！！」

潜海奇襲（シー・ステルス・アタック）

永続罫

①このカードの効果処理として、手札、墓地から「海」を発動することができる

②フィールドに「海」が存在する場合、このカードは以下の効果を得る

・1ターンに1度自分フィールドの水属性モンスター1体をエンドフェイズまで除外

し、このターン、自分フィールドの表側表示の魔法、罨は相手の効果では破壊されない
・元々のレベルが5以上の自分の水属性モンスターが戦闘を行うダメージステップ開始時に発動、その戦闘相手のモンスターを破壊する

瑠璃「私はブリザード・ファルコンを除外し、このターン私の魔法、罨は効果で破壊できない！」

ブリザード・ファルコンはプールの中に飛び込み姿を消した

ザバアアン!!

翔「うわあ!?!」

明日香「ちよつと!こつちにまで被害を与えないで!?!」

瑠璃「あ、ごめん!」

十代「クツソオ、なら俺はカードを1枚セットしてターンエンドだ」

瑠璃「ならこの瞬間、『ブリザード・ファルコン』がフィールドに戻ってくる、その瞬間!『ブリザード・ファルコン』の効果!相手に1500のダメージ!」

十代「それでも発動すんのかよ〜!」

LP2500 ▶ 1000

瑠璃「さて、私のターン!ドロー!」

瑠璃「…ふふっこれはいい手札だねえ」

十代「おお！ エースモンスターでも出てくるのか！」

瑠璃「ふふっ私のモンスターは全部エースだよ、私は「スター・ボーイ」を召喚！」

スター・ボーイ

レベル2 ▶ 1

水属性 水族

ATK 550 ▶ 750 ▶ 1250

DEF 500 ▶ 700

このカードがフィールドに存在する限り、水属性モンスターの攻撃力は500アップし、炎属性モンスターの攻撃力は400ダウンする

瑠璃「このモンスターはフィールド上の水属性の攻撃力を500ポイントアップし、炎属性の攻撃力を400ダウンする！」

ブリザード・ファルコン

ATK 1700 ▶ 2200

霊水鳥シレーヌ・オルカ

ATK 2400 ▶ 2900

瑠璃「そして、私は「潜海奇襲」の効果で「スター・ボーイ」を除外して、バトル！」

翔「なんで除外したんだろ？」

ジュンコ「さあ？ たまによく分からないこと言うし」

モモエ「でも、必ず作戦があるはずですわ」

明日香「それにしてもすごいわね、沢山のデッキを使うのに、どれも似て非なる戦術を使う…本当にすごいわ…」

ブリザード・ファルコン

ATK 2200 ▶ 1700

霊水鳥シレーヌ・オルカ

ATK 2900 ▶ 2400

！
瑠璃「シレーヌ・オルカ」で「フレイム・ウィンググマン」に攻撃！ ウォータースクリュー

シレーヌ・オルカの両手から水の竜巻が作り出され、大きくなり、フレイム・ウィングマンに直撃する

十代「そうはさせないぜ！ 畏発動！ 「ヒーローバリア」!!」

ヒーローバリア

通常畏

自分フィールドに「E・HERO」が存在する場合発動、相手モンスターの攻撃を1度無効にする

フレイルム・ウイングマンの目の前にバリアが貼られ、水の竜巻とぶつかり合い、竜巻が消滅する

瑠璃「くつそお、ならターンエンド、エンドフェイズに「スター・ボーイ」が帰ってくる、その時！速攻魔法発動！「地獄の暴走召喚」!!」

地獄の暴走召喚

速攻魔法

相手フィールドにモンスターが存在し、自分が攻撃力1500以下のモンスターを特殊召喚した時に発動、特殊召喚したモンスターと同名のモンスターをデッキ、手札、墓地から全て特殊召喚する。相手は相手自身のフィールドのモンスター1体を選択し、選択したモンスターと同名のモンスターをデッキ、手札、墓地から全て特殊召喚する

瑠璃「さあ出てきて！「スター・ボーイ」!!そして、「スター・ボーイ」が三体、この意味が…わかるかなあ？」

翔「「スター・ボーイ」が三体ってことは?」

十代「フィールドの水属性の攻撃力は1500アップ!」

瑠璃「厳密にはアトランティスの効果も追加で1700だけどね!」

ブリザード・ファルコン

ATK1700 ▶3200

霊水鳥シレーヌ・オルカ

ATK2400 ▶3900

スター・ボーイx3

ATK550 ▶2250

瑠璃 「これで正真正銘のターンエンド、さあ十代、この盤面を覆してみて！」

十代 「おう！ やってやる！ 俺のターン！ ドロー！」

十代 「よし！ 「強欲な壺」を発動！」

瑠璃 「このタイミングで!？」

強欲な壺

通常魔法

デッキから2枚ドロー

十代 「行つくぜ〜！ ドロー！」

十代 「お！ 来た！ 「天使の施し」発動！」

天使の施し

通常魔法

デッキから3枚ドロし、手札を2枚捨てる

瑠璃「天使の施し」!?!…このタイミングってのもそうだけど強すぎない? 私使わないけど」

翔「なんで使わないんだろう?」

明日香「なにか理由があるとかじゃないかしら、瑠璃のデッキはむしろ使わない方がいいと思うわ」

まあ施しなんて使ったらキーカード落としかねないんだよねえ、強いけど

十代「お! ハネクリボー! 来てくれたのか!」

瑠璃「ここでハネクリボー!?!」

十代「俺は! ハネクリボーを攻撃表示で召喚!」

ハネクリボー

レベル1

光属性 天使族

ATK300

DEF200

①フィールドのこのカードが破壊され墓地に送られた場合に発動、このターン、自分の受ける戦闘ダメージは0になる

十代「そして、「悪夢の蜃気楼」を発動！」

悪夢の蜃気楼

永続魔法

1ターンに1度、相手スタンバイフェイズに発動、自分は手札が4枚になるようにドロし、自分のスタンバイフェイズに悪夢の蜃気楼でドロした枚数分手札を墓地へ送る

瑠璃「なんでそんなにディスティニードロー連発できるかなあ!？」

十代「瑠璃もだるうけどデッキを信じてるからかな?だからデッキが応えてくれるんだ!」

ごめんだけどそこまで上手く回らないのが現実なんだよ

十代「俺はカードを3枚セットしてターンエンドだ!」

瑠璃「ツ!?!私のターン…ドロ!」

十代「この時、悪夢の蜃気楼で4枚ドロ!そして非常食を発動!」

非常食

速攻魔法

自分フィールドの魔法、罨カードを任意の枚数墓地に送り、墓地に送った数×1000 LPを回復する

十代「俺は悪夢の蜃気楼を墓地に送り1000ライフ回復する！」

LP1000 ▶ 2000

「まずい！まずい！まずい！まずい！確実にあれは進化する翼！と何かの妨害カード！もしここで攻撃を仕掛ければ確実にジ・エンド…ここは知ってるが攻撃を仕掛けるべきか？…いや、ここで負けるのはこのデッキに悪い！残念だけど勝たせて貰うよ！十代！」

瑠璃「私は「潜海奇襲」の効果をはつだ」

十代「そうはさせないぜ！速攻魔法「サイクロン」発動！」

瑠璃「なっ!？」

サイクロン

速攻魔法

フィールド上の魔法、罨カードを1枚破壊する

十代「俺は「潜海奇襲」を破壊する！」

サイクロンから竜巻が発生し、潜海奇襲を飲み込む

十代「これでブリザード・ファルコンからの効果ダメージは出来なくなつたぜ！」

瑠璃「くっ！けど「フレイム・ウィングマン」がフィールドに存在しているなら、「シレーヌ・オルカ」の攻撃を与えれば！発アウト、私の勝ちだ！いけえ！「シレーヌ・オルカ」！ウオータースクリュー！！」

十代「そいつはどうかな？」

瑠璃「…へ？」

十代「俺は墓地の「ネクロ・ガードナー」の効果を発動！墓地のこのカードを除外し、「シレーヌ・オルカ」の攻撃を無効にするぜ！」

ネクロ・ガードナー

レベル3

闇属性 戦士族

ATK600

DEF1000

相手ターンに墓地のこのカードを除外して効果を発動、相手のモンスターへの攻撃を1度だけ無効にする

ネクロ・ガードナーがフレイム・ウィングマンの前行き、シレーヌ・オルカの攻撃を代わりに受けて消えて行く

瑠璃「ぐぬぬ、けどまだ「ブリザード・ファルコン」が残ってる！いけえ！ブリザードストーム！」

ブリザード・ファルコンが羽を大きく広げ後方から効果ダメージの時より強い吹雪が襲う

十代「へへっ、サイクロンとネクロ・ガードナーに気を取られすぎたな！」

瑠璃「はっ!?しまった!!」

十代「速攻魔法！進化する翼!!」

進化する翼

速攻魔法

ハネクリボーをリリースし、ハネクリボーレベル10を手札又はデッキから特殊召喚する

十代「俺は手札を2枚捨て、ハネクリボーを進化させる！こい！ハネクリボーレベル10!!」

ハネクリボー LV10

レベル10

光属性 天使族

ATK300

DEF200

このカードは通常召喚できない、このカードは進化する翼の効果でのみ特殊召喚できる。このモンスターを生贄にする事により効果発動、相手フィールドのモンスターを全て破壊し、そのモンスターの元々の攻撃力の合計のダメージを相手に与える、この効果は相手バトルフェイズ中にしか発動できない

瑠璃「ははっ、負けちゃった、ごめんねみんな」

そうつぶやくと、シレーヌ・オルカやスター・ボーイがにこやかに笑ってるように見えていた。ブリザード・ファルコンは笑ってはいないが前に立ってできるだけ威力を下げようとしているのかな？最後まで笑顔なんて。前世でも沢山使ってやったからかな？ははっ、ホント。すごい奴らだなあ。それに十代。ホントにコイツは強い。俄然やる気が出てきた！

瑠璃「十代！今回は私の負けだ！けど次は絶対に勝つ！」

十代「おう！いつでも受けてやる！」

十代がそういうとハネクリボーが羽ばたき始めスター・ボーイ達を吹き飛ばし私のラ
イフを0にする

十代「ガツチャ！楽しいデュエルだったぜ！」

瑠璃

LP40000 ▶ 00000

瑠璃「んんん！なあんかスツキリしたア！」

なんだか付き物のようなものが取れた気がした、胸もなんだか締め付けられてる感
覚がなくなってる

瑠璃「おっい！明日香あー！」

明日香「ん？…!? 貴女なんて格好してんの!？」

瑠璃「んえ？」

そう言われたので自分の体を見てみると水着の上が無くなっていたのだ

瑠璃「くっくっ！」

咄嗟に上を腕で隠し、辺りを見渡す、幸い十代はデュエルが終わって直ぐに翔くん達
の方を向いた為見られてはない…あ、あつたあつた

瑠璃「良かったあくさあて付けよ付けよ……あり？」

瑠璃「明日香〜！」

明日香「今度は何!？」

瑠璃「ごめん付けれない！」

明日香「ええ？着たのに付けれないの？」

瑠璃「付けたのジュンコとモモエだから」

明日香「はあ…なるほどね」

そうして明日香だけに見られた為ほとんどダメージなしで回避出来た

モモエ「でもおかしいですわね？きちんとサイズもあっててしっかり付けたはずでし

たのに…」

明日香「何かつけた後に激しき動きもしてないし…」

瑠璃「そうなんだよねえ……ん？」

明日香「どうしたの？」

瑠璃「私一回ジュンコに後ろから触られたんだよね…後ろから?…」

ジュンコ「え？わ、私？」

瑠璃 「元凶はジュンコだね？」

ジュンコ 「え、ええつと…さよなら！」

瑠璃 「まてえ！逃げるな!!」

その後ジュンコをとつ捕まえてデュエル（l k i l l）しまくってやった

7話 闇のデュエルと精霊

瑠璃「……」

こんにちは、遊条 瑠璃です、今宵あのエセ闇のデュエリストのタイタンがやってきます、とにかく今日のミッションは明日香の拉致を阻止することです

明日香「また今日も悩み事？」

とにかく、今日はあの廃寮には近づかせないかな

瑠璃「実はさ、今日の授業の中で分からないことがあつて…それを教えてくれないかなあつて」

明日香「…ごめんなさい、今日は予定があるから…明日なら大丈夫よ」

瑠璃「つ！…！…！そっかじゃあ明日ね」

明日香「ええ、また明日」

いやいやいやいや!?押しに弱すぎるだろ!?なんで1回断られたのに食い下がれなかった!?意思弱すぎだろ!?…こうなつたら…

その夜

瑠璃「…よし、行くぞ」

寮からこつそり出て、森を掻き分けてあの廢寮に明日香より先に到着すればエセ闇のデュエリストに会わずに……あれ？ここ……どこ？

道に迷ってしまったってかこの森広すぎない？どこ探しても木、木、木、……ん？あれは……！

???「そう！私は7つある千年パズルの内の1つを持つ、闇のデュエリストなのだ！」
十代「……残念だけど、それは違うぜ！確かに千年アイテムは7つある、けど、千年パズルが「7つある訳じゃない」!!……ん？」

瑠璃「よっ！十代」

十代「え!? 瑠璃!」

翔「なんでいるんすか!」

瑠璃「そりや、明日香救出しか来る理由ないでしょ? その偽の闇のデュエリスト、タイタンからね!」

タイタン「き、貴様! 何故私の名前を!」

瑠璃「さあ? 知らない、とにかく明日香は返してもらおうね」

そう言いながら明日香が入ってる棺から明日香を出す

タイタン「くっ! 貴様ア! これでも喰ら! させるか!」

タイタンが千年パズル(笑)を向けると十代がフェザーマンのカードを投げ飛ばし、千年パズル(笑)にヒビを入れて使えないようにした: やつぱりこの世界のカードの素材が気になる

タイタン「クソオ、催眠が効かなければ意味が無い! 撤退だ!」

そう言いながらタイタンは煙玉を出し撤退する、ちなみに今十代とタイタンとのちやうど間にいる: まずいじゃん!」

瑠璃「翔くん! 隼人くん!」

翔「な、何すか!」

瑠璃「明日香を: つお願い!」

そう言って明日香を隼人くんと翔くんに向けて投げ飛ばす、一応隼人くんが綺麗にキヤツチしてくれた

翔「瑠璃さん!!」

瑠璃「あつまず…」

十代とタイタンと一緒に闇の球体に閉じ込められてしまった

十代「瑠璃!大丈夫か!」

瑠璃「私は大丈夫!それよりタイタンとのデュエルを!」

タイタン? 「遊城十代、私とのデュエルはまだ終わっていないぞ」

まずい、まだ精霊が見えないし、扱えるかどうかも…!?来た!!

十代「瑠璃!?ハネクリボー、瑠璃を頼む!」

ハネクリボー『クリクリ〜!』

???『その必要はないよ』

どこからか聞こえた声は、後ろから姿を表して、驚きを隠せなかった

瑠璃「I? P マスカレーナ!?!」

そう、前世で使っていたリンクモンスターのI? P マスカレーナだった

マスカレーナ『ハネクリボーちゃんは自分の主人マスターを守ってちょうだい』

ハネクリボー『クリ〜!』

そう言つてハネクリボーは十代の元へ歸つていく
よおし、じゃあ十代が勝つところを見て帰るとしますか

その後の展開はそのまま、明日香が目を覚まし、自分には兄、天上院吹雪がおり、現在行方不明である事を話した

瑠璃「ん〜！つつかれたあー」

マスカレーナ『マスターも大変だねえ、いつも何かしらのトラブルに巻き込まれてるよねえ』

瑠璃「まあ飛び込んで行つてるのもあるけど…最近は何んか休んではないよね」

マスカレーナ『確かにねえ、あ！あとね、他の子達もマスターとお話したい子達もいるから、よろしくね！』

瑠璃「そうだね、私も前世の頃から皆にはお世話になつてるし」

マスカレーナ『うん、私たちはマスターが男の子だった時でも女の子になつて今でも、マスターはマスター、私達を信じてくれてるって、私達も信じてる…だから私が出てきたの』

マスカレーナ達は自分を…私を信じてくれている…そう思うだけで私のココロが暖

かくなってると思う…けど…

瑠璃「マスカレーナ？」

マスカレーナ『ん？何、マスター？』

瑠璃「確かに、今私は女の子…けど前世は男なんだ、だから…その、後ろから抱き着かれると…当たるんだよね…」

そう、今マスカレーナは私の背中から抱き着いている為、マスカレーナのあれが…2つのあれが…ダイレクトに当たっているのだ

マスカレーナ『んえ？でもマスタープールに行つてた時ジュンコつて子に触られた時にも当たつてたよね？』

瑠璃「それは触られてたからパニックになつてただけで実際触られずに抱き着かれたりだったら同じ反応するよ!!」

マスカレーナ『ふうーん、あ！あとね、私たちが思ったことなんだけどさ』

瑠璃「今度は何!？」

マスカレーナ『マスターってあのカイザー亮つて人好きなの？』

瑠璃「…はあ!？」

私の顔はこの10数年間の中で1番の赤面をしたと思う

8話 予想外のタツグ前編

瑠璃 「…Z z z z…Z z z z」

ドンドンドン!!

瑠璃 「…Z z z z」

ドンドンドン!!

瑠璃 「んあ?…誰かなあ、こんな朝早くにい」

マスカレーナ 『私見てきたけど軍人さん見たいな服着てたよ』

瑠璃 「軍人?…あつ」

この瞬間に私は全て悟った…あのデュエルの犠牲者になったのだと…

だがしかし、私の予想をはるかに上回る自体に陥ったのです

瑠璃「制裁デュエルの相手見つけろとか無理言わないでください！」

クロノス「残念でスーガ、シニョール翔とドロップアウトボーイでのタッグデュエルが行われるノーデ、シニョーラ遊条のタッグの相手は見つからなかったノーネ、デスノーデ、貴女は自分でタッグを組むデュエリストを選んで来て欲しいノーネ！」

瑠璃「そんな横暴なあ!？」

瑠璃「うう、見つけられるわけない……」

マスカレーナ『そうだよねえ、負けたら退学のデュエルでパートナーに選ばれるなんて危険すぎるもんねえ』

瑠璃「どうしたものか……あ！」

亮「それで俺にタッグを組んで欲しいと」

瑠璃「お願いします！もう亮さんしか頼みの綱はないんです！」

亮「……しようがない、だが瑠璃と俺のデッキの相性の問題も」

瑠璃「その点は大丈夫です、テストの時のデッキを使うので！」

亮「テストの……！……！ターンで仕留めるのはやめておけ」

瑠璃「あれは運が良すぎたんで」

その日の夜

瑠璃「つと、確かこの海岸だよね」

マスカレーナ『マスター一体どこにいくの？』

瑠璃「十代が初めて負ける所」

マスカレーナ『え!?あのデュエルが超強な子が負けるの!?!』

瑠璃「まあしようがないけどね」

マスカレーナ『え、それってどういう…』

マスカレーナと私は海岸に目を向けると、カイザーと十代とのデュエルの決着が着く
うとしていた

隼人「十代！気張るんだな！フィールドには『サイバー・エンド・ドラゴン』が1体、

十代のフィールドには『マッドボールマン』が守備表示、『マッドボールマン』がやられても十代は生き残って『パワーボンド』のリスクダメージで十代の勝ちなんだな！」

瑠璃「それはどうかな」

亮「!?!:瑠璃か」

隼人「一体どう言うことなんだな？」

瑠璃「いや、これは私の口からよりは亮さんから言った方がいいからね」

亮「:瑠璃の言ったように、『サイバー・エンド・ドラゴン』には守備貫通能力がある」

隼人「なら十代は:」

亮「十代、君とのデュエル、とても楽しかった:エターナル・エボリューション・バー

スト！」

十代「ぐつ:楽しいデュエルだったぜ、カイザー」

LP2500 ▶0000

瑠璃「やっぱり強いですね亮さん」

亮「:褒めても何も出ないぞ」

瑠璃「いやいや、私はただ褒めてるだけですよ、相手をリスペクトしてるデュエル、それでこそカイザー亮なんですからね」

翔「リスペクト……」

瑠璃「……翔くんにも伝わったみたいですね、相手をリスペクトするデュエルが」

亮「なんの事かな……」

亮「とにかく、今度のデュエル、お互いに全力を出そう」

十代「おう！……え？お互い？」

亮「言つてなかったか？」

瑠璃「ああ言わない方が良かったんじゃない？」

翔「え！？お兄さんも何かしたの！？」

瑠璃「いや、なんにもしてないよ、私も倫理委員会に見つかつたんだけど、私はタツグの相手が見つからなかったから見つけてねって言われたんだよね」

十代「へえー！カイザーのデュエルがまた見れるのか！」

瑠璃「はあ、ほつんと呑気だね」

その後、私は明日香と一緒に寮に戻つたが……また私だけばちこり叱られた

数日後

遂に来てしまった…制裁デュエル

瑠璃「亮さん、緊張で吐きそうって言ったらどうします?」

亮「女子がそういう事を言うな」

瑠璃「吐いていいんですね?」

亮「会話のキャッチボールをしろ」

クロノス「アノー、なんでシニョール丸藤亮がいるのデスーカ?」

亮「俺が彼女のタッグデュエルのパートナーになったからです」

クロノス「な、なななナンデスート!?!」

鮫島校長「ほほおう、楽しみですな」

クロノス「ま、まあタッグは誰でも良いと言ったのは私ナノーデ、しょうがないノー

ネ」

迷兄「ほお?このアカデミアの帝王とデュエルができるとはな」

宮弟「兄者、このモノ達には負けられぬぞ」

迷兄「わかっておる、弟よ」

亮「瑠璃、お互いに本気で行こう」

瑠璃「!…でもこのデッキだと本気は…」

亮「…俺は君のカードを信じてる」

瑠璃「…ふっつ、やっぱり亮さんは強いですね、ならば見せましょう！私の最っ高のカード達を！」

4人「デュエル！」

瑠璃「私のターン！ドロー！」

瑠璃「私は『サイバー・ドラゴン・コア』を召喚！」

サイバー・ドラゴン・コア

レベル2

光属性 機械族

ATK400

DEF1500

このカードの②③の効果は1ターンに1度、いずれか1つしか使用できない

①このカードのカード名はフィールド、墓地に存在する限り『サイバー・ドラゴン』として扱う

②このカードが召喚に成功した場合に発動、デッキから『サイバー』又は『サイバネ

ティック』魔法、罨を手札に加える

③相手フィールドにのみモンスターが存在する場合、墓地のこのカードを除外するこ
とで発動、デッキから『サイバー・ドラゴン』モンスターを特殊召喚する

三沢「なんだあの『サイバー・ドラゴン』!?!」

明日香「亮のデッキにもあんなカードないわよ!?!」

おお驚いてる驚いてるけどまだまだ驚いて貰うからねえ

瑠璃「さらに! 『サイバー・ドラゴン』が召喚されたことにより『サイバー・ドラゴ
ン・ファイア』を特殊召喚!!」

サイバー・ドラゴン・ファイア

レベル4

光属性 機械族

ATK1100

DEF1600

このカード名の②の効果は1ターンに1度しか発動できない

①このカードのカード名はフィールド、墓地に存在する限り『サイバー・ドラゴン』として扱う

②自分が『サイバー・ドラゴン』の召喚、特殊召喚に成功した時発動、このカードを手札から守備表示で特殊召喚する

③このカードがモンスターゾーンに存在する限り、自分フィールドの全ての『サイバー・ドラゴン』の攻撃力、守備力は500アップする

瑠璃「『ファイア』の効果により、フィールドの『サイバー・ドラゴン』の攻守は500ポイントアップ！」

サイバー・ドラゴン・コア

ATK400 ▶ 900

DEF1500 ▶ 2000

サイバー・ドラゴン・ファイア

ATK1100 ▶ 1600

DEF1600 ▶ 2100

三沢「また見た事ないモンスターだ…一体遊条は何者なんだ…？」

明日香「確かに彼女のデュエルで使用するカードは謎なカードばかりだけど…比例しているタクティクス、カードに対しての自信、全てが謎に包まれてるような存在ね」

おお、めちゃんこ褒められるとこっちも調子乗っちゃうぞお？

瑠璃「そして『サイバー・ドラゴン・コア』の効果！デツキより『サイバー』、または『サイバネティック』と名のついた魔法、罫を1枚手札に加える！」

瑠璃「私に加えるのは『エマージェンシー・サイバー』！そしてそのまま発動！」

エマージェンシー・サイバー

通常魔法

このカード名のカードは1ターンに1枚しか発動できない

①デツキから『サイバー・ドラゴン』モンスター、または通常召喚できない機械族、光属性のモンスター1体を手札に加える

②相手によってこのカードの発動が無効になり墓地へ送られた場合、手札を1枚捨てて発動、墓地のこのカードを手札に加える

瑠璃「私を手札に加えるのは『サイバー・ドラゴン・ネクステア』!!そして『ネクステア』の効果！手札のモンスターを1体墓地に送ることによって手札から特殊召喚！」

サイバー・ドラゴン・ネクステア

レベル1

光属性 機械族

ATK2000 ▶700

DEF2000 ▶700

このカード名の②③の効果はそれぞれ1ターンに1度しか発動できない

①このカードのカード名はフィールド、墓地に存在する限り『サイバー・ドラゴン』として扱う

②手札からこのカード以外のモンスター1体を捨てて発動、このカードを手札から特殊召喚する

③このカードが召喚、特殊召喚に成功した時、攻撃力、または守備力が2100の自分の墓地の機械族モンスターを特殊召喚する、その後このターン、自分は機械族しか特殊召喚できない

瑠璃「そして『ネクステア』の効果により、墓地に送った『サイバー・ファロス』を特殊召喚！」

サイバー・ファロス

レベル1

光属性 機械族

このカード名の③の効果は1ターンに1度しか発動できない

①このカードは自分フィールドの機械族モンスター1体をリリースして手札から特殊召喚する

②1ターンに1度、自分メインフェイズに発動できる、自分の手札、フィールドから、機械族融合モンスターの融合素材を墓地に送り、EXデッキからその融合モンスターを融合召喚する

③自分の融合モンスターが戦闘で破壊された時、墓地のこのカードを除外して発動、デッキからパワーボンドを手札に加える

瑠璃「亮さん、これが私の全力です！私は『サイバー・ドラゴン・コア』、『サイバー・ドラゴン・ネクステア』でサーキットコンバイン!!」

リンク召喚!!

瑠璃「新たな力! 『サイバー・ドラゴン・ズイガー』!!」

サイバー・ドラゴン・ズイガー

LINK—2

光属性 機械族

ATK2100

『サイバー・ドラゴン』を含む機械族モンスター2体

このカード名の②の効果は1ターンに1度しか発動できない

①このカードのカード名はフィールド、墓地に存在する限り『サイバー・ドラゴン』として扱う

②このカードが攻撃宣言していない自分、相手のバトルフェイズに、自分フィールドの攻撃力2100以上の機械族モンスター1体を対象にして発動、そのモンスターの攻撃力、守備力はターン終了時まで2100アップする

この効果の発動後、ターン終了時までこのカードによるお互いの戦闘ダメージは0になる

三沢「なんだあのモンスター!？」

明日香「しかも聞いたことない召喚法を!？」

瑠璃「つてかりンク召喚出来たんだね、このデイスク」

マスカレーナ『マスターの思いに私たちが応えようとしたから出せたんだよ』

瑠璃「ほえー、すごいね」

迷兄「まだ貴様のターンは終わらんのか！」

瑠璃「あともう少しですよ！」

瑠璃「今度は『サイバー・ドラゴン・ファイア』と『サイバー・ファロス』でリンク

召喚！」

瑠璃「新たな時代の掛橋よ、今新たなる力を呼び起こす糧となれ！リンク召喚！『I：

Pマスカレーナ』!!」

I：Pマスカレーナ

LINKー2

闇属性 サイバース族

ATK800

リンクモンスター以外のモンスター2体

このカード名の①の効果は1ターンに1度しか使用できない

① 相手メインフェイズに発動、このカードを含む自分フィールドのモンスターをリンク素材としてリンク召喚する

② このカードをリンク素材としたリンクモンスターは相手の効果では破壊されない

マスカレーナ『ズイーガーさん、お久しぶり！』

ズイーガー『データナ、アストラムノソザイ』

マスカレーナ『しょうがないじゃん、効果のせいなんだから、それにそれはズイーガーさんも同じでしょ？』

ズイーガー『ナントモイエヌ』

毎回素材にしてたけどこう思ってたんか

瑠璃「そしてカードを一枚セットしてターンエンド！」

宮弟「やっと来たか、私のターン、ドロー！」

宮弟「私は『カイザー・シーホース』を召喚！」

カイザー・シーホース

レベル4

光属性 海竜族

ATK1700

DEF1650

光属性のモンスターを生贄召喚する場合、このモンスターは2体分の生贄にできる

宮弟「そして『天使の施し』発動」

天使の施し

通常魔法

デッキから3枚ドロし、手札を2枚捨てる

瑠璃「じゃあこのタイミングで『I:Pマスカレーナ』の効果！相手ターンにリンク召喚を行う！」

迷宮兄弟「何イ!？」

瑠璃「いくよマスカレーナ！ズイーガー！」

マスカレーナ『任せて！マスター！』

ズイーガー『マカセロ』

瑠璃「真なる力に目覚める時」

瑠璃&マスカレーナ「正義の剣をその身に宿す」

瑠璃&マスカレーナ&ズイーガー「リンク召喚！」

瑠璃「LINK4!」『双穹の騎士 アストラム』!!
ジャックナイフ・パラディオン

双穹の騎士 アストラム

LINK4

光属性 サイバース族

ATK3000

EXデッキから特殊召喚されたモンスター2体以上

①リンク召喚したことカードは相手の効果の対象にならず、相手は他のモンスターを攻撃対象にできない

②このカードが特殊召喚されたモンスターと戦闘を行うダメージ計算時に1度発動、このカードの攻撃力はそのダメージ計算時のみその相手モンスターの攻撃力分アップする

③リンク召喚したこのカードが相手によって墓地に送られた場合に発動、フィールドのカードを1枚選んで持ち主のデッキに戻す

? I:P マスカレーナの効果により、効果では破壊されない

迷宮兄弟「攻撃力3000だど!?」

瑠璃「それよりまだ、弟さんの『天使の施し』の効果が残ってますよ」

宮弟「私はこの2枚のカードを墓地に送り、2枚をセット、ターンエンドだ」

亮「次は俺だ、ドロー」

亮「…なるほど、確か墓地も共有だったな」

瑠璃「となると、そういう事ですか?」

亮「ああ、俺は魔法カード、『オーバーロード・フュージョン』を発動」

オーバーロード・フュージョン

通常魔法

自分フィールド、又は墓地から融合モンスターによって決められたモンスターを除外し、闇属性、機械族の融合モンスターを融合召喚する

亮「俺は墓地の、『フィア』『ネクスティア』を除外し融合、瑠璃、君から貰った力、使わせてもらおう『キメラテイク・ランページ・ドラゴン』!」

キメラテイク・ランページ・ドラゴン

レベル5

闇属性 機械族

ATK2100

DEF1600

『サイバー・ドラゴン』モンスター×2体以上

このカードの融合召喚は上記のカードでしか行えない

①このカードが融合召喚に成功した時、このカードの融合素材の数まで、フィールドの魔法、罫カードを対象にして発動、そのカードを破壊する

②1ターンの1度、自分メインフェイズに発動できる、デッキから光属性、機械族、のモンスターを2体まで墓地に送ることにより、このモンスターは通常攻撃に加え、この効果で墓地に送ったモンスターの数まで1度のバトルフェイズ中に攻撃できる

亮「融合に成功した時、『ランページ・ドラゴン』の効果により、迷宮兄弟の弟のセットカード2枚を破壊」

宮弟「ならば発動！強欲な瓶」

強欲な瓶

デッキからカードを1枚ドロウする

宮弟「強欲な瓶は2枚伏せてあった、よって2枚ドロウ」

亮「ならばこれでターンエンドだ」

迷兄「私のターンドロウ」

迷兄「私は魔法カード二重召喚デュアルサモンを発動！」

二重召喚

通常魔法

このターン通常召喚を2回行うことができる

迷兄「まず私は、『カイザー・シーホース』を生贄に、『雷魔神ーサンガ』を召喚！」

雷魔神ーサンガ

レベル7

光属性 雷族

ATK2600

DEF2200

このカードが相手のターンで攻撃された場合そのダメージ計算時に発動、そのモンスターへの攻撃力を0にする、この効果はフィールド上にいる限り1度しか使えない

迷兄「そして私はモンスターをセットしターンエンド」

三沢「すごい、互いにほぼエースと言っているいいカードが出てきている」

翔「すごい…お兄さんも楽しそう…」

十代「おお!! すごい! カイザーも瑠璃も見た事ねえモンスターを出した! おもしろえ
!」

明日香「はあ、ほんとに呑気なんだから、彼女も負ければ退学なのよ?」

十代「あ、そっか忘れてた、おーい! 瑠璃いー! 頑張れよおー!」

瑠璃「まっかせろー!」

十代が両手をブンブン振って応援してきたので、わたしもディスクを使ってない手で
手を振り返す

亮「瑠璃も呑気なものだな」

瑠璃「いえいえ、私はガチでデュエルしてるんで」

瑠璃「さあ、ここから一気に畳み掛けますよオ！」
亮「ああ」

9話 予想外のタツグ後編

瑠璃「さあ、こっから一気に畳み掛けますよお、ドロー！」

瑠璃「私は魔法カード『サイバー・リペア・プラント』を発動！」

サイバー・リペア・プラント

通常魔法

このカード名のカードは1ターンに1度しか発動できない

①自分の墓地に『サイバー・ドラゴン』が存在する場合以下の効果を発動できる。このカードの発動時、自分の墓地に『サイバー・ドラゴン』が3体以上存在する場合両方を選択出来る

・デッキから光属性、機械族のモンスターを1体手札に加える

・自分の墓地の光属性、機械族1体を対象にして発動、そのモンスターをデッキに戻す

瑠璃「私はデッキから『サイバー・ドラゴン・コア』を手札に加える！」

瑠璃「そしてそのまま召喚し、効果で『エマーゼンシー・サイバー』を手札に加える！」

瑠璃「そして『エマーゼンシー・サイバー』の効果でデッキより『サイバー・ドラゴン』を手札に加える！」

サイバー・ドラゴン

レベル5

光属性 機械族

ATK2100

DEF1600

相手フィールド上にモンスターが存在し、自分フィールド上にモンスターが存在してない場合、このカードを手札から特殊召喚することができる

瑠璃「そして『キメラテイク・ランページ・ドラゴン』の効果も発動！デッキより光属性、機械族を2体墓地に送り攻撃回数を増やす！私は、『サイバー・ドラゴン・ヘルツ』、『サイバー・ドラゴン・フィア』、この2体を墓地へ送ることにより、『キメラテイク・ランページ・ドラゴン』は3回攻撃を可能とする！」

迷宮兄弟「何だど!？」

瑠璃「そして墓地へ送られた『サイバー・ドラゴン・ヘルツ』の効果! デツキ、墓地から『サイバー・ドラゴン』を1体手札に加える加える! 私はデツキから『サイバー・ドラゴン』を手札に加える!」

サイバー・ドラゴン・ヘルツ

レベル1

光属性 機械族

ATK100

DEF100

このカード名の②③の効果は1ターンに1度、いずれが1つしか使用できない

①このカードはフィールド、墓地に存在する限り『サイバー・ドラゴン』として扱う
 ②このカードが特殊召喚に発動できる、このカードのレベルをターン終了時まで後にする、この効果を発動をしたターン自分は機械族モンスターしか特殊召喚できない

③このカードが墓地に送られたとき発動できる、自分のデツキ、墓地からこのカード以外の『サイバー・ドラゴン』を手札に加える

瑠璃「手札に『サイバー・ドラゴン』が2体…この意味が分かりますかね？」

迷兄「まさか！」

宮弟「融合!？」

瑠璃「その通り！魔法カード『パワーボンド』発動！」

瑠璃「フィールドの『サイバー・ドラゴン・コア』、手札の『サイバー・ドラゴン』2体で融合！『サイバー・エンド・ドラゴン』!!」

三沢「このデュエルでのパワーボンドでのサイバー・エンドはよく考えられてるコンボだな」

明日香「ライフが8000だからできる力技だけど、たった2ターンで出てくるなんて」

十代「すげえ！ かつけえ！」

迷兄「だがしかし、守備貫通を持っていようが『サンガ』の効果によって攻撃力を0にすれば」

瑠璃「それはどうかな」

亮「瑠璃、まさか…」

瑠璃「そのままかです！ 装備魔法『エターナル・エヴォリユーション・バースト』!!」

宮弟「なんだその装備魔法は!？」

瑠璃「この装備魔法が存在している限り、私のバトルフェイズ中に相手は魔法、罨、モンスター効果を発動できない！」

迷宮兄弟「何イイ!?!」

亮「はあ、俺は必要だったか？」

瑠璃「『キメラテイク・ランページ』は必要でしたよ?」

迷兄「だが、このターンを生き延びれば我らの勝利も」

亮「『エターナル・エヴオリュション・バースト』は墓地の『サイバー・ドラゴン』

モンスターを除外することにより、攻撃回数を増やす効果がある」

迷宮兄弟「馬鹿なあ!?!」

瑠璃「私が言いたかったなあ…まあいつか、『ゲートガーディアン』を拝めなかった代わりに、このターンで仕留めましょう、リバースカードオープン、『リミッター解除』」

サイバー・エンド・ドラゴン

ATK4000 ▶8000 ▶16000

亮「…容赦がないな」

瑠璃「ふふつ、私は亮さんみたいな完璧リスペクトは出来ないのぞ」

亮「だが、その力強さが瑠璃の魅力かもしれないな」

瑠璃「!…:そういうの、変に勘違いさせるかもですよ」

亮「???まあ、とどめをさすぞ」

瑠璃「もちろんです」

瑠璃&亮『『サイバー・エンド・ドラゴン』の攻撃!!ギガエターナル・エヴォリユーション・バーストオオオ!!』

迷宮兄弟「グワアアアアア!!」

LP80000 ▶ 00000

クロノス「しよ、勝負アリナノーネ!!」

鮫島校長「ほほお、まさかここまでの力を持っているとは…」

よっし、とりあえず退学とかは無しだ…鮫島校長の顔が少し険しい感じなのは気の所為だろう

迷兄「ううむ、まさか2周目で仕留められるとは…」

宮弟「やはりアカデミアの生徒は強いですな、兄者」

亮「ありがとうございます、迷宮兄弟の御二方」

瑠璃「ありがとうございます」

迷兄「よいよい、我らのタッグデュエルをも打ち破るデュエルへの力、さすがはアカデミアの帝王、そして、その帝王と似て非なる力を使う少女よ」

宮弟「お前達2人がプロの世界へ来るのを楽しみにしているぞ！」

迷宮兄弟「さらば!!」

迷宮兄弟はアクロバティックな動きをしながらデュエルフィールドから消えて行つた：最後までハイテンションだったなあ

数日後

男子生徒A「来たぞ、女帝だ！」

女子生徒A「カイザー様と近い力を使うのよね？お2人は一体どういう関係なのでしょうか」

「女帝！」

「瑠璃様〜！」

なんか凄いことになった

瑠璃「なんか女帝って言われるようになったんだけど…」

明日香「まあ、あのデュエルを見たら、そう言わざる負えないというか…」

瑠璃「私はちよつとなあ…私は自由に、称号なんてないデュエルがしたいのに…」

ももえ「でもとても素敵でしたわ！あのデュエル、亮様ととても息の合ったデュエルでしたわ！」

ジュンコ「もしかして亮様と何かしらの関係でもあるの？」

瑠璃「いや？ただの友達程度だとは…ん？友達なのかな？」

どう考えても友達よりかは距離はある…けど友達に近い感覚ではあるんだよなあ…

瑠璃「トモダチツテナンダツケ」

明日香「いきなりどうしたの？」

瑠璃「いや、なんだか亮さんが友達なのか、先輩なのか分からない感じなんだよね」

ももえ「もしかして、亮様のことを好いてるかもしれないわ！」

ガン！

その言葉を…好いてる…好きという言葉を聞いた瞬間私は、机に思いつき頭をぶつ
けた

ジュンコ「えっ!? 何してるの!？」

ガン!ガン!

まずいまずいまずい!!この雑念を、カイザーが好きなんていう感情を抑え込まねば!私は元男なんだぞ?!一人称が私に定着しても、女になつていても、私の前世は男なんだ!元男が男を好きになるなんぞそれってホム:いや、この言い方はまずいな、別に同性愛を否定するわけじゃないんだ、実際前世では見るのは好きな方だった:だが自分が体験したい訳じゃないんだ!

ガン!ガン!ガン!ガン!

ももえ「瑠璃さん!？」

明日香「頭から血が出てるわよ!？」

瑠璃「私は亮さんを:」ガン!ガン!ガン!

その瞬間、私の意識は途絶えた

瑠璃「んあ？ここは…」

亮「保健室だ」

瑠璃「ふえ!?!りよ、亮さん!?!なんで!?!」

亮「近くに來たら明日香達に頼まれてな」

瑠璃「しよ、しようでしゆか…」

滅茶苦茶かんだ…恥ずかしいな

亮「ところで、明日香から聞いたんだが、自分の頭を急にぶつけ始めたらしいな」

瑠璃「はい…なんでかは忘れたんですけど…」

實際なんでぶつけてたか覚えてない、多分ぶつけすぎたショックでトんだんだろう

瑠璃「ううう、まだ痛いですね」

ズキズキする

亮「まだ寝とくべきじゃないか?」

瑠璃「いえ、もう起きたので…」

少しククラする

瑠璃「うおつ!?!」

ガシツ

亮「大丈夫か?」

私が転びそうになったところをカイザーが助けてくれた、だがしかし、私は思い出してしまった、ずっと机に頭をぶつけ続けていた理由を…

ボン!!

亮「瑠璃!?!」

瑠璃「プトレノヴァインファイニティプトレノヴァインファイニティプトレノヴァインファイニティプトレノヴァインファイニティプトレノヴァインファイニティサモサモキヤットベルンベルンサモサモキヤットベルンベルンサモサモキヤットベルンベルンハリサモハリサモハリサモハリサモは禁止バンザイ…バタンキュー」

脳がショートしたのか、私は意☆味☆不☆明な言葉を繰り返したらしい
亮「とにかく、暫くは安静にするべきだ」

瑠璃「はい…」

さすがに今のはヤバいでしょ…なんでプトレノヴァインファイニティとサモサモキヤットベルンベルン、ハリサモソを連呼してたんだ？

ガラガラ

明日香「瑠璃、大丈夫？」

瑠璃「明日香…大丈夫だよ」

ももえ「それにしてもびっくりしましたわ、いきなり頭を机に打ち続けるなんて」

ジュンコ「奇行にも程があるわ」

瑠璃「そこまで言う!？」

ももえ「ですがあのタイミングであの奇行とは…やっぱり」

この後の言葉のせいで、私はまたぶっ倒れるのだった

ももえ「瑠璃さんは亮様のことを好いているのですわ!」

ポフィン!!

10話 熱血？青春デユエル

瑠璃「よっ！」

明日香「はっ！」

瑠璃「とりやあ！」

明日香「あっ!!」

瑠璃「っし！私の勝ちい！」

どうも遊条瑠璃です、今私は体育の授業としてテニスをしています、そう、テニスです

明日香「瑠璃、貴女運動神経凄いわね」

瑠璃「いやいや、バドミントンに近い物と思えばいけるよ」

実際バドミントンの方が私は好きだったりする

明日香「大分違うと思うけど」

瑠璃「まあそうだね」

私は喋りながら自然と明日香の前に立つすると

十代「明日香!!危ない!!」

ほらねえボールが飛んで…2個飛んで来たんだが!?

瑠璃「っ!？」

バシッ!!

私は左手で1個ボールを掴み、残りの1個は…まあわかるよね

???'「フン！」

クロノス「ノベツシツ!？」

うっわあ、痛そお。残り1個のボールは別の人、男子生徒が打ち返した…それにしても

アストラム『マスター、大丈夫ですか?』

瑠璃『うん、ありがとね、アストラム』

なぜ私がボールを1個驚掴みにできるようになっていたのかは朝まで遡る

マスカレーナ『そういえばマスターって精霊達の力を使わないの?』

瑠璃「精霊達の力?」

マスカレーナ『なるほど、そこからかあ、精霊達の力って言うのはマスターがわかるように言うんだつたらジ? ジョの奇? な冒? のスタン? みたいな感じだよ』

瑠璃「なるほど理解した、けど使う場合どうなるの?」

マスカレーナ『精霊によって効果は変わるけど、アストラムだったらパワーアップが基本で、身体能力かすつごく上がるんだ!』

瑠璃「ほほお?なるほど、じゃあ早速、どうやったら使えるか教えて?」

マスカレーナ『簡単だよ、心の中で名前を呼ぶだけ』

瑠璃「なるほど」

瑠璃『アストラム!』

アストラム『うお!?!ってマスター、いきなり呼ばれると驚きます』

うおお、私の中で私とアストラムが会話してる

瑠璃『今日は体育があるんだけど、その時に私の友達にボールが飛んでくるから、それを止める手伝いをして欲しいの』

アストラム『マスターの願いならば、我々精霊は従いますよ』

瑠璃『ありがとうね、アストラム』

とまあこんな感じで、私は精霊の力を使うことができるらしい、と言っても人間離れしすぎてるのは出来ないけどねっと、残りのボールを打ち返した人がこっちに來た

明日香「あ、あの」

???「君たち、大丈夫だったかい？」

明日香「ええ、大丈夫です、助けていただいて、ありがとうございました」

???「確か、君はオベリスクブルーの天上院明日香くんだね、君のような美しい人がオベリスクブルーにいたなんてね」

齒がキララン☆と言わんばかりに光るなあ、この人、確か名前は、忘れちった…それは
そうと

瑠璃「ごめんね明日香、取り損ねちゃって」

明日香「い、いや普通は取れないはずよ？」

???「ああ、そういうえば名前を言っただけだね、僕の名前は綾小路ミツル、よろしく、
明日香くん」

そう言いながら綾小路は明日香と握手を交わす

綾小路「そういえば、そっちのボールを持つてる君は…女帝の遊条瑠璃くんだね」

瑠璃「女帝はやめてください」

綾小路「それにしても、我がオベリスクブルーに君達のような美しい人達がこのアカデミアにいるとはね」

やばいやばいやばい！ゾワツとくる！熱血は別に問題ないんだよ、松岡修造好きだし、けどなんか苦手なんだよこの人

アストラム『マスターをナンパなどこの不届き者がア…』

なんか光属性が出しちやいけないオーラ出してるんだけど!?

マスカレーナ『落ち着きなよアストラム…アトドイツヨニオハナシシニイクカラ』
こつちもやばいオーラ出てるんだよなあ…

暫くして

瑠璃「うわあ、すつごいしごかれてる…」

翔「ア、アニキイ…」

ジュンコ「あれはさすがに…」

ももえ「いいんですの！顔が良ければ！」

瑠璃&ジュンコ&翔「ええ…」

私たちがももえの発言に困惑していると、十代の打った最後の球の先に明日香がいた事に気づいた

綾小路「あ、明日香くん！僕に会いに来てくれたのk「……」え!？」

綾小路が会いに来てくれたのかとお礼を言い終わる前に明日香が綾小路を素通りしたせいで、綾小路が間の抜けた声を出した

明日香「十代、大徳寺先生が、万城目くんを見たって報告を受けたらしいの」

十代「万城目が?…」

2人が万城目についての話をしていると綾小路から炎のようなオーラを浮かばせあまりにも理不尽な嫉妬をしていた

綾小路「十代くん…今僕は君にとっても嫉妬している…!」

綾小路「十代くん！僕とデュエルしろ！そして、勝った方が明日香くんのフィアンセになるんだ!」

瑠璃「いや、なんでそうなるの」

ももえ「殿方2人が明日香さんを取り合う、とつても素敵ですわあ!」

この人ある程度のことなら素敵ってい居そうだな

瑠璃「…ジュンコも大変だね」

ジュンコ「ももえは半ば手遅れだと思ってるから…」

そうこうしていると綾小路と十代とのデュエルが始まった

綾小路「僕の先攻！僕は魔法カード『サービスエース』を発動！このカードの効果により、君は僕が手札から選んだカードの種類をあてる、もし外したら、君は1500ポイントのダメージを受けてもらう」

十代「いきなりダメージかよ！」

瑠璃「せっこ」

綾小路「ウグツ！」

ん？

綾小路「こ、これも立派な戦術さ、瑠璃くん、セコイなんて言わないでくれ」

瑠璃「でも初手でそれはちよつとせこいとしか」

綾小路「グハアツ！」

嘘だろこの人

ジュンコ「メンタル弱すぎじゃない？」

瑠璃「うん、まさかここまでとは…」

十代「と、とりあえず決めさせてもらうぜ……」

十代が唸りながら考えると

十代「よし、魔法カードだ！」

綾小路「本当にそれでいいのかい？変えるなら今のうちだよ？」

十代「ちよ、ちよっとたんま！うくん、決めた！罨！罨カードだ！」

綾小路「ふふうん、ざんねん、モンスターカードでした！」

十代「くつそお」

綾小路「そして、選んだカードをゲームから除外し、1500ポイントのダメージを与える！」

十代「グツ!!」

LP4000 ▶ 2500

綾小路「そして僕はリバースカードを1枚セットして、ターンエンドだ」

十代「よし！今度は俺の番だ！ドロー！」

十代「いくぜ！『E・HEROフェザーマン』を攻撃表示で召喚！」

十代「いっけえ！爽やか部長にダイレクトアタック！フェザーショット!!」

綾小路「リバースカードオープン！『レシーブエース』!!相手攻撃を無効にし、1500ポイントのダメージを与える！」

フェザーマンの放った翼が全て十代の方へと向きを変え襲う

十代「ぐわあ！」

LP2500 ▶ 1000

綾小路「効果により、僕はデッキからカードを3枚墓地へ送る」

十代「くう、カードを1枚セットしてターンエンド」

綾小路「僕のターン！僕はこのカードを発動！『スマッシュユース』！僕のデッキトップがモンスターだった場合1000ポイントのダメージを与える！」

十代「さつきから効果ダメージばっかかよー」

綾小路「悪いがこういう戦術でね」

瑠璃「姑息」

綾小路「グハアアツ!!」

なるほどこいつ女子に言われると傷つくタイプか

瑠璃「卑怯者、陰湿、無駄な熱血、それでモテてると思うのですか？」

綾小路「ウツ!!」

(絶命) って感じがした

綾小路「と、とにかく…デッキの上はモンスター、カードさ」

十代「くっつそお、運が良すぎるぜ」

綾小路「ふふうん、運も実力のうちさ、さあ僕のスマッシュユースを受けてみよ！」

十代「そうはさせない!罨カード『フェザーウィンド』!魔法カードの効果を無効にする!」

綾小路「なにい!!」

さすが十代といわんばかりのディスプレイニードローしてるなあと感心していると、2人して笑いだした

十代「ハッハッハッハッ!!」

綾小路「ハッハッハッハッ!!」

瑠璃「うわあ…」

ジュンコ「何してるのあの2人…」

綾小路「とにかく、君のターンだ!」

十代「ああ!俺のターン! ! 来たぜ!『融合』!『バーストレディ』と『クレイマン』を融合!『E・HERO ランパートガードナー』!!」

E・HEROランパートガードナー

レベル6

地属性 戦士族

ATK2000

DEF2500

E・HEROバーストレディ+E・HEROクレイマン

このカードは融合召喚でしか特殊召喚できない

このカードは表側表示の場合、守備表示で相手にダイレクトアタックができる、代わりにダメージは半分になる

十代「いづくぜえ! 『フェザーマン』、『ランパートガードナー』のダイレクトアタック! フェザーランパートショット!!」

綾小路「ぐわああ!!」

LP4000 ▶ 1000

翔「やった!」

十代「よおし! これで互いにライフは1000だぜ!」

綾小路「くつ、だが僕はこのときを待っていた! 僕のターン! 僕は魔法カード『デュース』を発動! これは互いのライフが1000ポイントの場合発動できる、互いのプレイヤーはモンスター1体でしか、攻撃できなくなり、ダメージ関係なしに、2回連続攻撃できた者がデュエルに勝利する」

明日香「まるでテニスのルールのようなね」

瑠璃「なるほど」

そういえばW i i s p o r t sでそんなあったなあ

綾小路「そして僕は『伝説のビックサーバー』を召喚!」

出てきたのは攻撃力300の右腕がラケットの人形モンスター

瑠璃「ほんとにテニス好きだなあの人」

ももえ「自分の好きな物をデュエルに取り入れる、素敵ですわ!」

瑠璃「貴女も満足宗教に入りませんか?」

ももえ「へっ?!一体それは…?」

瑠璃「自分が好きなカードへの無限の可能性を掛け、そのカードを主体としたデッキでデュエルし、自分としては満足したデュエルをすることだよ」

ももえ「そんな素晴らしい宗教があるのですか!」

この人やばいな、少しはジュンコや翔くんみたいに「何言ってるんだこの人」っていわんばかりの顔するべきなのになあ

瑠璃「まあ私もその満足民だから、入りたければ私から紹介するね」

まあ今んとこの世界に私しか教徒はいないけど

ももえ「ふふふっ、ヂエミナイ・エルフをこの世界へ…」

どす黒くはないけどやべえオーラ放ってるなももえさん

綾小路『『ビックサーバー』は相手にダイレクトアタックができる！いけえ！『ビックサーバー』!!ビックサーバー!!』

十代「ぐっ!!」

LP1000 ▶ 700 & 綾小路1点

綾小路「そして、僕は『デューズ』の効果により1点、そして『ビックサーバー』の効果により『サービスイース』を手札に加え、君はデッキから1枚ドロウする」

十代「よし、ドロウ！」

綾小路「そして『サービスイース』を発動させて、魔法か、罫か、はたまたモンスターか」

瑠璃「うわあ、こっちまで緊張して吐きそう…うつぶ」

翔「ええ!?だ、大丈夫っすか?」

瑠璃「なんてね、むしろワクワクしてるよ」

ジュンコ「瑠璃も瑠璃ね、こんな緊迫した空気を楽しんでるなんて」

瑠璃「さあ十代、私や明日香を打ち破った実力を見せて!」

十代「おう!当たり前だ!」

十代は静かに考え、選んだ

十代「そいつはモンスターカードだ!」

綾小路「!?…ふっお見事」

翔「やったあ!!当たった!」

綾小路「最後に『デカラケ』を装備!」

ビックサーバーの後ろにビックサーバー以上のラケットが現れる

綾小路「さあ十代くん!君のターンだ!」

十代「よし!俺のターン、ドロ!」

十代「きたあ!俺は魔法カード『融合解除』を発動!」

融合解除

速攻魔法

フィールド上の融合モンスターをEXデッキに戻し、融合素材として墓地に送られたモンスターを特殊召喚する

十代「そして魔法カード、『フェザーショット』発動!」

綾小路「なんだそのカード!!」

十代「へへっ『フェザーショット』は自分フィールドのモンスターの数だけ『フェザーマン』の攻撃回数を増やすカードだ!」

綾小路「なっ!？」

十代「いっくぜえ! 『フェザーマン』の攻撃! フェザーショット三連斬!!」

綾小路「ぐっ!ぐわああああ!!」

LP1000 ▶ 0000 & 十代2点

綾小路「ぼ、ぼくが…負け…た?」

はあ、泣きじゃくらないようにするか…

瑠璃「綾小路さん、負けたぐらいでよくよして、オベリスクブルーとして恥ずかしく無いんですか?」

綾小路「!？」

瑠璃「私もさっきは言いすぎましたし…元気だしてください、勝つだけがデュエルじゃないんですから」

綾小路「き、君はなんて優しいんだ…ぜひ!僕と付き合ってください!」

…ん?

綾小路と十代以外「はあああああ!？」

瑠璃「わ、悪いですが遠慮します!失礼しました!!」

綾小路「ま、待ってください!君は僕の太陽!ヴィーナスなんだあ!」

瑠璃「やだああああ!!」

十代「ところで明日香」

明日香「な、何？」ドキドキ

十代「フィアンセってなんだ？」

明日香「!?!?!バカ」

11話 究極の精霊

瑠璃「…つと言うわけで罨カードは特定のカードとのコンボ、チェーンを組むことによつて効果を發揮する時もあります」

どうも遊条瑠璃です、今私は課題のレポートを自室で書いています

マスカレーナ『ずっと思ってたけど、マスターって1人の時って独り言多いよね』

アストラム『確かに、前世でもマスターは1人デュエルをした時も独り言が多かったですね』

瑠璃「…2人とも、そんなに私独り言多かったの？」

マスカレーナ&アストラム『はい（うん）』

瑠璃「ええ、そんなつもり無かつたんだけどなあ」

マスカレーナ『ちなみにだけど、私たち見えない人からしたらこれも十分独り言だよ？』

瑠璃「あつ、そっか」

これが今の私の日常です、十代達と授業を受けて、授業が終わったらカイザーとお話

をする…最近は何小路に追いかけてそれどころじゃないが…そして自室ではマスカレーナ達精霊と話を、これが最近の日常です

瑠璃「まあこれも十分楽しいけどね」

「どうだ？そっちにデータは見つかったのか？」

「見つかりは見つかりましたが…全く入れた覚えのないカード達デース」

「ふうん、そうか…出処は不明なはずだがデータに勝手に入ってたか、だがデュエルディスクはこつちで特定した、ペガサス、いつアカデミアに到着するんだ」

ペガサス「半日あれば十分デース、海馬ボーイ」

海馬「そうか、なら12時間後…午前9時がアカデミア到着時刻としよう」

ペガサス「了解デース、それではまた後で」

海馬瀬人、最強のデュエリストと言っていいほどの実力を持ち、海馬コーポレーション社長、伝説のモンスター青眼の白龍を操る存在、これを聞いて知らない人間など居ない人だ

ペガサス・J・クロフォード、デュエルモンスターズ（元の名前はマジック&ウィザード）の生みの親にしてインダストリアル・イリユージョン社の会長、デュエリストとしても相当な実力をもつ人、そして少し前までは千年アイテムのひとつ千年眼ミレニアムアイを持っている、こちら知らない人など居ない

海馬「首を洗って待っている…」

ペガサス「会うのがとてもとても楽しみデース」

海馬&ペガサス「遊条瑠璃」

翌日

瑠璃「ん〜！全く今日はいい天気だ！」

明日香「どうしたの？機嫌がいいけど」

瑠璃「レポートがいい感じにかけたからね」

明日香「そう…そんなに上出来なら十代にでもアドバイスしてあげたら？」

瑠璃「う〜んそうだね、たまには教えてあげるかあ」

そうして私達はアカデミアに到着し、いつも通りクロノス先生の授業を受ける…はずでした

クロノス「ええ〜今回の授業は実技なノーネ」

十代「お！デュエルすんのか！」

クロノス「静かにするノーネ！…ノホン、実技と言ってもシニョーラ遊条！貴女が実技担当をしてもらうノーネ！」

瑠璃「え？私ですか？」

クロノス「という訳で、ミナサーン、場所を移動するノーネ！」

そう言われながら私達はデュエルコートに移動し、私だけデュエルをされる事となつ

みデース」

海馬「そもそも貴様が敗北した場合、未知のカード全てを貰う、俺達が敗北した場合、無闇矢鱈にばらまかない事を条件として使用を許可する」

瑠璃「わかりました、良いですよ」

海馬「そして、戦うならば全力、圧倒的な力を持ったデッキを使い！」

瑠璃「!?そ、それは…」

ペガサス「ならば我々が勝利した場合の条件を飲んでもらいマース」

…確かにあのデッキを使えばいくら海馬社長、ペガサス会長だろうが一瞬でケリを付けられる、けど、もし使ってしまったら…私は十代達を敵に回すかもしれない…けど…

瑠璃「…わかりました、受けましょうその条件」

海馬「ふうん、ならばデュエル開始だ!」

ペガサス「ちなみに、ミーと海馬ボーイのタッグデュエルスライフは互いに8000、遊条ガールは2人分のフィールドとライフを使いマース」

やるしかない、この子達…マスカレーナ達を守るには…このデュエル、勝つ!

ペガサス&海馬&瑠璃「デュエル!!」

海馬「俺のターンドロー!」

海馬「『ブラッド・ヴォルス』召喚!」

ブラッド・ヴォルス

レベル4

閻属性 獣戦士族

ATK1900

DEF1200

悪行の限りを尽くし、それを喜びとしてる魔獣人。手にした斧は常に血に塗れている

海馬「カードを1枚セットし、ターンエンドだ！」

ペガサス「私のターンドロ、私は『弓を引くマーメイド』を召喚！」

弓を引くマーメイド

レベル4

水属性 水族

ATK1400

DEF1500

普段は貝殻の中に身を隠し、近づく者に矢を放つマーメイド。

ペガサス「ターンエンドデース」

瑠璃「私のターン、ドロー！」

瑠璃「っ…私は『暗黒の招来神』を召喚」

暗黒の招来神

レベル2

闇属性 悪魔族

ATK0

DEF0

このカードの①の効果はターンに1度しか使えない

①召喚に成功した時、三幻魔の名が記されているカードを1枚手札に加える

②このカードがフィールドに存在する場合、悪魔族、攻守0のモンスターの召喚権を1つ増やす

海馬「…これが貴様の最強のデッキのモンスターとでも言うのか？」

海馬瀬人は怒りに近い様な声で話す

瑠璃「ええ、そうです…ただこの子は進化の過程に過ぎない、その子の効果により！私は『三幻魔』を記しているカードを手札に加える!!」

鮫島校長「なんですと!?!『三幻魔』!?!」

!?!鮫島校長!?!居たんですか…:…もうしようがない、やるしかないんです!

瑠璃「私は『七精の解門』を手札に加え発動!」

七精の解門

永続魔法

このカード名のカードは1ターンに1度しか使えない

①このカードの発動の効果処理として『三幻魔』を記しているモンスターを手札に加える

②1ターンに1度、手札を1枚墓地に送り発動できる、墓地から攻守0の悪魔族モンスターを1体特殊召喚する

③1ターンに1度、自分フィールドにレベル10モンスターが存在する場合発動できる、墓地から永続魔法を1枚手札に加える

瑠璃「『七精の解門』の効果により…『暗黒の招喚神』を手札に加える…」

瑠璃「そして『招来神』の効果により、『招来神』を生贄に！…『暗黒の召喚神』を召喚！」

暗黒の召喚神

レベル5

闇属性 悪魔族

ATK0

DEF0

このカード名の①の効果は1ターンに1度しか発動できない

①このカードを生贄にし『三幻魔』を1体召喚条件を無視し特殊召喚する、その代わりこのターン自分のモンスターは攻撃できない

②墓地のこのカードを除外して発動、デッキから『三幻魔』を1体手札に加える

瑠璃「私は…『暗黒の召喚神』を生贄にし…！」

ドクン!!

私の中で何かが動くような感じがした…心臓が大きく脈をうち、体が痛い、寒い…熱い…呼吸も荒くなってる気がする

鮫島校長「クロノス教諭！今すぐこのデュエルを中し「ダメです!!」!?」

瑠璃「私はこの子達を…私のカードを守ります！『暗黒の召喚神』を生贄にし！降臨せよ！『降雷皇ハモン』!!!」

私とその名を呼ぶとデッキから青白い雷がビリビリと鳴り出し、カードが1枚飛び出した、そのカードから大量の放電が放たれると、カードから降雷皇ハモンが降臨していた

ハモン『久しいな…我が主様ヨ…』

降雷皇ハモン

レベル10

光属性 雷族

ATK4000

DEF4000

このカードは通常召喚できない。自分フィールドの表側表示の永続魔法カード3枚を墓地へ送った場合のみ特殊召喚できる。

①：このカードがモンスターゾーンに守備表示で存在する限り、相手は他のモンスターを攻撃対象に選択できない。

②：このカードが戦闘で相手モンスターを破壊し墓地へ送った場合に発動する。相手に1000ダメージを与える。

瑠璃「ごめんね、今までずっと閉じ込めて…」

ハモン『この世界ならばしようがないだろう…サア我らを今一度、解放セヨ!』

明日香「ソリッドビジョンが…」

翔「喋った…」

皆はこの光景が有り得ないと思いつつ見ている、ソリッドビジョンのモンスターはいわゆるホログラムに近い存在、いわばモンスターはNPC同様特定の言葉などしか話さない存在でもあり、会話なんてもつてのほかである

十代「あいつ、寂しそうだ…」

三沢「どういう事だ？」

十代「あのモンスター、なんだか寂しいって思ってる気がするんだ…なんだか周りから嫌われ続けている感じつつうか…わかんねえけど、寂しそうなんだ!」

十代の言うとうりだ、私はこの世界に生まれ落ち、このカード達を取り戻した時、真つ先にこの『幻魔デッキ』を封印した、だが今日、このカード達は何故か私のポツケに入っていた、この事を見越していたのかはわからないが…私の為を思いやったのならなんと

愛おしいのだろうか、私の為、私を愛してくれている、そう思うとさっきまでの心の痛みが消えていく感じがする

ハモン『サア、我が同胞を呼び起こしてくれ…主』

瑠璃「わかってる、私は『七精の解門』の効果により、手札を1枚捨て、墓地のモンスターを蘇生する！私は効果で墓地に送った『混沌の召喚神』を蘇生！」

混沌の召喚神

レベル1

闇属性 悪魔族

ATK0

DEF0

このカード名の①の効果は1ターンに1度しか発動できない

①フィールドのこのカードを生贄にし、手札の『三幻魔』を1体召喚条件を無視し特殊召喚する

②墓地のこのカードを除外して『失楽園』を手札に加える

瑠璃「そして私は『暗黒の召喚神』の効果を発動！このカードを除外し、デッキより

『三幻魔』を1体手札に加える…そして『混沌の召喚神』を生贄に！降臨せよ！『幻魔皇ラビエル』!!!」

私が『ラビエル』のカードを掲げると、カードに紫色のオーラが集まり宙に浮く、そのオーラは集まるにつれて色が濃くなり1体のモンスター、皇へと姿を変えた

幻魔皇ラビエル

レベル10

闇属性 悪魔族

ATK4000

DEF4000

このカードは通常召喚できない。自分フィールドの悪魔族モンスター3体をリリースした場合のみ特殊召喚できる。①：1ターンに1度、このカード以外の自分フィールドのモンスター1体をリリースして発動できる。このカードの攻撃力はターン終了時まで、リリースしたモンスターの元々の攻撃力分アップする。②：相手がモンスターの召喚に成功した場合に発動する。自分フィールドに「幻魔トークン」(悪魔族・闇・星1：攻/守1000)1体を特殊召喚する。このトークンは攻撃宣言できない。

ラビエル『待っていたぞ、我らを呼び起こす事を！』

瑠璃「待たせてごめんね、ラビエル」

ラビエル『ならば次のターンに、我ら三幻魔の力を思い知らせるのだ！』

瑠璃「そうだね、ならここで引き当てよう！フィールド魔法『失樂園』！」

失樂園

フィールド魔法

このカードの②の効果は1ターンに1度しか発動できない

①三幻魔、混沌幻魔アーミタイルは効果の対象にならず、効果では破壊されない

②三幻魔、混沌幻魔アーミタイルのいずれかが存在する場合発動できる、デッキからカードを2枚ドロウする

私がデュエルディスクに失樂園を挿入すると、辺りは朽ち果てた大地へと変わり、希望なんてない、絶望が蔓延る世界…私達の樂園へと変わった

海馬「ふうん、そうか、それが貴様のエースカード…」

ペガサス「ワアオ！まるで『三幻神』を思い出させるヴィジュアルデース！」

瑠璃「『三幻神』よりは力は劣りますが、それ相応の力はこの子達は持ってます！『失楽園』の効果！『幻魔』がいることでデッキからカードを2枚ドロー!!」

瑠璃「…そして私はターンエンド」

海馬「ふうん、攻撃力4000ならばそれを超えればいいだけの事、俺のターン！」

海馬「俺は魔法カード『天使の施し』を発動！3枚ドローし、2枚捨てる！」

海馬「そして『死者蘇生』！」

瑠璃「まさか…」

海馬『俺のプライド…そして俺の魂い！青眼の白龍!!』

青き目を持つ竜が現れ、咆哮を放つ、まるで出てきたことを喜び、誇りに思うように

青眼の白龍

レベル8

光属性 ドラゴン族

ATK3000

DEF2500

高い攻撃力を誇る伝説のドラゴン。どんな相手でも粉碎する、その破壊力は計り知れない。

海馬「さらに罨カード『リビングデッドの呼び声』を発動、墓地のもう1体の『青眼の白龍』を召喚！」

瑠璃「『青眼』が、2体！」

海馬「ふうん、貴様もどうするかわかったか…『融合』発動！」

ペガサス「ワアオ！既に『青眼の白龍』を3枚持っていたのデース！」

瑠璃「やばい…くる！」

海馬「これこそ、世界最強いや、宇宙最強のドラゴン『青眼の究極竜』!!」

青眼の究極竜

レベル12

光属性 ドラゴン族

ATK4500

DEF3800

「青眼の白龍」＋「青眼の白龍」＋「青眼の白龍」

十代「おお！瑠璃のモンスターの攻撃力を上回った！」

三沢「だが、油断はできない、仮にも素の攻撃が4000だ、そして『究極竜』と違

い効果もある」

海馬「バトル！『究極竜』で『降雷皇ハモン』を攻撃！アルティメット・バーストオ
!!」

瑠璃「グウウ！」

LP8000 ▶ 7500

海馬「ターンエンドだ」

ペガサス「私のターン、ドロー」

ペガサス「私も魔法カード『融合』を発動！」

ペガサス「手札の『サクリファイズ』と『千眼の邪教神』で融合！『サウザンド・ア
イズ・サクリファイズ』!!」

サウザンド・アイズ・サクリファイズ

レベル1

闇属性 魔法使い族

ATK0

DEF0

「サクリファイズ」 + 「千眼の邪教神」

①：このカードがモンスターゾーンに存在する限り、このカード以外のフィールドのモンスターは表示形式を変更できず、攻撃できない。

②：1ターンに1度、相手フィールドのモンスター1体を対象として発動できる。その相手モンスターを装備カード扱いとしてこのカードに装備する（1体のみ装備可能）。

③：このカードの攻撃力・守備力は、このカードの効果で装備したモンスターのそれぞれの数値になり、このカードが戦闘で破壊される場合、代わりに装備したそのモンスターを破壊する。

ペガサス「そして、私は『弓を引くマーメイド』を生贄に『トウン・サイバー・ドラゴン』を召喚！」

トウン・サイバー・ドラゴン

レベル5

光属性 機械族

ATK2100

DEF1600

①：相手フィールドにモンスターが存在し、自分フィールドにモンスターが存在しない場合、このカードは手札から特殊召喚できる。

②：このカードは召喚・反転召喚・特殊召喚したターンには攻撃できない。

③：自分フィールドに「トゥーン・ワールド」が存在し、相手フィールドにトゥーンモンスターが存在しない場合、このカードは直接攻撃できる。

瑠璃「この瞬間！『ラビエル』の効果！通常召喚に成功した事により『幻魔トークン』を呼び出す！」

幻魔トークン

レベル1

闇属性 悪魔族

ATK1000

DEF1000

ペガサス「おお、小さい『ラビエル』デース、それなら恐るるに足らずと面白いマース！『シエンの間者』を発動！『トゥーン・サイバー・ドラゴン』のコントロールを遊条ガールに移しマース！」

シエンの間者

通常魔法

自分フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択して発動する。このターンのエンドフェイズ時まで、選択したカードのコントロールを相手に移す。

瑠璃「なるほど：『サウザンド・アイズ・サクリファイス』は相手のフィールドを対象に取るため：『ラビエル』は『失樂園』で対象に取れないから送り付けて強化させる…考えられてますね」

ペガサス「その通りデース、私は『サウザンド・アイズ・サクリファイス』の効果で『トウーン・サイバー・ドラゴン』を吸収しマース」

サクリファイスはトウーンとなったサイバー・ドラゴンを飲み込み、力を溜め込み始めた

サウザンド・アイズ・サクリファイス

ATK0 ▶ 2100

DEF0 ▶ 1600

ペガサス「そして『禁じられた聖杯』を『サウザンド・アイズ・サクリファイス』に

発動！」

瑠璃「なっ?!:いや、これは」

翔「ええ?なんで『聖杯』を使ったの?効果が無効になって『サクリファイス』はたった400になるのに」

サウザンド・アイズ・サクリファイス

ATK2100 ▶400

DEF1600 ▶0

三沢「いや、これでいいんだ」

翔「え?なんで?」

十代「:『サウザンド・アイズ・サクリファイス』の攻撃無効効果をも無効にするってことだ」

明日香「つまり:攻撃表示の『幻魔トークン』に:」

ペガサス『究極竜』も私のフィールドのモンスターとして扱うため!バトル!『究極竜』で『幻魔トークン』に攻撃!アルティメット・バースト!」

瑠璃「ぐわああ!!」

LP7500 ▶4000

ペガサス「ターンエンド、そして次のターンからサクリファイスの効果により、遊条

ガールは攻撃デキマセーン」

瑠璃「私の、ターン…ドロー！そして『失樂園』の効果で2枚ドロー！」

瑠璃「もう…この手しかない！私は『トーチトークン』を2体生成することにより、相手フィールドに『トーチ・ゴーレム』を特殊召喚！」

トーチ・ゴーレム

レベル8

闇属性 悪魔族

ATK3000

DEF300

このカードは通常召喚できない。自分フィールドに「トーチトークン」（悪魔族・闇・星1・攻/守0）2体を攻撃表示で特殊召喚する事によって相手フィールドに特殊召喚できる。このカードを特殊召喚するターン、自分は通常召喚できない。

瑠璃「そして、私は『トーチトークン』1体でリンク召喚！きて、リンクリボー！」

リンクリボー

LINK-1

闇属性 サイバース族

ATK300

レベル1モンスター1体

このカード名の②の効果は1ターンに1度しか使用できない。

①：相手モンスターの攻撃宣言時、このカードをリリースして発動できる。その相手モンスターの攻撃力はターン終了時まで0になる。

②：このカードが墓地に存在する場合、自分フィールドのレベル1モンスター1体をリリースして発動できる。このカードを墓地から特殊召喚する。この効果は相手ターンでも発動できる。

海馬「これが貴様が行う未知の召喚法か…」

ペガサス「ワアオ！モンスター1体で新たなモンスターを生み出す、素晴らしいデス！」

瑠璃「驚くのはまだ早いですよ！さらにもう1体の『トーチトークン』でもう1体の『リンクリボー』を召喚！」

瑠璃「そして『リンクリボー』2体でさらにリンク召喚！」

瑠璃「我が眷属を真なる力へと繋ぐ糧よ！今姿を現し、我が力となれ！リンク召喚！
LINK2『アカシック・マジシャン』!!」

アカシック・マジシャン

LINK-2

闇属性 魔法使い族

ATK1700

トークン以外の同じ種族のモンスター2体

自分は「アカシック・マジシャン」を1ターンの1度しかリンク召喚できない。

①：このカードがリンク召喚に成功した場合に発動する。このカードのリンク先のモンスターを全て持ち主の手札に戻す。

②：1ターンの1度、カード名を1つ宣言して発動できる。このカードの相互リンク先のモンスターのリンクマーカーの合計分だけ自分のデッキの上からカードをめくり、その中に宣言したカードがあつた場合、そのカードを手札に加える。それ以外のめくつたカードは全て墓地へ送る。

瑠璃「『アカシック・マジシャン』の効果により、私はLINK先の『トーチ・ゴーレ

ム』を回収！」

海馬「何！手札に戻っただど!？」

瑠璃「リンクモンスターは赤い矢印の先にモンスター効果を、与えるのが多いです、そしてまた『トーチトークン』を、召喚し、『トーチ・ゴレム』召喚！」

瑠璃「そしてこの2体でリンク召喚！こい！『セキュリティ・ドラゴン』！」

セキュリティ・ドラゴン

LINK—2

光属性 サイバース族

ATK1100

モンスター2体

このカード名の効果は1ターンに1度しか使用できない。

①：このカードがフィールドに表側表示で存在する限り1度だけ、このカードが相互リンク状態の場合に相手フィールドのモンスター1体を対象として発動できる。そのモンスターを持ち主の手札に戻す。

瑠璃『セキュリティ・ドラゴン』の効果により、私は『サウザンド・アイズサクリファ

イス』を手札：融合デツキに戻させて貰う！」

ペガサス「オウマイガー！」

瑠璃「これだけじゃない：私は魔法カード『次元融合殺』を発動！手札の『神炎皇ウリア』、墓地の『降雷皇ハモン』、フィールドの『幻魔皇ラビエル』をゲームより除外！これによりこのモンスターを召喚！」

次元融合殺

通常魔法

①：自分の手札・フィールド・墓地から、「幻魔」融合モンスターカードによって決められた融合素材モンスターを除外し、その融合モンスター1体をEXデツキから召喚条件を無視して特殊召喚する。この効果で特殊召喚したモンスターの戦闘で発生する自分への戦闘ダメージは0になる。自分フィールドに「神炎皇ウリア」「降雷皇ハモン」「幻魔皇ラビエル」のいずれかが存在する場合、このカードの発動に対して相手は効果を発動できない。

『真の混沌に目醒めし幻魔ヨ：怒りの炎、憎しみの雷、悪夢の拳を今一つにし、世界を混

沌に沈ませろ！

次元！融合！殺！混沌幻魔：アーミタイル!!』

墓地のハモンが雷となり、フィールドのラビエルに集まり、手札のウリアは炎となりラビエルに集まる：ラビエルは召喚された時の紫色のオーラが膨張し、混沌の具現化、終焉を望む存在が現れた

混沌幻魔アーミタイル

レベル☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

闇属性 悪魔族

ATK／00000 DEF／0

「神炎皇ウリア」＋「降雷皇ハモン」＋「幻魔皇ラビエル」

自分フィールドの上記カードを除外した場合のみ、EXデッキから特殊召喚できる（「融合」は必要としない）。①：このカードの攻撃力は自分ターンの間10000アップする。

②：このカードは戦闘では破壊されない。

瑠璃「このモンスターは私のターンのみ、攻撃力は10000となる」

海馬「100000……だと……」

瑠璃「まだです、手札を捨てることにより、『七精の解門』の効果、攻守0の悪魔族を甦らせる：『暗黒の招来神』、そして召喚された効果により『降雷皇ハモン』を手札に加える」

瑠璃「そして永続魔法『失楽の霹靂』を2枚発動」

失楽の霹靂

永続魔法

①：「降雷皇ハモン」を自身の方法で特殊召喚する場合、自分フィールドの裏側表示の魔法カードを墓地へ送る事もできる。

②：iターンに1度、自分フィールドに「降雷皇ハモン」が攻撃表示で存在する場合、相手が発動した魔法・罫カードの効果を無効にできる。その後、自分フィールドの「降雷皇ハモン」1体を選んで守備表示にする。③：自分フィールドの表側表示の「神炎皇ウリア」「降雷皇ハモン」「幻魔皇ラビエル」のいずれかがフィールドから離れた場合に発動する。このターン、自分が受ける全てのダメージは0になる。

瑠璃「永続的魔法3枚を墓地に送り、手札の『降雷皇ハモン』をもう一度降臨させる」

ハモン『マタ我か：重労働法違反で訴える力：』

瑠璃「やめようね？それにまだ2回目だし」

私はため息を吐いてから展開の続きを開始する

瑠璃「そして『アカシック・マジシャン』、『セキユリテイ・ドラゴン』、この2体でリンク召喚：LINK2『転晶のコーディネラル』」

転晶のコーディネラル

LINK-2

地属性 岩石族

効果モンスター2体

このカード名の②の効果は1ターンに1度しか使用できない。

①：リンク状態のこのカード及びこのカードのリンク先のモンスターは相手の効果では破壊されない。

②：このカードのリンク先にモンスターが2体存在する場合に発動できる。そのモンスター2体のコントロールを入れ替える。

海馬「赤い矢印の先にいるのは：『トーチ・ゴーレム』！」

瑠璃「効果により、矢印の先にいる『トーチ・ゴーレム』と『暗黒の招来神』の位置を取り替える！」

三沢「まさか…あの2人が負けると言うのか!？」

瑠璃「バトル! 『混沌幻魔アーミタイル』で『暗黒の招来神』を攻撃! 全土滅殺転生波!!」

ペガサス「グオオオオオ!!」

海馬「クツ、グオオオ!」

LP8000 ▶ 0000

ソリッドビジョンで煙が立っている瞬間に私は先程デュエルしてた2人に飛びかかった

瑠璃『アストラム!』

アストラム『足の強化、了解です!』

私の足は驚異的なスピードで2人の近くに寄り、2人の腕をつかみ、デュエルコート
を後にした

翔「ううう…埃が…あれ? 僕達何を?」

明日香「確か、瑠璃とペガサス会長と海馬社長がデュエルしてて…? 3人ともいない!？」

鮫島校長「む…何か忘れているような…？」

瑠璃の寮の部屋

瑠璃「つときて、御二方には話しておきましよう」

海馬「まで貴様、一体今何をした？」

ペガサス「人間が出来る動きではありません」

瑠璃「とりあえず、話が出来る子供達を实体化させますね」

ラビエル『待ってくれ主、ここは我々三幻魔に任せてくれ』

瑠璃「…さつき戦ってた子供達、『三幻魔』が話したがつてるようです」

海馬「ふうん、野蛮な怪物かと思ったが話ができそうだな」
ペガサス「それでワ、遊条ガールとの契約を開始しマース」

12話 秘密の会議 三幻魔人間化!?

海馬「ふうん、まずは遊条瑠璃、貴様の素性を話してもらおうか」

瑠璃「はい、私は『我が主を貴様呼ばわり』とは頭が高いぞ人間!」

私が素性を明かそうとすると私のデツキからラビエルが飛び出してきた。だが、ラビエルは体が人間になっており、髪は体と同じ青色で、執事のような服装をしていた。顔つきもだいぶ整っている、多分人間と言っても信じるし、ラビエルだと言っても信じないぐらいだ

海馬「お前は、さっきの幻魔の1体か」

ラビエル「左様、我は『幻魔』の統率者、『幻魔皇ラビエル』である、人間にお前呼ばわりされる筋合いはない」

瑠璃「ちよっ!?海馬さんに失礼だよ!」

私はすぐにラビエルをなだめた、なだめようとした時「頭を撫でてくれ」と言われた時はめっちゃびっくりした

ペガサス「ところで、遊条ガール?」

瑠璃「はい?なんでしょうか?ペガサスさん?」

ペガサス「ユーの持っているカードにリンク、というモンスターがいましたが…そのカードを見せていただけませんか？」

瑠璃「それならいっその事私がいた世界のルールブックとこっちにないカードを数枚貸しますよ」

ペガサス「センキューデース！」

私がルールブックを手渡すとペガサスは齧り付くように本を凝視し続けていたので、海馬社長には私には前世の記憶があり、そこでもデュエルモンスターズがある事、この世界を知っているという事だけを教えた

海馬「ふうん、つまり貴様は前世の「また貴様と言ったな！人間！」

ラビエルは堪忍袋の緒が切れたらしく、海馬社長に襲いかかろうとした

瑠璃「ラビエル!!お座り！」

ラビエル「御意!!」

ラビエルにお座りと命令すると左膝を地面につけ、右足を立てるよく忍者とかがしているポーズになった

瑠璃「すみません、うちの子が…」

海馬「もう少し話が出来るやつはいないのか」

ハモン『我に任せてくれ…主』

瑠璃「今度は『ハモン』が話すそうです」

ハモン「先程は済まない…うちの阿呆ガ、我が名は『降雷皇ハモン』…あの阿呆よりは話せるはずダ」

海馬「ふうん貴様は先程の『幻魔』より話せるようだな」

ハモン「ハア、我はしゃべるのは苦手なのだがナ…ネムイ…」

ちなみにハモンの見た目は体の色と同じ髪の色見た目はメイド服な辺り、ハモンって女性…？顔つきは大人びており、綺麗だ

ハモン「それに…私は…幻魔としての…威…厳の、為…堅苦し、くしなれば…Z z z z」

ハモンは私のベッドに倒れ込み、寝息を立て始めた

海馬「…貴様の幻魔はこういうヤツらしいのか」

瑠璃「ま、まだ1人いますから」

瑠璃『ウ、ウリア…？』

ウリア「…なんすか？」

ウリアは自身と同じ髪の色、目にくつきりとクマができており、なんだか嫌がつてる様子でもある、ラビエル同様執事服を着ているが、着崩しているため、だいぶやさぐれ

てるように見える

海馬「…まともな奴がいないぞ」

ウリア「…つああーすんません、うちのアホと寝坊助が、んでもってお話ですか？」

海馬「ふうん、貴様ら幻魔、話によれば機皇帝などの存在していないカードを所持しているとなれば、ばら撒かれるのは不都合だからな」

ウリア「つだから勝つても負けても損害つつうか、ばら撒きだけは回避出来るようにしたんすか」

海馬「そういう事だ」

あれ？ウリアが一番まともなんじゃ…

ラビエル「ウリア！主の御前だぞ！着崩してその服を着るんじゃない！」

ウリアは面倒くさそうに頭を掻きながら

ウリア「はあ…別にすっかりしろとは言われてないし…第一お前のせいで主は俺たちを差し出さなきゃいけない状況になりかけたかもしれないんだぞ、ほんつとにお前は先の事を考えないな」

ラビエル「うっ…確かに、そうだ…主、本当に申し訳ない…」

瑠璃「いや、別にいいよ渡すことにはなつてないし」

ラビエル「うう、本当に、本当に申し訳ない…」

ウリア「…お前ホントに俺らの統率者かよ」

瑠璃「うんそれは思った」

海馬「とにかく、無闇矢鱈にばらまかないならばこの話は終わりだ」

ペガサス「ふう、読み終えマシタ」

海馬「ペガサス、そのルールブックを貸してもらおう」

ペガサス「OKデース」

ペガサス「遊条ガール、カードをお返ししマース」

瑠璃「はい、どういたしまして」

海馬「とにかく用事は全て済んだ帰らせて貰うぞ」

ペガサス「!、遊条ガール」

瑠璃「はい? なんですか?」

ペガサス「今回の件でユーのアカデミアの生活が変わってしまったハズ: 我々インダストリアル・イリユージョン社は今後貴女を全面的にバックアップしマース」

瑠璃「え!?! 良いんですか!?!」

ペガサス「もちろんデース」

海馬「…海馬コーポレーションもある程度のサポートはしよう」

瑠璃「ありがとうございます!」

ペガサス「それでわ、失礼しマース」

ペガサスが私の部屋のペランダを開けるとヘリコプターが待機しており、ペガサスと海馬社長が乗り込んでアカデミアから去っていった

瑠璃「…嵐みたいだったなあ」

ウリア「ああ、とにかく俺は帰りますね」

瑠璃「あ！そういうえばみんなにどう説明しよう…」

ウリア「つあれか、ならそこら辺は処理しときましたよ」

瑠璃「…え？」

ラビエル「我らの力を侮っては困るぞ、主」

ウリア「俺らにかかれば人間の記憶の改変ぐらい造作もないんすよ」

瑠璃「え…凄」

瑠璃「おはよー明日香」

明日香「おはよう、瑠璃」

瑠璃「そういえば昨日の事なんだけど」

明日香「そうよ！貴女あの後どこにいたの!？」

瑠璃「実はペガサス会長と海馬社長が話をしたいって言われて、内容は企業秘密で言えないから」

明日香「そうなの…まあ無事でよかったわ」

その後、ももえとジュンコに海馬社長とペガサスと密会？した事をめちやくちや問いただされたけど、みんな私が三幻魔やリンク召喚を使っていた事をホントに忘れてるみたいだ

瑠璃『凄いね、幻魔の力って』

ウリア『まあ、究極の精霊って言われてますし…』

ラビエル『だから何故ウリアは主に対して軽い口調で話す！もう少し敬意をもつてだな！』

ハモン『ウルサイ…眠れない…Zzzzz』

瑠璃『いや寝てるじゃん！』

十代「んがっ!？」

大徳寺「十代くうん？次寝ていたらレポートの提出をしてもらおうニヤ」

十代「ゲッ！すみません！」

大徳寺「それと遊条さん？授業中はお静かにニヤ」

瑠璃「す、すみません」

瑠璃『全く、3人とももう少し静かにしようよ』

マスカレーナ『そうですよ！マスターの迷惑はしちゃダメです！』

アストラム『全くだ、究極の精霊だろうがマスターの邪魔はしてはならないです』

ラビエル『うう、申し訳ない…』

ウリア『俺もすみませんでした…』

ハモン『申し訳…ござい…ませ…Zzzzz』

瑠璃『あつ結局寝るんだ』

十代「おーい！瑠璃ー！」

瑠璃「んあ？十代、どうしたの？」

十代「瑠璃つて精霊見えたりするか？」

瑠璃「え？見えるよ、今私5人ぐらいの精霊と話してたし…」

この時期の十代はもう精霊バツチり見えるから問題ないね

十代「実はハネクリボーがいなくなつて、探すの手伝つてくれないか？」

瑠璃「ハネクリボーが？十代大好きなの？」

十代「だから手伝つてくれ！頼む！」

瑠璃「いいよ、私の精霊にも手伝つてもらおうね」

十代「お！瑠璃の精霊かあ！」

ウリア『ウリアつて名前です、よろしく』

ラビエル『ラビエルだ、主のお心遣いに感謝しろ』

マスカレーナ『マスカレーナつて呼んでね！十代くん！』

アストラム『アストラムという、よろしく頼む』

ハモン『Zzzzz…!!…ハモン…よろしく…』

13話 誘拐ハネクリボー

瑠璃「おーいハネクリボー！」

どうも遊条瑠璃です、今私は十代の相棒のハネクリボーを探しています
ウリア『でも、なんだか変な感じしますね』

ハモン『確かに：十代大好きの：ハネ：クリ：Z Z Z』

ラビエル『寝るなあ!!』

ゴン！

ハモン『くくッ!?何するんですか!?!』

瑠璃「いや、今のはハモンが悪いよ？」

十代「ハネクリボー!どこだよ！」

マスカレーナ『うーん、見つからないねえ』

アストラム『：！こっちです』

瑠璃「え？分かるの？」

アストラム『何となくですが：』

私たちがアストラムについて行くと、タイタンと戦った廃寮に到着した

瑠璃 「ここつて…」

十代 「廃寮だよな…」

アストラム 『ここです』

そう言いながらアストラムは廃寮に入っていく

瑠璃 「えっ、でもこれ入っちゃったら」

ウリア 「うーん、『立ち入り禁止』…」

瑠璃 「ウ、ウリア？なんで実体化してるの？」

十代 「おお！ウリアって実体化出来るのか!？」

ウリア 「まあ俺とハモンとラビエルはできますよ」

ウリア 「そして立ち入り禁止の看板をこうすることもできます」

ゴオオオ!!

瑠璃 「えっちよっ!？」

ウリアは右手をピストルの様な形にすると指先から勢いよく炎を出して『立ち入り禁止』の看板を燃やし尽くした：灰も残らず

ウリア 「最初から立ち入り禁止の看板なんて無かった：いいね？」

ハモン 「はあ、でも主や十代君は入ったら不味そうですし：待機をお願いします」

ラビエル「ハネクリボーさえ見つけなければいいからな、主達はすれ違わないか見張りを願いたい」

3人とも実体化し、マスカレーナとアストラムも後をついて行った

瑠璃「そういえば十代って昔はどんなカード使ってたの？」

十代「俺か？うーん、覚えてないんだよな、そう言う瑠璃はどうなんだ？」

瑠璃「私？私は昔からサイバー・ドラゴンとか、十代と戦った時の水属性デツキ、機皇とか色々使ってたよ」

十代「沢山使うんだな、けどあのウリアとハモン、ラビエルを使ってるデツキってなんだ？後アストラムやマスカレーナとかも」

瑠璃「ああ、まあいつか見せるよ」

十代「おお！約束だ！」

どうやら、制裁デュエルの時のリンク召喚の記憶も消されてるようだ…もし私の正体がバレたら戻してもらおうかな…

ラビエル「フウム、アストラム、この先か？」

アストラム『はい、この先です』

マスカレーナ『なんでハネクリボーちゃんの場所わかったんですか？』

アストラム『匂いって言うか、気配というか…いる感じがしたんですよ』

ハモン「私達三幻魔は…力は凄まじい…です、が…精霊同士のコンタクトは…苦手で、すからね…Zzzz」

ウリア「ホント眠るの好きっすね」

ビシッ！

ハモン「ハッ!?…ネムイデス」

ウリア「もう主のどこ戻ってた方がいいんじゃないですか？」

ラビエル「そういうえば主達の方に何かあった場合のことを考えてなかったな、ハモン

は…不安だがいよいよまししか…頼んだぞ」

ハモン「…わかりました」

ウリア「ここかあ」

マスカレーナ『ここは、確かタイタンって言うデュエリストが消えた場所ですね』

ラビエル「……」

マスカレーナ『ら、ラビエルさん？』

ラビエル「フン!!」

ラビエルが空を殴ると空間にヒビが入り、黒い煙が吹き出てその中にウリアが手を突っ込み大柄の男を引きずり出した

ラビエル「こいつがタイタンか？」

マスカレーナ『そうですけど……』

タイタン「うう？ 私は…何を？」

ウリア「ハネクリボーはどこだ？」 ボツ（指から炎

ラビエル「言わないならば…な？」

タイタン「わっ、私は知らん!!」

ウリア「まあそうでしょうね、ついさつきまで闇に飲まれてたんですから」

ラビエル「とにかく、こいつは連れて行こう」

アストラム『ん？ こつちに何かいるぞ!』

マスカレーナ『え？ ハネクリボーちゃん?』

ハネクリボー『クツ、クリクリ』

マスカレーナ『ハネクリボーちゃんです！いましたよ！』

ラビエル「なにい!？」

ウリア「あ、いたんすね」

マスカレーナ『よおーし！かえろー！』

瑠璃「見つかったんだね」

十代「良かったあ、ハネクリボー、なんであんな所いたんだ？」

ハネクリボー『クリクリ〜クリ〜!』

ハモン「どうやら、追われていたらしい…です、Zz」

ウリア「どんだけ眠たいんすか」

瑠璃「んで、そこに伸びてるタイタンは？」

アストラム『騒がれると面倒だからと、ラビエルが眠らせました』

ラビエル「とにかく、この男はアカデミアに突き出せば勝手に処理するだろ、一応侵入者に入るはずだからな」

そう言いながらラビエルはタイタンを担いでアカデミアに向かった：タイタンも結構大きめな体格してるはずなのにそれを軽々持ち上げるラビエルって：

ハモン「それにしても…このフワフワ感：Zzzz」

瑠璃「また寝てる…」

ウリア「そんなにいいんすか…」

マスカレーナ『そういえば誰に追われて』

マスカレーナが誰に追われたか聞いた途端、ハネクリボーがハモンの、腕の中から消えた

ハネクリボー『クリくく!!』

瑠璃「はあ!？」

十代「な、なんだ今の奴!？」

ウリア「十中八九ハネクリボーを追いかけてたやつでしょ!」

アストラム『とにかく追いかけましょう!』

瑠璃「ハア…ハア…まつ、待って…」

ウリア「つハモン、ちよつと頼みますよ」

ハモン「任せて」

ヒヨイト

つとハモンが私を担ぎあげる…と言うよりはお姫様抱っこをされて連れていかれる
瑠璃「ちよつ!?ハモン!」

ハモン「…肩で担ぐと思いつきり下着が見えますけ「このままで」
そんなこんなでハネクリボーに追いつくと

「こ、こいつがどうなってもいいの!」

そういうと、ソイトはハネクリボーをギリギリと締め上げようとしてる

ハネクリボー『ク、クリ…』

ハモン「キサマ…死にたいらしいな?」

マツテハモン目が死んでるしハイライトカムバックして、顔が近い分怖いから

マスカレーナ『あの人精霊だねえ：ナラモンダイナイカ』

おっとおやっぱりハネクリボーは人気だねえ、人気になった分私の精霊がヤバくなってるけど

アストラム『ん？あの精霊：プリティ・ヒロイン？』

瑠璃「へ？」

黒いローブを纏っていたためわからなかったが相手も私だと思わなかったのかびつくりしてローブを脱いだ、すると私が前世で使っていた魔界劇団　プリティ・ヒロインがいた

プリティ・ヒロイン『え!?マ!?マスター!?!』

瑠璃「プリティ?どうしてハネクリボーを？」

プリティ・ヒロイン『あの：フワフワで：可愛いから、つい：ごめんね、ハネクリボー』
ギチギチに締め上げられてたハネクリボーをプリティ・ヒロインはゆつくり離れた

ハネクリボー『クリ〜!』

十代「ハネクリボー!無事だったか？」

ハネクリボー『クリー!』

どうやら無事なようだ

ハモン「はあ、ホントに昔から可愛いものに目がないですね：ZZZ」

マスカレーナ『プリティちゃんならしやうがないねえ』

プリティ『ごめんなさい：君の相棒怖がらせちゃって…』

十代「ハネクリボーがいいんなら俺は別に構わないぜ」

ハネクリボー『クリ〜！』

ハネクリボーはプリティ・ヒロインの周りを飛び回って頭に乗った、どうやら許してはくるているようです

瑠璃「！そうだ、十代」

十代「ん？どうした？」

瑠璃「私とプリティがデュエルしてプリティが勝ったら1日だけプリティにハネクリボーと1日過ごさせてくれない？」

十代「え、別にいいけどさ、瑠璃が勝ったらどうするんだ？」

瑠璃「そうだなあ、じゃあ私にハネクリボーと1日過ごさせて」

十代「おう！ハネクリボーもそれでいいか？」

ハネクリボー『クリクリ〜！』

ハネクリボーは体全体を使って頷いていた、可愛い：おっと私も墮ちそうだ
プリティ『じゃ、じゃあいきますよ？』

瑠璃「OK！それじゃあ」

プリティ&瑠璃 「『デュエル!!』」

プリティ 『私のターンドロー!』

プリティ 『私は『ドリルロイド』を攻撃表示で召喚!』

ドリルロイド

レベル4

地属性 機械族

ATK1600

DEF1600

このカードが守備表示モンスターを攻撃した場合、ダメージ計算前にそのモンスターを破壊する。

十代 「お?翔と同じロイドデツキか?」

マスカレーナ 『いや、あれは…多分』

プリティ 『カードを1枚セットしてターンエンド』

瑠璃 「よし、私のターン!ドロー!」

瑠璃 「私はモンスターを1体セットしてターンエンド」

プリティ『私のターン！ドロー！』

プリティ『私もモンスターを1体セツトしてバトル！』

プリティ『ドリルロイドでセツトモンスターを攻撃！そして効果！守備表示モンスターとバトルする場合、ダメージ計算を行わず破壊する！』

ドリルロイドはセツトされてるモンスターに一直線に向かい両腕と鼻のドリルでセツトモンスターを破壊した

プリティ『ターンエンド』

瑠璃「私のターンドロー！」

瑠璃「私は『愚かな埋葬』を発動！」

愚かな埋葬

通常魔法

デッキからモンスターを1体墓地へ送る

瑠璃「私は『リーシャドール影霊の翼 ウエンディ』を墓地に送る」

リーシャドール影霊の翼 ウエンディ

レベル3

風属性 サイキツク族 リバース

ATK1500

DEF1000

このカード名の①②の効果は1ターンに1度、いずれか1つしか使用できない。

①：このカードがリバースした場合に発動できる。デッキから「影霊の翼 ウェンデイ」以外の「シャドール」モンスター1体を表側守備表示または裏側守備表示で特殊召喚する。

②：このカードが効果で墓地へ送られた場合に発動できる。デッキから「影霊の翼 ウェンデイ」以外の「シャドール」モンスター1体を裏側守備表示で特殊召喚する。

瑠璃「墓地に送られたことにより私は『シャドール・ヘッジホッグ』を裏側守備表示で特殊召喚！」

シャドール・ヘッジホッグ

レベル3

闇属性 魔法使い族 リバース

ATK800

DEF200

このカード名の①②の効果は1ターンに1度、いずれか1つしか使用できない。

①：このカードがリバースした場合に発動できる。デッキから「シャドール」魔法・罫カード1枚を手札に加える。

②：このカードが効果で墓地へ送られた場合に発動できる。デッキから「シャドール・ヘッジホッグ」以外の「シャドール」モンスター1体を手札に加える。

瑠璃「カードとモンスターを1枚ずつセットしてターンエンド」

プリティ『私のターン！ドロー！』

プリティ『バトル！』

瑠璃「ならばこの瞬間！墓地の『超電磁タートル』の効果を発動！」

超電磁タートル

レベル4

光属性 機械族

ATK0

DEF1800

このカード名の効果はデュエル中に1度しか使用できない。①：相手バトルフェイズに墓地のこのカードを除外して発動できる。そのバトルフェイズを終了する。

瑠璃「さらに罨カード！『墮ち影の蠢き』！」

墮ち影の蠢き

通常罨

①：デッキから「シャドール」カード1枚を墓地へ送る。その後、自分フィールドの裏側守備表示の「シャドール」モンスターを任意の数だけ選んで表側守備表示にできる。

瑠璃「『シャドール・ビースト』を墓地に送り、私のフィールドにセットされてるモンスターをリバースさせる！」

瑠璃「そして『シャドール・ドラゴン』、『シャドール・ヘッジホッグ』、『シャドール・ビースト』の効果！1枚ドロロー、シャドール魔法、罨カードを1枚手札に、そして、プリティ・ヒロインのセットされてるモンスターを手札に戻す！」

プリティ『うう、ターンエンド』

瑠璃「私のターン！」

瑠璃「私は魔法カード『影依融合』シャドール・フュージョン発動！」

シャドール・フュージョン
影依融合

通常魔法

このカード名のカードは1ターンに1枚しか発動できない。

①：自分の手札・フィールドから、「シャドール」融合モンスターカードによって決められた融合素材モンスターを墓地へ送り、その融合モンスター1体をEXデッキから融合召喚する。EXデッキから特殊召喚されたモンスターが相手フィールドに存在する場合、自分のデッキのモンスターも融合素材とする事ができる。

瑠璃「私は手札の『シャドール・ビースト』、フィールドの『シャドール・ドラゴン』で融合！」

瑠璃「闇に操られし人形よ、もう1つの闇をその身に宿し、新たなる力を私のために奮え！『エルシャドール・ミドラーシュ』！」

エルシャドール・ミドラーシュ

レベル5

闇属性 魔法使い族 融合

ATK2200

DEF800

「シャドール」モンスター+闇属性モンスター

このカードは融合召喚でのみEXデッキから特殊召喚できる。

①：フィールドのこのカードは相手の効果では破壊されない。

②：このカードがモンスターゾーンに存在する限り、その間はお互いに1ターンに1度しかモンスターを特殊召喚できない。

③：このカードが墓地へ送られた場合、自分の墓地の「シャドール」魔法・罨カード1枚を対象として発動できる。そのカードを手札に加える。

プリティ『罨カード『融合失敗』発動!』

瑠璃「んなっ!?!」

融合失敗

通常罨

融合モンスターが特殊召喚された時に発動する事ができる。フィールド上に存在する全ての融合モンスターを融合デッキに戻す。

瑠璃 「っ！墓地に送られた『シャドール・ビースト』の効果！デッキから1枚ドロ―！」

瑠璃 「そして『シャドール・リザード』召喚！」

シャドール・リザード

レベル4

闇属性 魔法使い族 リバース

ATK1800

DEF1000

このカード名の①②の効果は1ターンに1度、いずれか1つしか使用できない。

①：このカードがリバースした場合、フィールドのモンスター1体を対象として発動できる。そのモンスターを破壊する。

②：このカードが効果で墓地へ送られた場合に発動できる。デッキから「シャドール・リザード」以外の「シャドール」カード1枚を墓地へ送る。

瑠璃 『『ヘッジホッグ』を攻撃表示にしてバトル！』

瑠璃 『『リザード』で『ドリルロイド』に攻撃！シャドーブレス！』

リザードの口から紫に近い色をした炎を吐き出しドリルロイドを燃やし尽くす

プリティ 『ううう』

LP 4000 ▶ 3800

瑠璃 『そして『ヘッジホッグ』でダイレクトアタック！シャドースパイク！』

ヘッジホッグは丸まって棘をプリティ・ヒロインに直撃する

プリティ 『ぐっ!?!』

LP 3800 ▶ 3000

瑠璃 『ターンエンド』

プリティ 『私の、ターン！ドロー！』

プリティ 『私は魔法カード『強欲な壺』を発動！デッキからカードを2枚ドロー！』

プリティ 『そして相手の方がモンスターの数が多い場合『ダイナレスラー・パンクラ

トプス』を特殊召喚する！』

プリティ 『そしてモンスターを1枚セットしてバトル！『パンクラトプス』で『シャ

ドール・ヘッジホッグ』を攻撃！』

瑠璃「っ!!」

LP4000 ▶ 2200

プリティ『ターンエンド』

瑠璃「私のターン、ドロー!」

瑠璃「魔法カード『影依融合』発動!」

プリティ『なっ?!?また!?!』

瑠璃「私は手札の『シャドール・ハウンド』と『カドシャドール聖なる影 ケイウス』で融合!」

瑠璃「光を宿した人形よ、その力を解放し、我が力を示すために猛威を振るえ!『エルシャドール・ネフィリム』!!」

エルシャドール・ネフィリム

レベル8

光属性 天使族 融合

ATK2800

DEF2500

「シャドール」モンスター+光属性モンスター

このカードは融合召喚でのみEXデッキから特殊召喚できる。

①：このカードが特殊召喚に成功した場合に発動できる。デッキから「シャドール」カード1枚を墓地へ送る。

②：このカードが特殊召喚されたモンスターと戦闘を行うダメージステップ開始時に発動する。そのモンスターを破壊する。

③：このカードが墓地へ送られた場合、自分の墓地の「シャドール」魔法・罠カード1枚を対象として発動できる。そのカードを手札に加える。

瑠璃「そして『シャドール・ハウンド』、『カードシャドール聖なる影ケイウス』、『エルシャドール・ネフィリム』の効果！『ハウンド』の効果により、プリティ・ヒロインのセットされてるモンスターを攻撃表示にする！」

プリティ『なら『カオスポッド』の効果…！発動しない!?!』

瑠璃『『ハウンド』で表側表示になったモンスターはシャドールでないと効果を発動できない！』

瑠璃「そして『ケイウス』の効果！手札のモンスターを墓地に送る事によりその手札から送ったモンスターのレベル×100倍の攻撃力と守備力を私のフィールド上の全てのモンスターに加える！私が墓地に送るのは『ノエル影依の巫女 エリアル』レベルは4、よって400ポイント攻守を増加！」

プリティ『攻撃力が…』

ケイウスが光の粒子を私のフィールドに振りまくと私のフィールドのモンスターが元気になつてゐる気がした

エルシャドール・ネフィリム

ATK 2800 ▶ 3200

DEF 2500 ▶ 2900

シャドール・リザード

ATK 1800 ▶ 2200

DEF 1000 ▶ 1400

瑠璃「次に『ネフィリム』の効果！デツキのシャドールカードを墓地に送る！墓地に送るのは『シャドール・ファルコン』！」

プリティ『これでようやく終わる』と思つていたのか？「え!?!」

瑠璃「墓地に送られた『エリアル』と『ファルコン』の効果！『ファルコン』自身を裏側守備表示で特殊召喚する！」

シャドール・ファルコン

レベル2

闇属性 魔法使い族 リバース チューナー

ATK600

DEF1400

このカード名の①②の効果は1ターンに1度、いずれか1つしか使用できない。

①：このカードがリバースした場合、「シャドール・ファルコン」以外の自分の墓地の「シャドール」モンスター1体を対象として発動できる。そのモンスターを裏側守備表示で特殊召喚する。

②：このカードが効果で墓地へ送られた場合に発動できる。このカードを裏側守備表示で特殊召喚する。

瑠璃「そして『エリアル』の効果、互いの墓地を合計3枚除外する」

プリティ『ま、まさか』

瑠璃「プリティ・ヒロインの墓地にある『強欲な壺』、『ドリルロイド』、『融合失敗』を除外」

プリティ『っっ!?!』

瑠璃 「ほら、『パンクラ』の効果を使うなら今のうちだよ？」

プリティ 『…私に使わない』

瑠璃 「ならバトル！『ネフィリム』で『パンクラトプス』に攻撃！エルシャドーースト
リーム！」

ネフィリムが両腕を広げると糸にも見えるものを大量に使い台風の様にしてパンク
ラトプスを飲み込む

プリティ 『ぐう!!』

LP3000 ▶2400

瑠璃 『『リザード』で『カオスポッド』を攻撃！』

プリティ 『つつ!!』

LP2400 ▶1000

瑠璃 「モンスターを1体セットしてターンエンド」

プリティ 『私の…ターン…ドロー!!』

プリティ 『私はモンスターを1体セットしてターンエンド』

瑠璃 「私のターン！ドロー！」

瑠璃 「反転召喚『シャドール・ヘッジホッグ』！『ヘッジホッグ』の効果により

『魂^{ネフェシャドール・フニーション}写しの同化』を手札に加え発動」

ネフエシヤドール・フユージョン
魂写しの同化

装備魔法

「シヤドール」モンスターにのみ装備可能。属性を1つ宣言してこのカードを発動できる。このカード名の②の効果は1ターンに1度しか使用できない。

①：装備モンスターは宣言した属性になる。

②：自分メインフェイズに発動できる。「シヤドール」融合モンスターカードによって決められた、このカードの装備モンスターを含む融合素材モンスターを自分の手札・フィールドから墓地へ送り、その融合モンスター1体をEXデッキから融合召喚する。

瑠璃「装備対象は『リザード』、属性を光にして『ヘッジホッグ』と『リザード』で融合！」

瑠璃「闇と光を宿し人形よ、その新たななる力に我が目の前にいる敵に恐怖を与えよ！

『エルシヤドール・アップカローネ』！」

エルシヤドール・アップカローネ

レベル6

闇属性 魔法使い族 融合

ATK2500

DEF2000

属性が異なる「シャドール」モンスター×2

このカードは融合召喚でのみEXデッキから特殊召喚できる。このカード名の①③の効果はそれぞれ1ターンに1度しか使用できない。

①：このカードが特殊召喚に成功した場合、フィールドの表側表示のカード1枚を対象として発動できる。そのカードの効果は無効にする。

②：このカードは戦闘では破壊されない。

③：このカードが墓地へ送られた場合に発動できる。自分のデッキ・墓地から「シャドール」カード1枚を選んで手札に加える。その後、手札を1枚選んで捨てる。

瑠璃「そして墓地に送った『ヘッジホッグ』、『リザード』の効果、『リザード』の効果により『ウエンディ』を墓地へ『ヘッジホッグ』の効果で『エリアル』を手札へ」

プリティ『ん？今『ウエンディ』を墓地へつてことは…』

瑠璃「そういう事、私はデッキから『リザード』をフィールドにセット」

瑠璃「そしてさらに反転召喚！『シャドール・ファルコン』！『ファルコン』の効果

により『ハウンド』を裏側守備表示で特殊召喚」

十代「すげえ！見た事ない融合に、見た事ないモンスター！すげえよ！」

ハモン「全く君も：Zzzz」

マスカレーナ『ええ…寝るの？』

アストラム『まあこういう人（？）ですし』

瑠璃「さらに速攻魔法『エルシャドール・フュージョン神の写し身との接触』発動」

エルシャドール・フュージョン
神の写し身との接触

速攻魔法

このカード名のカードは1ターンに1枚しか発動できない。

①：自分の手札・フィールドから「シャドール」融合モンスターカードによって決められた融合素材モンスターを墓地へ送り、その融合モンスター1体をEXデッキから融合召喚する。

瑠璃「私はセットされてる『ハウンド』、手札の『エリアル』で融合『エルシャドール・ミドラーシユ』！」

プリティ『また…!?』『ハウンド』ってことは!?』

瑠璃「ふふっその通り『ハウンド』の効果によりセットモンスターを表側攻撃表示に！」

プリティ『くっ…セットしてるモンスターは『ファイバーポッド』…』

瑠璃「やっぱ」

ウリア「危なかったすねえ」

ハモン「あれは危なかったで…す…Zzzz」

瑠璃「ふいゝあつぶなかったあ」

プリティ『うう』

瑠璃「バトル！全員で攻撃！ネガシャドルバースト！！」

プリティ『きやああああ!!』

L P 1 0 0 0 ▶ 0 0 0 0

プリティ『ううう、私の負け…』

瑠璃「よっし、私の勝ち、約束通りハネクリボーと1日過ごさせてもらおっと思っただけど、私は忙しいからね、プリティ、代わりに1日過ごして貰える？」

プリティ『え?』

瑠璃「十代もそれでいい？」

十代「おう、いいぜ、頼むぜハネクリボー」

ハネクリボー『クリ〜！』

十代はハネクリボーに頼むと言うとハネクリボーはプリティ・ヒロインの元に行った
プリティ『……』

フワア

プリティ・ヒロインはハネクリボーに触るとにこやかになり、ハネクリボーに抱きつ
いた

プリティ『フワフワア……』

いやあプリティ・ヒロインも可愛い方だからねえ、ハネクリボーもフワフワでクリ
〜って可愛いし……もしかしてもう堕ちてるかも……

プリティ『ありがとう、十代くん』

十代「ああ、ハネクリボーも嬉しそうにしてるし」

瑠璃「よしそれじゃあ帰ろっか」

プリティ『……うん』

その日の夜

プリティ『ねえマスター？』

瑠璃「うん？どうしたの？」

ハネクリボー『クリー！』

明日のお昼頃まで一緒にいる約束をしているため必然的に私の部屋にハネクリボーがいる状況です

プリティ『あの…マスターと一緒に寝てもいい？』

瑠璃「へっ!?ま、まあいいけど」

プリティ『ありがと…』

就寝時間

瑠璃「それで、どうして一緒に寝たいって？」

プリティ『それは…私、マスターと遊びたかったんだけど…いつの間にか知らないところに来ちゃって、その時にハネクリボーを見たの、可愛かったから…友達って言うか

…一緒にいたかったの』

瑠璃「なるほどお」

プリティ『ごめんなさい、マスターに迷惑かけて…私邪魔だよね』

私はプリティ・ヒロインの頭を優しく撫でた

プリティ『!?』

瑠璃「確かに迷惑って思ったけど、邪魔だとは思ったことないよ、むしろ私は元気でやっつて安心したかな…」

プリティ『マ、マス…：ター』

プリティ・ヒロインはしくしくと静かに泣いた、自分勝手をしてしまい、しかもそれを自分の主人に見られたんだ、見限られたかもしれないって思ってしまったんだろう…私はその気サラサラないけどね

瑠璃「今は私も、ハネクリボーもいるから、いっぱい甘えていいよ」

プリティ『ごめんなさい…：ごめんなさい…：マスター…』

瑠璃「いいよ、プリティ・ヒロイン…：貴女は私の大事な子なんだから…」

確かに子って言い方は合ってるかは分からないけど、私にとっては可愛い我が子に思える

もう一度ゆっくりと静かに撫で、ハネクリボーもプリティ・ヒロインにくつついて

眠った

翌日の朝

プリティ『私、精霊界に帰るね』

瑠璃「そつか…たまには遊びに来てね」

プリティ『うん、ありがとうマスター』

ハネクリボーを私に預けるとプリティ・ヒロインは光の粒子となって精霊界に帰って行った

瑠璃「…さあて、今日も頑張りますか！…ん？今何時？」

この日、私はガッツリ遅刻をした

14話 対決！武藤遊戯!?

瑠璃「~~~~♪」(忘れないよ初めての夢)

明日香「あら？どうしたのそんなに嬉しがって」

瑠璃「ふっふっふっ、じゃーん！」

私が明日香に見せたのはあの武藤遊戯のグッズ展覧会のチケット……つまり神楽坂戦
ですはい

明日香「あら、まだ残ってたのね」

瑠璃「なんだ、明日香もう持ってたのか」

瑠璃「…あ、財布購買に忘れてきた」

明日香「はあ…早く拾ってきなさいよ」

瑠璃「ごめんごめん、じゃ後でね」

瑠璃「つもう終わってるかなあ」

私がそうつぶやくと誰かとぶつかつた

瑠璃「だあ!? いったア…」

私がつつかつた先にいたのは神楽坂、相手のデツキを真似る天才がいた

神楽坂「わ、悪い…じゃあな」

瑠璃「ま、まっつて!」

神楽坂「なんだよ…」

瑠璃「これ、知り合いがこの日用事があつて見れないつて言つてたから、君、買い損ねたつぽい感じするし」

神楽坂「!!…ありがとよ」

まああれを上げててもデツキを盗むだろうけど、そんな時はそんな時かなあ

十代「瑠璃ー!」

瑠璃「お、十代!」

十代「じゃあーん!」

瑠璃「おお! 十代も手に入れたの?」

十代「なんつーか」

翔「僕がデュエルに勝つて手に入れたんじゃないすか!」

瑠璃「へえ、翔くんはアニキ思いのいい弟分だね」

翔「え!?! そつ、そうつすかあ?」

めつちや分かりやすく顔赤らめるなあ、こつちとしては楽しいけど

瑠璃「じゃ私用事があるから」

十代「おお、じゃあーなー!」

翔「さよならつす!」

その夜

瑠璃「くくくく♪」(熱きデュエリスト達)

ノオオオオオオオオンン

!!!?!

瑠璃「お、来たか」

十代「クロノス先生!?!」

翔「ま、まさかクロノス先生が?」

クロノス「そ、ソシナワケナイノーネ!?!」

三沢「いや、思いつきりカタコトですよ」

隼人「これはもうクロノス先生が犯人なんだな」

瑠璃「そんなわけないでしょ」

十代「ああ、瑠璃の言う通りだ：瑠璃!？」

瑠璃「よつ、十代に翔君に隼人君、それと三沢くん」

十代「さつき言った通り、クロノス先生は犯人じゃない」

翔「何で犯人じゃないって分かったんすか？」

瑠璃&十代「だってクロノス先生は鍵もってるからガラス割る必要ないだろ(でしょ)

？」

クロノス「そうだったノーネ、鍵は私を持っているノーネ」

十代「よおし!クロノス先生の為にデツキを探すぞ!」

瑠璃「OK!行こう!翔くん!隼人くん!」

三沢「俺もいるぞ!」

神楽坂「これが…武藤遊戯のデッキ…！」

瑠璃「やあ、神楽坂」

神楽坂「お前は…チケットありがとよ」

瑠璃「いや、お礼は結構だよ、それより…神楽坂、武藤遊戯のデッキを盗んだ犯人を知らない？」

神楽坂「…知っていて言ってるだろ」

瑠璃「ああ、もちろん、知っている…神楽坂、君だつてね」

神楽坂「俺は…絶対に負けないデュエリストになったんだ…絶対にこのデッキは渡さない！」

瑠璃「うーん…ならデュエルをして、私が勝ったらデッキを返す、神楽坂が勝ったらそのデッキは君の物、これでどう？」

神楽坂「いいぜ、俺は無敵のデュエリスト、武藤遊戯だ、その勝負、受けて立つぜ！」

さあ!デュエルディスクを受け取れ!

神楽坂&瑠璃 「デュエル!!」

瑠璃 「先攻は私が!ドロー!」

瑠璃 「私は『強欲で貪欲な壺』を発動!デッキからカードを10枚除外して2枚ドロ
ー!」

瑠璃 「更にフィールド魔法『チキンレース』を発動!」

チキンレース

フィールド魔法

①:このカードがフィールドゾーンに存在する限り、相手よりLPが少ないプレイヤーが受ける全てのダメージは0になる。

②:お互いのプレイヤーは1ターンに1度、自分メインフェイズに1000LPを払って以下の効果から1つを選択して発動できる。この効果の発動に対して、お互いは魔法・罫・モンスターの効果を発動できない。

- デッキから1枚ドロウする。
- このカードを破壊する。
- 相手は1000LP回復する。

瑠璃「私はライフを1000払って1枚ドロウ！」

LP4000 ▶ 3000

瑠璃「そして私は手札の『未界域のビッグフット』の効果！このカードを相手に見せ、その後手札をシャッフル！そして相手は私の手札をランダムに選び、それが『ビッグフット』じゃなければ私は『ビッグフット』を特殊召喚できる！」

神楽坂「ならば…1番右だ！」

瑠璃「残念、このカードは『未界域のツチノコ』そして『ビッグフット』を特殊召喚！」

未界域のビッグフット

レベル8

闇属性 獣族

ATK3000

D E F O

このカード名の②の効果は1ターンに1度しか使用できない。

①：手札のこのカードを相手に見せて発動できる。自分の全ての手札の中から、相手がランダムに1枚選び、自分はそのカードを捨てる。それが「未界域のビッグフット」以外だった場合、さらに手札から「未界域のビッグフット」1体を特殊召喚し、自分はデッキから1枚ドローする。

②：このカードが手札から捨てられた場合、相手フィールドの表側表示のカード1枚を対象として発動できる。そのカードを破壊する。

瑠璃「『ビッグフット』の効果で1枚ドロー!更に手札から捨てられた『ツチノコ』は特殊召喚できる!」

未界域のツチノコ

レベル3

闇属性 爬虫類族

ATK1300

D E F O

このカード名の②の効果は1ターンに1度しか使用できない。

①：手札のこのカードを相手に見せて発動できる。自分の全ての手札の中から、相手がランダムに1枚選び、自分はそのカードを捨てる。それが「未領域のツチノコ」以外だった場合、さらに手札から「未領域のツチノコ」1体を特殊召喚し、自分はデッキから1枚ドローする。

②：このカードが手札から捨てられた場合に発動できる。このカードを特殊召喚する。

神楽坂「いきなりモンスターを2体召喚だど!?!」

瑠璃「そして、デッキトップ8枚除外! 『機巧蛇きこうじゃ—叢雲遠呂智ムラクモノオロチ』を特殊召喚!」

機巧蛇きこうじゃ—叢雲遠呂智ムラクモノオロチ

レベル8

閻属性 機械族

ATK2450

DEF2450

このカード名の①②の効果は1ターンに1度、いずれか1つしか使用できない。

①：このカードが手札・墓地に存在する場合、自分のデッキの上からカード8枚を裏側表示で除外して発動できる。このカードを特殊召喚する。この効果は相手ターンでも発動できる。

②：自分のEXデッキからカード3枚を裏側表示で除外し、フィールドの表側表示モンスター1体を対象として発動できる。そのモンスターを破壊する。

瑠璃「さて、更に機巧牙きこうが—御神尊真神オンカミコトノマカミを召喚！」

機巧牙きこうが—御神尊真神オンカミコトノマカミ

レベル6

風属性 機械族

ATK2150

DEF2150

このカード名の②③の効果はそれぞれ1ターンに1度しか使用できない。

①：除外されている自分のカードが6枚以上の場合、このカードはリリースなしで召喚できる。

②：このカードが召喚・特殊召喚に成功した場合、手札からモンスター1体を捨てて

発動できる。デッキから「機巧牙―御神尊真神」以外の、攻撃力と守備力の数値が同じモンスター1体を手札に加える。

③：モンスターゾーンのこのカードが破壊された場合に発動できる。除外されている自分のカード6枚を選んでデッキに戻す。

神楽坂 「六つ星モンスターを通常召喚だど!?!」

瑠璃 『御神尊真神』は6枚以上私のカードが除外されている時、生贄無しで召喚することが出来るモンスター!」

瑠璃 「私はカードを1枚セットし、ターンエンド」

神楽坂 「くっ…ここまでモンスターを並べるとは…流石女帝とまで言われた奴だ、だが俺はそう簡単に倒せないぜ!俺のターン!」

瑠璃 「その瞬間!畏カードオープン!『魔獣の大餌』!!」

神楽坂 「何!?!」

モンスター:パック
魔獣の大餌

通常畏

①：自分のEXデッキのカードを任意の数だけ裏側表示で除外し、その数だけ相手の

EXデッキの裏側表示のカードをランダムに選んでエンドフェイズまで表側表示で除外する。

瑠璃「私は15枚、全ての融合デッキのカードを除外し、神楽坂の融合デッキを15枚まで除外する!」

魔獣の大餌の獣が罨カードから飛び出し神楽坂の融合デッキのカードを1枚残らず喰らい尽くした

神楽坂「俺のカードが!?!」

瑠璃「安心しなよ、エンドフェイズには戻るからさ」

神楽坂「ならば魔法カード『天使の施し』!3枚ドロし2枚捨てる!」

神楽坂「そして!『幻獣王ガゼル』召喚!」

幻獣王ガゼル

レベル4

地属性 獣族

ATK1500

DEF1200

走るスピードが速すぎて、姿が幻のように見える獣。

神楽坂「その前に、俺も『チキンレース』を使わせてもらうぜ！俺のライフを1000
0払い、そのカードを破壊する！」

LP 4000 ▶ 3000

瑠璃「ぐっ…破壊効果の方を使ったかあ」

神楽坂「確かにドロ―効果は魅力的だが、それ以前にライフが少なくなった瞬間ダメージを与えられないのがデカすぎるからな、破壊させてもらったぜ！そしてバトル！『ガゼル』で『未界域のツチノコ』を攻撃！」

ガゼルの爪がツチノコに無惨に刺さりそのまま引き裂かれた…ソリッドビジョンでも結構だえぐいな

瑠璃「ぐう…」

LP 3000 ▶ 2800

神楽坂「そして魔法カード『光の護封剣』を発動！」

光の護封剣

通常魔法

このカードは発動後、フィールドに残り続け、相手ターンで数えて3ターン後の相手エンドフェイズに破壊される。

①：このカードの発動時の効果処理として、相手フィールドに裏側表示モンスターが存在する場合、そのモンスターを全て表側表示にする。

②：このカードが魔法&罨ゾーンに存在する限り、相手モンスターは攻撃宣言できない。

神楽坂「カードを2枚セットし、ターンエンドだ!」

瑠璃「私のターン!私は魔法カード『強欲で貪欲な壺』を発動!10枚除外し、2枚ドロー!」

瑠璃「そして!私のエースモンスター!『紅蓮魔獣 ダ・イーザ』召喚!」

紅蓮魔獣 ダ・イーザ

レベル3

炎属性 悪魔族

ATK

DEF

???????

①：このカードの攻撃力・守備力は、除外されている自分のカードの数×400になる。

瑠璃「『ダ・イーザ』の攻撃力、守備力はわたしが除外しているカードの数×400となる！」

神楽坂「なっ!?!」

瑠璃「私は43枚除外している、すなわち攻撃力17200!!」

神楽坂「攻撃力17200は残しては置かない! 罫カード『黒魔族復活の棺』!」

黒魔族復活の棺

①：相手がモンスター召喚・特殊召喚に成功した時、そのモンスター1体と自分フィールドの魔法使い族モンスター1体を対象として発動できる。そのモンスター2体を墓地へ送る。その後、自分のデッキ・墓地から魔法使い族・闇属性モンスター1体を選んで特殊召喚できる。

瑠璃「!?!:けど神楽坂のフィールドには魔法族モンスターなんて」

神楽坂「ふっ、そう言うと思ったぜ俺は罫カード『リビングデッドの呼び声』発動!」

瑠璃「まさか天使の施しの時に!？」

神楽坂「そう!その時落としたモンスター蘇れ!『ホーリー・エルフ』!」

ホーリー・エルフ

レベル4

光属性 魔法使い族

ATK800

DEF2000

かよわいエルフだが、聖なる力で身を守りとても守備が高い。

神楽坂『『ホーリー・エルフ』が蘇った事により『復活の棺』の効果は満たされる!『ホーリー・エルフ』と『紅蓮魔獣 ダ・イーザ』を生贄に!墓地より蘇れ!『ブラック・マジシャン』!!』

棺が現れホーリー・エルフとダ・イーザが中に入り、棺から最強の魔法使いと言われるモンスター、ブラック・マジシャンが蘇る

ブラック・マジシャン

レベル7

閻属性 魔法使い族

ATK2500

DEF2100

魔法使いとしては、攻撃力・守備力ともに最高クラス。

瑠璃「くっ…ターンエンド」

神楽坂「俺のターン！ドロロー！」

神楽坂「俺は『ガゼル』を生贄に『ブラック・マジシャン・ガール』を召喚！」

ブラック・マジシャン・ガール

レベル6

閻属性 魔法使い族

ATK2000

DEF1700

①：このカードの攻撃力は、お互いの墓地の「ブラック・マジシャン」「マジシャン・オブ・ブラックカオス」の数×300アップする。

瑠璃「やっぱりブラマジガールはいいね」

マスカレーナ『お!ガールちゃん久しぶりー!』

BMG『マスカレちゃん!久しぶりー!』

どうやら2人は仲良しらしいね、後で呼び出して話してみようか

神楽坂「バトル!『ブラック・マジシャン』で『叢雲遠呂智』を攻撃!黒魔術!

瑠璃「ぐっ!」

LP2800▶2750

神楽坂「俺はこれでターンエンドだ」

瑠璃「私のターン、ドロー」

瑠璃「私はこのままターンエンド…」

神楽坂「俺のターン、ドロー!」

神楽坂「俺は手札より『死者転生』を発動、手札を1枚捨て、墓地の『ガゼル』を手

札に加える!」

死者転生

通常魔法

①：手札を1枚捨て、自分の墓地のモンスター1体を対象として発動できる。そのモンスターを手札に加える。

瑠璃「この瞬間に手札より『増殖するG』を手札から捨てる！このターンは神楽坂が特殊召喚するとデッキからカードをドロウすることが出来る！」

神楽坂「ふっ、どうつてとこない魔法カード『強欲な壺』デッキからカードを2枚ドロウ」

神楽坂「そして！墓地より『クリボー』と『ホーリー・エルフ』、光と闇を除外！」

瑠璃「なっ?!まさか!」

神楽坂「そのまさかだ！いでよ！『カオス・ソルジャー』——開闢の使者——!!」

カオス・ソルジャー ——開闢の使者——

レベル8

光属性 戦士族

ATK3000

DEF2500

このカードは通常召喚できない。自分の墓地から光属性と闇属性のモンスターを1

体ずつ除外した場合に特殊召喚できる。このカードの①②の効果は1ターンに1度、いずれか1つしか使用できない。

①：フィールドのモンスター1体を対象として発動できる。そのモンスターを除外する。この効果を発動するターン、このカードは攻撃できない。

②：このカードの攻撃で相手モンスターを破壊した時に発動できる。このカードはもう1度だけ続けて攻撃できる。

神楽坂「『開闢の使者』の効果! 『未界域のビッグフット』を除外する!」

瑠璃「なっ?! ませう!?!」

神楽坂「『ブラック・マジシャン』で『御神尊真神』を攻撃!」

瑠璃「ぐうう!!」

LP2750 ▶ 2400

瑠璃「けど、『御神尊真神』の効果、除外されているカード6枚をデッキに戻す」

神楽坂「そして! 『ブラック・マジシャン・ガール』でダイレクトアタック!」

瑠璃「ぐつつ!?!」

LP2400 ▶ 400

神楽坂「ハハハ、フハハハ、流星は武藤遊戯のデッキだ! これで俺は無敵! 誰にも負けないデュエリストだ!」

「神楽坂だ！あいつ武藤遊戯のデッキ使ってるぞ!!」

瑠璃「!?」

そこに居たのは神楽坂を馬鹿にしていたラーイエローの生徒だった他の生徒もいる、どうやら皆して武藤遊戯のデッキを見ようと考えたらしい…だが皆して神楽坂の罵倒をし始めた

「お前なんか武藤遊戯のデッキ使ったら負けるだろ！今のうちにサレンダーしちまえ！」

「そうだ！お前なんかに使えるわけないだろ！」

海岸にたどり着いた三沢や翔くん、十代達が罵倒を止めようとするも止めるにも人が多すぎた

神楽坂「お、俺は…無敵の…」

はあ、神楽坂も情けない、一括入れてあげようかな

瑠璃「…お前達には何が見える!!」

!!!

それに流石私も我慢の限界だ

瑠璃「お前達は上辺の階級と戦績しか見てないのか！こいつを…神楽坂を真剣に見ようとしなのか！こいつは強い！だからこそ私は戦いたい！真剣に戦いたい！勝つ！」

さあ!行くぞ神楽坂!!」

神楽坂 「!!:ああ、こい!瑠璃!」

瑠璃 「私のターン!ドロー!」

瑠璃 「私はデッキからカードを8枚除外し!墓地の『叢雲遠呂智』を特殊召喚!」

瑠璃 「更にフィールドのモンスターの攻撃力の合計が相手の方が大きい場合『獣王

アルファ』を特殊召喚!」

獣王 アルファ

レベル8

地属性 獣族

ATK3000

DEF2500

このカードは通常召喚できない。相手フィールドのモンスターの攻撃力の合計が、自分フィールドのモンスターの攻撃力の合計より高い場合に特殊召喚できる。このカード名の効果は1ターンに1度しか使用できない。

①:自分フィールドの獣族・獣戦士族・鳥獣族モンスターを任意の数だけ対象として発動できる。そのモンスターを持ち主の手札に戻す。その後、手札に戻した数だけ相手

フィールドの表側表示モンスターを選んで持ち主の手札に戻す。この効果の発動後、ターン終了時まで自分の「獣王アルファ」は直接攻撃できない。

瑠璃「更に手札の『未界域のビッグフット』の効果！さあ！手札を選んで！」

神楽坂「なら…一番左だ！」

瑠璃「残念！私は『妖精伝姫—シラユキ』フェアリーテイルを手札から捨てて『ビッグフット』を特殊召喚し1枚ドロロー！」

瑠璃「更に墓地の『シラユキ』の効果！手札、フィールド、墓地の中からカードを7枚除外し、特殊召喚！」

妖精伝姫—シラユキ

レベル4

光属性 魔法使い族

ATK1850

DEF1000

①：このカードが召喚・特殊召喚に成功した場合、相手フィールドの表側表示モンスター1体を対象として発動できる。そのモンスターを裏側守備表示にする。

②：このカードが墓地に存在する場合、自分の手札・フィールド・墓地からこのカード以外のカード7枚を除外して発動できる。このカードを特殊召喚する。この効果は相手ターンでも発動できる。

瑠璃「そして：『紅蓮魔獣 ダ・イーザ』召喚！」

神楽坂「!?『ダ・イーザ』の攻撃力は：！！」

瑠璃「21200!!」

神楽坂「：ふつ、確かに、俺は人のデッキを真似続けた：けど、お前のは真似たくない：そのデッキを！俺が考えた戦法で倒してやる！覚悟しておけ！遊条瑠璃！」

瑠璃「もちろん！私は何時でも待つてる！『紅蓮魔獣 ダ・イーザ』の攻撃！オメガ
ブラスト：ゴオオオファイア!!」

神楽坂「ぐわああああ!!」

LP30000▶00000

神楽坂「ハハツ負けちまったぜ：ほらよデッキは返す：約束だからな」

瑠璃「：これは私がしつかりと元の場所に返すね」

「神楽坂、やられちまったけど武藤遊戯のデッキを使いこなしてたな」
「そう考えると…神楽坂って強い？」

「てか、女帝がライフギリギリにできるなんて神楽坂強えじゃん！」
「どうやら皆神楽坂を見直したようだ、満足満足♪」

翌日

瑠璃 「~~~~~♪」 (愛を歌って? 歌って? 雲の上え)

亮 「…神楽坂に武藤遊戯のデッキを使わせたいと署名が沢山あったお陰か神楽坂があのデッキを手に入れたらしい」

瑠璃 「それは良かったですねえ」

亮 「…瑠璃のお陰か？」

瑠璃 「さあ? 私はちよっとお手伝いしただけですよ」

数時間前

瑠璃「クロノス先く生♪」

クロノス「な、なんなノーネ、シニョーラ遊条」

瑠璃「タイタンって知ってます?」

クロノス「ゲロゲーロ!」

瑠璃「つてな感じで」

亮「…お前は敵に回したくないな」

瑠璃「私は亮さんの敵になんてなりませんよ?」

亮「ふっ、確かに想像もつかないな」

綾小路「あ!僕の太陽!」

瑠璃「げっ!」

綾小路「待ってくれ!僕の太陽!ヴィーナス!」

瑠璃「私は絶対に貴方とは付き合いません!!」

亮 「……大変だな、瑠璃も」

15話 恋する乙女と恋する乙女

瑠璃「ふい、久しぶりにゆつくりできる」

どうも遊条瑠璃です、最近忙し過ぎたのでゆつくり出来るのに喜びを感じています

マスカレーナ『マスターも大変だねえ』

アストラム『ですが、別に介入しなくても何とかなる事すら割って入っていくのは何故ですか?』

瑠璃「だってデュエルって楽しいじゃん?」

ラビエル「だがしかし、主が危険になるのは流石に…」

ウリア「別に主が大丈夫って言うてるならいいじゃないすか：第一過保護過ぎるんすよ」

ハモン「確かに…箱入り娘…の…よう…Zzzz」

瑠璃「また寝ちゃった…まあもう夜遅いし、私も寝ようかな」

ラビエル「実体化したまま睡眠とは…こいつに危機感というのはないのか」

ウリア「!…じゃ俺たちはこれで、ハモンは主に任せましょう」

瑠璃「うえ!？」

マスカレーナ『!…: そうだねマスタ―にハモンちゃんを任せよ、さつ、アストラムもラビエルさんも行こつ』

ラビエル「だ、だがしかし」

アストラム「:…:…: そうですね、行きましようラビエル、寝てる人を起こすのも酷です、ささつ、行きましよう」

ラビエル「う、ウウム:…: 仕方ない、主、ハモンをよろしく頼む」

瑠璃「ええ!?! 私に拒否権無いの!?!」

そういつた頃には皆ハモンを置いてカードに戻ってしまった

瑠璃「:…: はあ、全く:…: しょうがないなあ」

私はハモンの寝相を少し調節し、ベッドに入る:…: ちなみにハモンと私で同じベッドを使つてゐる為顔が少し近い

瑠璃『こうよく見るとハモンって中々の美人だよね』

ハモン「うう:…: あれ? 部屋暗い:…: ?」

瑠璃「皆もう戻つたよ」

ハモン「主?…: また寝ちやつたんですか」

瑠璃「毎回思うけど何でハモンってそんなに眠そうなの?」

ハモン「ううん:…:…: Z z z」

瑠璃「ありや」

ハモン「ハッ!?…何と言うか、安心したいんです…私達幻魔はこの世界では悪そのものの…だからこそ、誰にも関わることの無い眠りこそが私が唯一安心出来ると思つた結果…よく眠る体質になつたんです」

瑠璃「なるほど、ハモンも不安だつたんだね」

ハモン「はい、それに最初は起きる時間が遅いぐらいだったのが…今じゃ何もしない
と…:Zzz」と

瑠璃「もう十分重症だと思ふんだけど」

ハモン「…!!す、すみません…もう気が緩むと眠るようになってしまいました…」

なんだかハモンが可愛く思えてきた

瑠璃「ううくん、せめて生活リズムを最低限直そつか」

ハモン「それは努力しますが…如何せん生活リズムと言つてもその生活がしつかりしてないのです…」

瑠璃「…普段の一日つてどんな感じなの?」

ハモン「基本的には寝てますね」

瑠璃「…:ちよつと明日ついてきて?」

ハモン「???」

翌日

鮫島校長「今日は転入生を2名ご紹介します」

クロノス「オシリスレッドにくハ、シニヨール早乙女レイが、オベリスクブルー女子にはシニヨール雷氷らいひょう薫かわりが転校生してきたノーネ！」

レイ「よ、よろしく…」

薫（ハモン）「よろしくお願いします」

瑠璃「どう？やっつけてそう？」

薫「確かに生活リズムを整えるには打って付けですが…」

薫「でもよく昨日の今日で許可取れましたね」

瑠璃「クロノス先生にはあれがバレたら即刻クビだからね、良いネタだよ♪」

薫「鮫島校長が、許すとは思えませんでした…」

瑠璃「あの人基本的に悪ささえしなければお咎め無しだし…それに…」

鮫島校長「オ！オーナー!?何故ここに!?!」

海馬「ふうん、いきなりだがここに転入生を入れて欲しくてな、名は雷氷薫、俺の知人の友人だそうだ」

鮫島校長「だからといって今日いきなりなんて!」

海馬「デュエルの腕も、頭脳もこの俺が保証する、知人曰く才能無しと判断したら即刻退学で構わないようだ」

鮫島校長「…分かりました、生徒になるのであれば然るべき対応を取りましょう、雷氷薫さんの転入を了承します」

瑠璃「てなわけなのさ」

薫「相変わらず凄いですね」

十代「よつ、瑠璃、それと…?」

翔「もう忘れたんすか!?!レイ君と一緒に転入してきた雷氷薫さんじゃないすか!」

薫「雷氷薫です、よろしくお願いします」

十代「俺は遊城十代!よろしくな!」

翔「丸藤翔つす、よろしくつす」

明日香「あら、瑠璃はもう打ち解けたの」

瑠璃「実は薫とは昔からの知り合いなの、親の仕事の関係でね」

薫「はい、あるじ…瑠璃さんとは小さい頃にしか面と向かつてはあつてませんが連絡はし合っていたので」

十代「へえー、ところでさ!薫!俺とデュエルしようぜ!」

瑠璃「どうする?薫?」

薫「もちろん受けて経ちますよ」

十代「ガツチャ!楽しいデュエルだったぜ!」

薫「ふふつ、こちらこそ楽しいデュエルでした」

翔「す、凄かったつす…」

三沢「まるで瑠璃の様なデュエルだったな」

瑠璃「だって薫は私のデッキを改良したワンショットデッキだからね、今回はワンショット出来なかつたけど」

明日香「それにしても貴女も『サイバー・ドラゴン』を使うのね」

薫「はい、瑠璃さんに「サイドラは最高だから！ね！？使お！？」と言われたので、ならば私の好きなモンスターも入れて見ようと思ひまして」

そう言いながらハモンはデッキのカード1枚を取り出した：取り出したカードは『モリンフェン』だった

翔『『モリンフェン』：？なんでそんなカード？』

薫「そんな：カード？」

あ、キレた音がした

薫「そんなカードとはなんですか！？『モリンフェン』は神のカードと差し支えない存在！雑魚などとは言わせない！！」

ハモンは翔くんの肩をガシツと掴みながらモリンフェンについて語り続けている

三沢「：彼女は『モリンフェン』が好きなのか？」

瑠璃「うん、でもまさかここまでとは：」

ハモンのこのモリンフェン愛は前世の友達を彷彿とさせる様なものだ：あいつもモ

リンフェンビートとか作ってたなあ

前世の友人「『モリンフェン』のダイレクトアタック!!」

前世の瑠璃（男です）「うっそお!?!」

友人「ハッハッハッ! どうだ! 『モリンフェン』の力は!」

瑠璃「強すぎだろお…」

友人「これで300戦299勝1引き分けだ!」

瑠璃「そんなにやってたっけか」

友人「それに引き分けは俺の『自爆スイッチ』だもんな」

瑠璃「何が酷いって299勝中の200以上は『モリンフェン』でトドメ刺されてる
しな」

瑠璃「私も昔モリンフェン好きの友達と300戦して299勝1引き分けされたこと
があるから」

明日香「瑠璃が負けたの!?!」

瑠璃「私もまだまだ未熟な頃だったけど、今も勝てる見込みないね」

三沢「その友人は一体どれだけの実力が…」

瑠璃「…亮さんでもl k i l l されると思う」

嘘は言っていない

三沢「うそ…だろ？」

瑠璃「残念だけど今の彼奴ならやりかねないから」

十代「そいつともデュエルしてみたいなあ」

瑠璃「う〜ん、難しいね」

十代「ええ〜！なんでだあ？」

瑠璃「今彼奴は私でも何処にいるか分からないから」

十代「そっかあ」

瑠璃「…ところで、薫？」

翔「も、もう勘弁してくださいっす…」

薫「いいえ！絶対に貴方に『モリンフェン』は強いと思わせるまで私は諦めません！」

瑠璃「はあ…いい加減にしない！」

ゴツつとハモンの頭にゲンゴツを食らわすとハモンは悶絶し、我に返ったのか翔くんに謝罪をし、その場を後にした

瑠璃「はあ、全く……ところでレイくんは？」

十代「そういやどこ行つた？」

瑠璃「私探してくるね」

まあ場所は大体検討着くけど

ブルー男子寮

瑠璃「つと、ありがとね『アストラム』」

アストラム「マスターの頼みならば」

私はアストラムの力を借りてある程度人外な運動能力を發揮し木を伝いながらブルー男子寮までたどり着いた

瑠璃『よしよし早乙女レイちゃんはくいた！』

私の目の前……というか私が木を登ると登った先、カイザーの部屋に早乙女レイはいた

瑠璃「よつ、レイちゃん」

レイ「ふえっ!? き、君は」

瑠璃「私は遊条瑠璃、君は早乙女レイちゃん、であつてるね？」

レイ「な、何で僕のことを…」

瑠璃「とにかく、今は亮さんのカードを頬にスリスリする暇あるなら逃げるよ！」

私はレイの手を掴みベランダから飛び出す、レイは私が連れて行くと予想したのか即座にカイザーのデッキを元の位置に戻した

レイ「どうして僕の事知ってるのさ」

瑠璃「それは私がデュエリストだから」

レイ「そんな適当なこと言わないでよ!!」

瑠璃「さあて、それじゃ私は用事があるからまた今度ね」

レイ「ちよっ!? 待ってよ！」

瑠璃「ん？メール？」

私はPDA（前世で言うスマホ）を取り出すとメールが1着来ていた

瑠璃「ええとなになに：『今からレッド寮近くの海岸に来てくれ、早乙女レイ』：私
が相手かあ」

薫「一緒に行きましょうか？」

瑠璃「いや、ハモンはもう休んで、明日もあるし」

薫「わかりました」

レッド寮付近

レイ「来たね：瑠璃」

瑠璃「もちろん」

レイ「なんで、僕が女の子だって、皆に言わなかったの？」

瑠璃「だって、何か理由があるからなんでしょ？それに：誰にでも、特に女の子には
秘密の1つや2つはあるし」

レイ「いい、言うな！昼間の事は！」

瑠璃「うくん、でもまず人に物事を頼むには事情を話すべきだと思っただよね」

レイ「出来ない！」

瑠璃「じゃあデュエルをしよう」

レイ「どういう理屈だよ!？」

瑠璃「どつかの馬鹿が言ってたんだ、デュエルじゃ誰も嘘はつけないってね」

レイ「…僕が勝ったら事情を聞か無いつてことでいい？」

瑠璃「もちろん」『まあその必要も無くなるし』

翔「ええ!?レイって女の子だったの!？」

隼人「昼間の事ってなんなのかなあ」

翔「アニキみたいにいきなりデュエルって…」

明日香「瑠璃も十代に似てるんじゃない？」

十代「ええ、俺と瑠璃似てるかあ？」

亮「だが、瑠璃の言うとうり、デュエルには人のなりが現れる、デュエルで嘘はつけない」

翔「デュエルってそんなに奥深いのかなあ」

レイ&瑠璃「デュエル!!」

レイ「僕の先攻、ドロー!」

レイ「僕は『恋する乙女』、召喚!」

レイ「そしてカードを1枚伏せ、ターンエンド」

瑠璃「よおし、私のターン!ドロー!」

瑠璃「ふうむ…私はフィールド魔法『伝説の都 アトランティス』を発動!」

レイ「いきなりフィールド魔法!?!」

瑠璃「そして『ブリザード・ファルコン』召喚!」

ブリザード・ファルコン『キキキ!マスターマスター!ナンダカパワーガミナギル

ゼット!ブワーツチャツチャツティイカモメ!?!』

どうやら喋れたらしいです、しかも結構くせ強い

瑠璃「よおし、そして『ブリザード・ファルコン』の効果!つとの前に『アトランティス』の効果でレベルは1つ下がりが、攻守は200アップしてる!」

ブリザード・ファルコン

レベル4 ▶ 3

ATK1500 ▶1700

DEF1500 ▶1700

瑠璃「そして『ブリザード・ファルコン』の効果！このカードの攻撃力が元々の攻撃力より高くなった時発動！相手に1500のダメージを与える！」

ブリザード・ファルコン『キキキキキ！殺ッテヤルゼロ！クライナイトメア！』

動きはかつこいいのになあ…なんだか残念

レイ「グウ!!」

LP4000 ▶2500

瑠璃「カードを1枚伏せてターンエンド」

レイ「くっ、僕のターン！ドロー！」

レイ「僕は『ブリザード・ファルコン』を攻撃！一途な想い！」

恋する乙女『ファルコンさくん！私の想い！受け取ってえく！』

ブリザード・ファルコン『マスター！マスター！マスター！ナンカアイツヤバソウダンゴムシ！

カイヒサセテクレメンス！』

瑠璃『はあ、しょうがないなあ』

瑠璃「永続罨! 『潜海奇襲』発動!」

瑠璃「『ブリザード・ファルコン』をエンドフェイズまで除外する事で、このターン私の魔法、罨カードは破壊されない!」

レイ「でも戦闘ダメージは受けてもらおうよ!」

恋する乙女『えいつ!』

瑠璃「つつ、まあこれぐらい安いものだよ」

LP4000 ▶ 3600

レイ「カードを2枚伏せてターンエンド」

瑠璃「エンドフェイズに『ブリザード・ファルコン』は戻ってきて、そしてまた元々の攻撃力が上回っている為ダメージを与える!」

レイ「その瞬間罨カード『ダメージ・ダイエツト』発動!このターン私へのダメージは半分になる!」

LP2500 ▶ 1750

ブリザード・ファルコン『アリリ? ナンダカチヨウシガデナカツタランチュラ? イツタイドワイウコトリケラトプス?』

ちよつと鬱陶しくなってきたなあ

瑠璃「私のターン!」

瑠璃「さあて、動きますか」

レイ「まだ本調子じゃないの!？」

瑠璃「まあ、このまま押せばいけるだろうけど……もう少し魅せプレイつてのもししてみたいなど、という訳で魔法カード『強欲なウツボ』発動!手札の水属性モンスターを2体デツキに戻して3枚ドローする」

強欲なウツボ

通常魔法

手札の水属性モンスター2体をデツキに戻しシャッフル。その後3枚ドローする

瑠璃「よし、ドロー!……これならいけるかな、私は『ガガギゴ』を通常召喚!」

ガガギゴ

レベル4 ▶ 3

水属性 爬虫類族

ATK1850 ▶ 2050

DEF1000 ▶ 1200

かつて非道な心を持っていたが、ある人物に出会う事で正義の心に目覚めた悪魔の若

ガガギゴ『マスター！オレは何時でも準備OKだZe！』
 今ちよつと語尾に癖があつた気がしたけど気のせいかな？

瑠璃「さらにフィールドに鳥獣族がいることにより『霊水鳥シレーヌ・オルカ』を特
 殊召喚！」

霊水鳥シレーヌ・オルカ

レベル5 ▶4

ATK2200 ▶2400

DEF1000 ▶1200

シレーヌ・オルカ『マスター、お久しぶりです…さあ皆さん！このターンで終了させる勢いでいきますよ！』

ブリザード・ファルコン『オウ！マカセテオケミカル！』

ガガギゴ『任せるんだZe！』

皆やる気でお母さんとっても満足です！でもガガギゴ…お前語尾の癖が凄いな

レイ「この瞬間墓地の『ダメージ・ダイエツト』の効果！除外する事でこのターン僕へのダメージは全て半分だ！」

瑠璃「うくん、2400+1700+2050…勝ってない？」

レイ「あつ」

瑠璃「バトル！全員で『恋する乙女』に攻撃！」

レイ「きやあああ!!」

LP1750 ▶ 0000

瑠璃「ふいっつと、いやあ楽しいデユエルだったよ」

十代「オーイ！瑠璃ー！」

瑠璃「お、十代じゃん！どうだった？私の水属性デッキは？」

十代「すげえよ！俺の時にもガガギゴ出して欲しかったなあ！」

瑠璃「ハツハツハツ！やっぱり十代と話すとき楽しいや！」

その後はレイがカイザーに告白するも玉砕、明日香に恋とは何かを諭されたのかレイも心機一転するために小学校に戻ることを決めた

翌日

瑠璃「いやあ、レイも凄いいねえ、好きな人に会いたいが為にここまでするなんて」

明日香「あら、貴女も誰かさんの為ならどんな事でもしそうだけど？」

瑠璃「へっ!?わ、私にはそういう相手はいないから!!」

その後、レイはしっかりと十代に惚れて「十代様〜!」と言いながらアカデミアから去る…はずだった

レイ「瑠璃も! 亮様との恋が実るといいね〜!!」

この子、最後の最後にとんでもない爆弾を落としていったのだった

16話 まさかの三つ巴!三沢VS十代VS瑠璃! (前編)

瑠璃「わ、私が学園対抗戦に?」

有り得ない、ここはカイザーが辞退し、十代を推薦、そしてクロノス先生がそれを良く思わず三沢くんを推薦…のはずなのに

鮫島校長「ええ、遊条瑠璃くんは筆記テスト、実技テストでの総合点数トップ、三沢大地くんは筆記テストをトップで実技も第4位という成績、そして遊城十代くんは筆記こそ伸び代がありますが実技第2位を取っています。だからこそこの3人、オシリスレッド、ライイエロー、オベリスクブルーの生徒のトップに出てもらいたいと思ったのです」

あれ私成績優秀なのか、総合トップって事は両方2、3位はいつてるのか…なら明日香でも良くない?

瑠璃「私よりブルー代表なら明日香や亮さんがいるんじゃない?」

とりあえずカイザーの名前も…だって一応辞退した事は聞かされてないことになつてるし

鮫島校長「天上院くんは辞退し、実は相手も1年と言うことで、こちらも1年を出そうと」

瑠璃「なるほど、それじゃカイザー亮は出るにも出れ…へっ？明日香が辞退？」
それはマジで？

鮫島校長「代表を辞退したい？理由としては？」

明日香「はい、私より瑠璃の方が実力が上と判断し、瑠璃の方がこの学園対抗戦の代表に相応しいと考えたからです」

鮫島校長「…分かりました、天上院くんの意見を尊重しましょう」

鮫島校長「という訳なのです」

瑠璃「私の意見は尊重しないのですね」
やっぱり鮫島は鮫島やの、偶にこのジジイって思う

鮫島校長「この学園対抗戦、勝った方には優勝賞品が与えられる…この戦い、絶対に勝利して欲しいのです！」

瑠璃「うっ、そうせがまれると…」

「と言っても優勝賞品はトメさんのKISSなんだよなあ…私にとってその光景はKISSなんだけど…」

鮫島校長「この学園対抗戦は対一の一本勝負…だからこそ3人の中で一番強い決闘者に戦って貰いたいのです、十代くんも三沢くんもとても気合いが入っている…頑張って励むように」

瑠璃「はあ、わかりました…」

ブルー女子寮自室

瑠璃「納得いかない」

なぜだ、私はあの2人がガチで戦う時を見たいのに…おのれ鮫島許すマジ

薫「どうしたんですかいきなり」

ラビエル「…コロス(ウリア)「おっとそれ以上はいけない」

ウリア「…見た感じだと、自分は介入しなくていいかあ、って思ったものに介入させ

られた感じですか？」

瑠璃「よくわかったねウリア？もしかして超能力者？って、幻魔だからわかるのか」
ウリア「そうですね、幻魔だから分かるのです」

アストラム『というか話の主旨が変わってるような』

マスター『そうだよ！マスター、今回はどのデッキを使うの？』

瑠璃「うん…」

私が悩んでいるとバアン！と私の部屋のドアが勢いよく開いた、開いた扉の先には我がらが御曹司、海馬瀬人様が勢いよく部屋に入ってきた

海馬「遊条瑠璃！貴様学園対抗戦に出場するそうだな」

瑠璃「か、海馬社長！？確かに出ますけど」

海馬「貴様の中で最も好んでいるデッキを使いそのデュエルに勝利しろ、もし勝利したのであればある程度の事は黙認してやる」

瑠璃「え、何をいきな…！わかりました…もし、私が代表になったなら…思う存分暴れてもいいですね？」

私のこの提案、先の戦いを見越してである、もちろんセブンスターズや、白の結社の様な奴らに対抗する為にはある程度のカードを黙認して貰わないと動くにも動けない、まあ世界の危機なんだからしょうが無いよね

海馬「ふうん、アカデミア内…いや、非公式戦ならば許可しよう」
交渉成立…ヤツタネ!

瑠璃「ふふふ」

海馬「ふはは」

瑠璃&海馬「アツハツハツハツハツ!!」

ハモン『なんですかアレ』

ウリア『頭のネジが数本ぶっ飛んでるんですよ』

ラビエル『だとしても何故好んでいるデツキを条件に…?』

アストラム『御曹司様の考えることは分からないってやつですね』

マスカレーナ『マスター…ご愁傷さま』

翌日

クロノス「ソレデーワ!コレヨリ学園対抗戦の代表を決めるデュエルを開始する
ノーネ!」

三沢「十代!遊条!悪いが俺が勝たせてもらう」

十代 「いいや！俺が勝つ！」

瑠璃 「残念だけど、私が勝つよ！」

三沢 & 十代 & 瑠璃 「デュエル!!!」

3人LP4000 手札5枚

三沢 「俺のターン！ドロー！」 手札6枚

三沢 「俺は、『カーボネドン』を守備表示で召喚！」

カーボネドン

レベル3

地属性 恐竜族

ATK800

DEF600

「カーボネドン」の②の効果は1ターンに1度しか使用できない。

①：このカードが炎属性モンスターと戦闘を行うダメージ計算時に発動する。このカードの攻撃力は、そのダメージ計算時のみ1000アップする。

②：自分メインフェイズに墓地のこのカードを除外して発動できる。手札・デッキからレベル7以下のドラゴン族の通常モンスター1体を守備表示で特殊召喚する。

三沢「カードを2枚伏せ、ターンエンドだ」

三沢LP4000 手札3枚

モンスター『カーボネドン』(守)

魔法&罠 セット2枚

翔「ええ〜?3つ星モンスターで守備力600なんて、防御にもつかえないよ?」

薫『カーボネドン』には…墓地にいる時にある効果があります、それを狙ってるのでしよう」

明日香「あら、貴女も色んなカードを知ってるのね」

薫「瑠璃さんの受け売りですが、ある程度知識は着いてますよ」

亮『瑠璃…お前はこのデュエル、どうやって勝つつもりだ…』

海馬『ふうん、このデュエル、デュエルモンスターズを大きく変える可能性があるデュエル、精々利用させてもらうぞ、遊条瑠璃』

十代「いくぜえ!俺のターン!」手札6枚

十代「最初っから飛ばすぜ！『融合』発動！」

確か…融合を発動する時に『封魔の呪印』が…!?

瑠璃「まって！十代！」

十代「へっ？」

十代は呆気にとられた声を出したがもう遅い、三沢くんはニヤリと獲物がエサに食い付いたのを見たように笑い

三沢「瑠璃は勘づいたようだが遅い！カウンター罠！『封魔の呪印』！この罠は俺の手札にある魔法カード一枚を捨て、魔法の発動を無効にし破壊する！そして！相手はこのデュエル中、この効果で破壊された同名カードを発動することが出来ない、そして！この効果は瑠璃にも適用される！」

封魔の呪印

カウンター罠

手札から魔法カードを1枚捨てる。魔法カードの発動と効果を無効にし、それを破壊する。相手はこのデュエル中、この効果で破壊された魔法カード及び同名カードを発動する事ができない。

十代「なっ!? 融合できねえの!？」

瑠璃「っ、だからまって! って言ったじゃん!」

十代「わ、悪い」

薫「瑠璃さん、熱くなりすぎですよ…」

亮「十代も熱が入ってるな」

明日香「2人とも、気合いが空回りしてるわね」

海馬『ふうん、これぐらいの逆境は返してもらわないとな…』

十代「仕方ねえ『E・HERO バーストレディ』を攻撃表示で召喚!」

E・HERO バーストレディ

レベル3

火属性 戦士族

ATK1200

DEF800

炎を操るE・HEROの紅一点。紅蓮の炎、バーストファイヤーが悪を焼き尽くす。

十代「カードを1枚伏せて、ターンエンド！」

十代LP4000 手札3枚

モンスター『バーストレディ』（攻）

魔法&罨 セット1枚

瑠璃「私のターン！ドロー！」

瑠璃「私は手札のモンスターを1体墓地に送ることによって『サイバー・ドラゴン・ネクステア』を特殊召喚！」

サイバー・ドラゴン・ネクステア

レベル1

光属性 機械族

ATK200

DEF200

このカード名の②③の効果はそれぞれ1ターンに1度しか使用できない。

①：このカードのカード名は、フィールド・墓地に存在する限り「サイバー・ドラゴン」として扱う。

②：手札からこのカード以外のモンスター1体を捨てて発動できる。このカードを手札から特殊召喚する。

③：このカードが召喚・特殊召喚に成功した場合、攻撃力または守備力が2100の、自分の墓地の機械族モンスター1体を対象として発動できる。そのモンスターを特殊召喚する。この効果の発動後、ターン終了時まで自分は機械族モンスターしか特殊召喚できない。

瑠璃「そして『ネクステア』の効果!墓地にいる攻撃力、または守備力が2100の機械族モンスターを墓地から特殊召喚する!こい!『サイバー・ファロス』!」

サイバー・ファロス

レベル1

光属性 機械族

ATK0

DEF2100

このカード名の③の効果は1ターンの1度しか使用できない。

①：このカードは自分フィールドの機械族モンスター1体をリリースして手札から特殊召喚できる。

②：1ターンの1度、自分メインフェイズに発動できる。自分の手札・フィールドから、機械族の融合モンスターカードによって決められた融合素材モンスターを墓地へ送り、その融合モンスター1体をEXデッキから融合召喚する。

③：自分の融合モンスターが戦闘で破壊された時、墓地のこのカードを除外して発動できる。デッキから「パワー・ボンド」1枚を手札に加える。

瑠璃「そして！『サイバー・ファロス』の効果！融合を行うー！」

三沢「何っ!？」

十代「モンスターで融合だっ!？」

瑠璃「私はフィールドの『サイバー・ドラゴン・ネクステア』と、手札の『サイバー・ドラゴン・ヘルツ』で融合！『キメラティック・ランページ・ドラゴン』!!」

キメラティック・ランページ・ドラゴン

レベル5

閥属性 機械族

ATK2100

DEF1600

「サイバー・ドラゴン」モンスター×2体以上

このカードの融合召喚は上記のカードでしか行えない。

①：このカードが融合召喚に成功した時、このカードの融合素材としたモンスターの数までフィールドの魔法・罠カードを対象として発動できる。そのカードを破壊する。

②：1ターンに1度、自分メインフェイズに発動できる。デッキから機械族・光属性モンスターを2体まで墓地へ送る。このターン、このカードは通常の攻撃に加えて、この効果で墓地へ送ったモンスターの数まで1度のバトルフェイズ中に攻撃できる。

三沢 「融合モンスター!?!」

十代 「すげえ!融合なしで融合モンスターを出せるのか!」

瑠璃 「三沢くん:君は私と十代は『融合』が無いとデッキが回らないと思ってた?」

三沢 「いや:だが別のカードで代用するとは思わなかった:そこは俺のミスだな」

瑠璃 「自分のミスをキチンと認めれるのって凄いことだよ:まあ私は勝つ気ではないけどね!『サイバー・ドラゴン・ヘルツ』の効果!墓地、又はデッキにいるこのカード以

外の『サイバー・ドラゴン』を手札に加える!」

サイバー・ドラゴン・ヘルツ

レベル1

光属性 機械族

ATK100

DEF100

このカード名の②③の効果は1ターンに1度、いずれか1つしか使用できない。

①：このカードのカード名は、フィールド・墓地に存在する限り「サイバー・ドラゴン」として扱う。

②：このカードが特殊召喚に成功した場合に発動できる。このカードのレベルをターン終了時まで5にする。この効果の発動後、ターン終了時まで自分は機械族モンスターしか特殊召喚できない。

③：このカードが墓地へ送られた場合に発動できる。自分のデッキ・墓地からこのカード以外の「サイバー・ドラゴン」1体を選んで手札に加える。

三沢「デッキ圧縮もできるのか…」

瑠璃「私は墓地の『サイバー・ドラゴン・ネクステア』を手札に加える!」

十代「えっ?! 『サイバー・ドラゴン』を手札に持つてくるはずだろ? なんで『ネクステア』を手札に持つてこれるんだ?」

瑠璃「ふっふっふっ 『サイバー・ドラゴン・ネクステア』も『ヘルツ』もフィールド、墓地にいる時は『サイバー・ドラゴン』として扱える!」

瑠璃「まあ初めはこれぐらいで、カードを1枚セットしてターンエンド:あ! 『ランページ』の破壊効果使うの忘れてたアアア!!」

瑠璃LP4000 手札3枚

モンスター

『キメラティック・ランページ・ドラゴン』(攻)

『サイバー・ファロス』(守)

魔法&罠 セット1枚

三沢「やっと俺のターンか、ドロー!」

三沢「俺は『オキシゲドン』を攻撃表示で召喚」

オキシゲドン

レベル4

風属性 恐竜族

ATK1800

DEF800

①：このカードが炎族モンスターとの戦闘で破壊され墓地へ送られた場合に発動する。お互いのプレイヤーは800ダメージを受ける。

三沢 『『オキシゲドン』で『バーストレディ』に攻撃！』

十代 「ぐわあ!!」

LP4000 ▶ 3400

三沢 「ターンエンドだ」

三沢 LP4000 手札2枚

モンスター

『カーボネドン』（守）

『オキシゲドン』（攻）

魔法&罨 セット1枚

十代「俺のターン!ドロー!」

十代「俺は魔法カード『オー オーバーソウル』発動!」

オー オーバーソウル

通常魔法

①：自分の墓地の「E・HERO」通常モンスター1体を対象として発動できる。そのモンスターを特殊召喚する。

十代「俺は『バーストレディ』を召喚!」

十代「さらに魔法カード『天使の施し』発動!」

十代「3枚ドロして、2枚墓地へ送る!」

十代「そして!『E・HERO エッジマン』を召喚!」

E・HERO エッジマン

レベル7

地属性 戦士族

ATK2600

DEF1800

①：このカードが守備表示モンスターを攻撃した場合、その守備力を攻撃力が超えた分だけ戦闘ダメージを与える。

瑠璃『このタイミングでエッジマン？…やっぱり色々と物語が滅茶苦茶になってる…私の、せい…か』

三沢「！…『ネクロダークマン』か」

E・HERO ネクロダークマン

レベル5

闇属性 戦士族

ATK1600

DEF1800

①：このカードが墓地に存在する限り1度だけ、自分はレベル5以上の「E・HERO」モンスター1体をリリースなしで召喚できる。

瑠璃「さすが十代…」

十代「バトル! 『エッジマン』で『サイバー・ファロス』を攻撃!」
瑠璃「グツ!」

LP4000 ▶ 3500

十代『エッジマン』が守備表示モンスターに攻撃した場合、相手の守備力を超えている分、ダメージを与える!」

三沢「さすが十代だな、融合無しでも直ぐに別の戦略で戦う」

十代「俺のHEROは融合だけじゃない、魔法、罠、モンスターとの連携で行われるコンボも、HEROの強さだ!」

瑠璃「ふふつ、やっぱり十代のデュエルはいつ見ても面白い…だからこそ、勝利のしがいがある!」

三沢「ああ、そして俺もこの勝負、決して負けるつもりは無い!」

十代「俺だって負けるつもりなんて無い!カードを1枚伏せてターンエンド!」

十代LP3400 手札3枚

モンスター

『バーストレディ』

『エッジマン』

魔法&罨 セット2枚

十代『融合が使えない：こりやあマジでやべえな』

三沢『だがまだデュエルは始まったばかり』

瑠璃『必ずこのデュエル』

『『『勝つ!!』』』

17話 まさかの三つ巴! 三沢VS十代VS瑠璃!

(後編)

このターンで決着はつけるのは難しい、それはわかってはいる…

だが私はみえてしまった…いつから居るか分からないが、海馬社長がそこには居た
瑠璃『なんで!?なんで居んの!?!』

流石に私も思考が混乱する、それは無理もない
だっているとは思わないじゃん

瑠璃『んん?あれって…』

私は海馬社長の手元をよく見ると、黒い枠に覆われたカードを私に見せるように出して
いた

海馬『エクシーズモンスターを出せ、そして勝利しろ』

私にはこう聞こえた

瑠璃『いやいやいやこのターンでは無理ですって!?!』

私はガタガタと首を横に振る、すると海馬社長は

海馬『ならばこのターンにエクシーズモンスターを出せ』

瑠璃『んな事したら私に変に見られるじゃないですか!?!』

海馬『知らん、やれ』

瑠璃『そんな横暴な!?!』

この人エクシーズズンだけ出して欲しいんだよ…しようがない…やるか

瑠璃「私のターン！ドロロー！」手札5枚

瑠璃「私は手札のモンスターを墓地に送り『ネクステア』を特殊召喚！そして効果発動！いまさつき墓地に送った『サイバー・ドラゴン』を特殊召喚！」

サイバー・ドラゴン

レベル5

機械族 光属性

ATK2100

DEF1600

①：相手フィールドにのみモンスターが存在する場合、このカードは手札から特殊召喚できる。

瑠璃「そして手札から『サイバー・ドラゴン・ドライ』を召喚!」

サイバー・ドラゴン・ドライ

レベル4

機械族 光属性

ATK1800

DEF800

①：このカードのカード名は、フィールド・墓地に存在する限り「サイバー・ドラゴン」として扱う。

②：このカードが召喚に成功した時に発動できる。自分フィールドの全ての「サイバー・ドラゴン」のレベルを5にする。この効果を発動するターン、自分は機械族モンスターしか特殊召喚できない。

③：このカードが除外された場合、自分フィールドの「サイバー・ドラゴン」1体を対象として発動できる。このターン、そのモンスターは戦闘・効果では破壊されない。

瑠璃「『ドライ』の効果! 私のフィールドの『サイバー・ドラゴン』のレベルを全て5にする!」

サイバー・ドラゴン（ネクステア）

レベル1 ▶ 5

サイバー・ドラゴン

レベル5

サイバー・ドラゴン（ドライ）

レベル4 ▶ 5

瑠璃「そして…私は『ドライ』と『ネクステア』でオーバーレイネットワークを構築

！」

ドライとネクステアは光の玉の様なものになり渦の中に取り込まれる

十代「オーバーレイ？」

三沢「ネットワーク？」

薫「瑠璃さん…まさか…」

明日香「瑠璃…何をするつもり？」

みんな聞いた事ない召喚方に驚くだろう、私もだよ、だって今ここでやると思わなかったからね

瑠璃「さあ、機械竜の新たな姿をとくと見よ! エクシーズ召喚! ランク5 『サイバー・ドラゴン・ノヴァ』!!!」

サイバー・ドラゴン・ノヴァ

ランク5

機械族 光属性

ATK2100

DEF1600

機械族レベル5モンスター×2

①・iターンに1度、このカードのX素材を1つ取り除き、自分の墓地の「サイバー・ドラゴン」1体を対象として発動できる。そのモンスターを特殊召喚する。

②・iターンに1度、手札及び自分フィールドの表側表示モンスターの中から、「サイバー・ドラゴン」1体を除外して発動できる。このカードの攻撃力はターン終了時まで2100アップする。この効果は相手ターンでも発動できる。

③・このカードが相手の効果で墓地へ送られた場合に発動できる。EXデッキから機械族の融合モンスター1体を特殊召喚する。

三沢 「な、何だこのモンスター!?!」
十代 「うおおお! すごい!?! なんだコイツ!」

海馬 「フハハハハ!」

あの人の高らかな笑い声が聞こえる、やってくれたなああの社長:

「社長おおおおお!!」

そりや驚くよ、まあ海馬社長はそのまま話し始める

海馬 「アカデミアの生徒達よ! これこそが新たなデュエルの進化! エクシーズ召喚だ! さあ遊条瑠璃! 貴様のタクティクスを見せてみる!」

「遊条のやつ海馬社長と知り合いなのか!」

「海馬社長と知り合いとか羨ましすぎるだろ!」

瑠璃 「つ、ああもうどうにでもなれ! 『サイバー・ドラゴン・ノヴァ』の効果! オーバーレイユニットを一つ取り除くことで墓地の『サイバー・ドラゴン』を特殊召喚する! こい! 『サイバー・ドラゴン・ヘルツ』!!」

瑠璃 「さらに、私は『サイバー・ドラゴン・ノヴァ』でもう一度オーバーレイ! エク

シーズ召喚!!」

瑠璃「無限の進化をし続ける機光竜、その究極の姿を顕現せよ! ランクアップエクスシーズチェンジ!! 出でよランク6 『サイバー・ドラゴン・インフェニティ』!!」

サイバー・ドラゴン・インフェニティ

ランク6

機械族 光属性

ATK2100

DEF1600

機械族・光属性レベル6モンスター×3

「サイバー・ドラゴン・インフェニティ」は1ターンの1度、自分フィールドの「サイバー・ドラゴン・ノヴァ」の上に重ねてX召喚する事もできる。

①：このカードの攻撃力は、このカードのX素材の数×200アップする。

②：1ターンの1度、フィールドの表側攻撃表示モンスター1体を対象として発動できる。そのモンスターをこのカードの下に重ねてX素材とする。

③：1ターンの1度、カードの効果が発動した時、このカードのX素材を1つ取り除

いて発動できる。その発動を無効にし破壊する。

瑠璃「そして『インフェニティ』の効果！フィールドに存在する表側攻撃表示のモンスターを自身のオーバレイユニットにする！対象は『サイバー・ドラゴン』！『インフェニティゲイン』！」

『サイバー・ドラゴン』は光色の球体になり、『インフェニティ』の周りを漂う

瑠璃「そして『インフェニティ』は自身のオーバレイユニットの数、すなわち『ネクステア』『ドライ』『ノヴァ』『サイバー・ドラゴン』、この4体×200ポイント攻撃力をアップする！」

サイバー・ドラゴン・インフェニティ

ATK2100 ▶ 2900

三沢「攻撃力2900だと!？」

十代「おお！すげえ!？」

瑠璃「バトル! 『サイバー・ドラゴン・インフェニティ』で、『カーボネドン』を攻撃! 『エヴォリション・インフェニティ・ショットー!!』」

私が攻撃している時、鮫島校長は電話を取っていた、何か話でもあるのだろうか
鮫島校長「はい、おおこれはまた何故連絡を?…はい…ふむ…ほお、これはまた…分
かりました、では後日」

電話を切ると鮫島校長は立ち上がり
鮫島校長「申し訳ないですが、このデュエル、一旦中止にさせていただきます」

・・・は?

「ハアアアアアアアアアア」
!!!????

かくして、私たち3人の思いが交差したデュエルは、たった一つの電話により中断さ
れた…やっぱり鮫島許すまじ

18話 瑠璃のエース

瑠璃「な、なんで中止に？」

十代「そうだけ校長くんでだよー」

三沢「そうです、俺達にも納得出来るような説明を」

私たちは何故デュエルを中断されなければならいのか理由を問う、そんなでもってもちろんオーディエンス：いや、他の生徒も

「そうです！校長！なんで中止するんだ！」

「せっかく面白そうだったのに！」

「なぜじゃアアアアアアアアアア!!」

1人黒田官兵衛みたいなのがいたが気にしないでおこう

鮫島校長「とにかく、十代くん、三沢くん、遊条くん、校長室に」

…なんで急に呼び出し？

校長室

「「ええ!? 3回勝負!」」

鮫島校長「ええ、ノース校からの提案で、あちらの代表はこちらは代表候補が3人いると言ったら3回勝負がしたいと」

まさか：万丈目が3回勝負したいとは、なにか企んでるのかな：？

十代「ん? という事は：さっきのデュエルな什てことかよ!?!」

鮫島校長「申し訳ない、だが続けたいと言うならばデュエルログを巻き戻して再開すること」

校長がデュエル再開の提案をするが、私としては

瑠璃「校長、私はしません」

十代「え!?! なんでだよ! 瑠璃!?!」

瑠璃「三沢君は十代と決着つけたいと思うからさ、ね? 三沢君」

三沢君は頷く

三沢「ああ、瑠璃とはまた機会があれば、今は十代! お前に勝つために作ったデツキだからな、互いに手加減なしだ!」

十代「おう! よおし! それじゃ早速デュエルルームに行こうぜ!」

三沢「もちろんだ!」

三沢君と十代はそのまま足早にデュエルルームへと向かっていった

鮫島校長「良いのですか？」

校長が私に質問する：まあサバイバルデュエルとかはあんまり好きじゃないんだよねえ

瑠璃「私は代表戦に向けてデツキの調整をするので、それじゃ」

私もできるだけここには居たくない：もしそのまま続けると、とんでもない事になるからね

——女子寮自室——

ラビエル『さすがに代表戦はシンクロやエクシーズ：ペンデュラムやリンクは辞めるのですか』

瑠璃「まあ、こうなると叢雲ダ・イーザなんだよなあ」

改めて説明すると、「叢雲ダ・イーザ」とは、除外しまくってダ・イーザでワンパンするデツキである

ウリア『だったら機皇帝はどうすか?』

瑠璃「あれはあれでなんか次使ったら嫌な予感するんだよね」

ハモン『なら水属性デツキはどうでしょうか?』

瑠璃「うーん、動かない時は酷いんだよなあ」

そう言った瞬間部屋の扉が大きな音を立て開く……この開き方をする人間は一人しか居ない

瑠璃「何してるんですか社長!?!」

ペガサス「ミーもイマース」

瑠璃「なんで!?!」

——少し落ち着いて——

瑠璃「私が一番使ってるデツキで?」

ペガサス「ハイ、アナタの使用しているデツキの中で最も愛し…最も力が出せるデツキを使用してクダサーイ」

海馬「ふうん、貴様のデツキには精霊の力があの遊城十代とやらと同じぐらい…優れ

ているからな」

海馬社長は不本意のように優れていると言いながら私のことを見る

瑠璃「私が1番使ってるデツキ…」

私は今手に持っているデツキ…サイバー・ドラゴンのデツキを見る…

ハモン『いいと思いますよ』

瑠璃「ハモン？」

ラビエル『我らより先に使いこなし、最も自信が満ち溢れているデツキだからな…主にふさわしい』

瑠璃「ラビエル…」

ウリア『まあ、俺たちは主に従いますよ』

瑠璃「ウリア…」

私は3人の言葉を聞き、決意を固める

瑠璃「海馬社長、ペガサスさん、そうするなら…本気で勝ちにいけますよ」

私なりの鋭い目付きで2人を見る、すると社長は

海馬「ふうん、もちろんだ、エクシーズだろうがリンクだろうがどんな手を使ってで

も勝利しろ…それが遊条瑠璃、貴様の使命なのだからな」

まあたこの人らしい傲慢さを見せつけられたよ、そしてペガサス会長は

ペガサス「ユーが愛しているデッキならばきつと…勝利を掴むことがデキマース、それがデュエルモンスターズ…最高のカードゲームデース！」

この人もこの人だ、でも2人して私を励まそうとしてるのは分かる

瑠璃「なら…私も、本気で闘います！」

そう意気込んだ瞬間、私の右手が光出した

瑠璃「なっ!？」

海馬「これは…!？」

ペガサス「…ワアオ！」

瑠璃「このカード達は…」

私の手にあったのは複数枚のカードと、一枚のエクシードズモンスター

瑠璃「一体これは…」

私はそのカード達を一度海馬社長とペガサス会長に渡す

海馬「アー、ゼウス…それにこれはサイバードーク…なぜいきなりこんな事が…」

瑠璃「さあ…けどこのカード、使えるかも…」

私は閃いたのだ、このサイバードーク…見た事ないカードも混じってるが、効果は申し分ない…使える、使えるぞ！

海馬「…貴様の力かなんだか知らんが、そのカード、貴様のサイバードラゴンデッキに使えるのか？」

瑠璃「もちろん使えますけど…これって裏サイバー流と言われてて…あまり世に出してはいけな「関係ない、やれ」…ハイ」

だと思ったよ…まあ裏サイバー流ぐらいならまだ大丈夫か…な？

まあとにかく、私の新しいエース…「サイバー・ダーク・エンド」にはふさわしい対決にしなきゃね

…
万丈目には悪いけど

19話 参戦！対抗戦！

「遂にこの日が来てしまった…」

どうもこんにちは、お久しぶりな気もします。遊条瑠璃です。

本日ついにあのアカデミア対抗戦、万丈目サンダーの復活の日です。

「お久しぶりですな、鮫島校長。」

厚着の少し老けた男性、市ノ瀬校長が鮫島校長に握手をしながら挨拶をする

市ノ瀬校長の後ろには無骨で屈強な男子生徒が何人もおり、迫力がある

すると握手を終わらせるように十代が校長二人の間に入る

「なあおっさん！はやくはやく！オレの対戦相手ってどいつなんだ！」

わくわくと楽しみにしている十代にまったをかけるように一人の男が声をかける

「久しぶりだな、十代！この俺を忘れたとは言わせんぞ!!」

少し汚れた黒いコートに黒髪、少し心配になるくらいの白い肌

そう、地獄から蘇ってきた男、万丈目準である。

明日香や翔君が驚いていると十代は呆気にとられているのか、はたまた何も考えてい

ないのか、万丈目に質問をする。

「おお万丈目か、久しぶりだなあとところで俺の対戦相手って?」

君の目の前の人だよとは言わずそのままにしておくよ

「こらサンダー! わしらの紹介もせんかい!」

「そうですよサンダー、私たちも紹介してくれないと」

と聞き覚えのない声が聞こえる、1人は女の人で、もう1人は男の人だ

「お前達のことなんて勝手に紹介すればいいだろう」

万丈目が2人に少しキツく当たると、しかし2人とも確かに、となつたのか自己紹介を始める

「わしの名前は強剛きやうこう 妖あやめ! 今日にはよろしく頼むぞ! がはははは!」

私くらい長の黄色い髪がながびきながらドンつと仁王立ちし、強剛 妖は自己紹介をする…胸部もだいぶあるようで男子生徒のほとんどはソコに釘付けになっている…

「では私も、私は加賀美かがみ 享介きやうすけ…このバカと万丈目サンダーとはほぼ同期のようなものです、まあ漂流して来た万丈目サンダーとは違い一般受験でしたがね」

赤い髪と赤い目にノース校の制服(?)を赤色に仕立てたのか、ほぼ全身赤色の彼、加賀美 享介はお辞儀をして自己紹介と、とても礼儀正しい人物のように見える

にしても万丈目と違い一般受験となると、万丈目のようにアームドラゴンや異次元ヘルデツキ(ノース校での勝ち抜きデュエルで使用していた物)とは全く毛色が違う

デッキということは確定だろう。

そうなると対戦カードによって色々荒れるかもしれない……

少し思考を巡らしていると鮫島校長がペアを決めるための提案が挙げられた

「それでは、この箱の中にそれぞれ同じ種類のカードのペアを3つ、計6枚のカードを入れます、順々に引いていき同じ種類のカード同士のパアのデュエルと行きましょう」

要はくじ引きである……となると万丈目V S 十代の試合にならないような気がするが「よおし……じゃあまずオレから！ドロー！お、魔法カードか」

十代が勢いよくカードを箱から引くと緑色のカード、つまり魔法カードが手元に来た。

すると万丈目も箱へ近づき

「なるほどな、貴様と戦うには……コイツを引けばいい事お！」

と万丈目も箱からカードを引くと手元には緑色……つまり魔法カードと言うことで、万丈目V S 十代の試合は確定した……

『いやこの人ら運命力高すぎるって!!何自然に万丈目は魔法カード引いちやうの!して何だみんなしてさも当然のようにしてえ!なんだ!私か!私がおかしいのか!!』

と少し変に動揺したが、次は三沢つち……三沢くんがカードを引いた

「ふむ、罨カードか」

とフツッな反応をした三沢くんが続いて強剛 妖がカードを引いた

「とりやあ!…うむ、モンスターカードじゃ」

どうやら三沢くんとは当たらなかつたそうだ…つまり私とじゃないか???

「と、なりますと…三沢くんは加賀美くんと、遊条くんは強剛くんと対決になりますな」
鯨島校長が残りの対決ペアを発表した瞬間、数台のヘリコプターが島にやってきた
……来たか3バカ兄弟

「準!」

ヘリコプターに乗っていた男性の中からもみあげが濃い男、万丈目三兄弟長男の長作、そしてその隣にいる目つきの鋭い男、次男の正司、大声で叫ぶような声で

「お前たちのデュエルは!この万丈目グループによって!全国中継させてもらう!」
その言葉に十代は驚きつつも、みんな共々準備に取り掛かる。

—デュエルルーム—

「ま、ままマサーカこの私が、全国に放送されるナンバーテ」

カチコチになっているクロノス先生をしり目に三沢くんと加賀美君は話し始める。

「三沢くん…でしたっけ、なんだか似たような雰囲気を感じますよ」

「そうかい、俺も偶然か君に近いしものを感じたよ」

2人とも互いを認識しつつ警戒をしながら決闘盤を構えるとクロノス先生は咳払いをし、第1回戦の開始宣言を始める

「ソレデーワ！第1回戦！ノース校シヨール加賀美 享介！対する本校三沢 大地！デュエル…スタートナノーネ！」

「デュエル！！」